

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・これから暑くなる時期を迎えて、人の動きが盛んになる。また、祭りやイベントも増えるため、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・全体の来客数は横ばいだが、客単価が上がってきており、購買力は確実に高まってきている。今後もこの傾向は続くと思われる。少しずつ景況感が好転する。
		百貨店（販売促進担当）	・継続的な来客数の増加が今後も続くことで景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・8月に新型車が発売される。その車種は目玉商材で確実に売れることが見込めるため、9～11月にかけて販売台数のかなりの増加につながり、景気は上向きになる。
		乗用車販売店（従業員）	・今年の夏季休暇は新作スマートフォン向けゲームを片手に温泉や観光地に出かける人が多くなりそうのため、景気が良くなる。
		スナック（経営者）	・参議院選挙の結果を受けて、現政権の経済対策が少しずつ効果を上げていくことが期待できる。
		タクシー運転手	・北海道新幹線の開業効果が引き続きみられることになる。ただし、観光客の入込は秋以降、特に冬期間は厳しくなる。
		通信会社（社員）	・例年、秋口にはモデルチェンジが行われる機種が発売されるため、販売量などは一時的に伸張する。
	住宅販売会社（経営者）	・大型補正予算の編成に伴い、建設業などに徐々に効果が出ていくことが期待できる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・天候不順で農作物の出来が悪いという報道や中心商店街の百貨店の撤退など、暗い話題ばかりで明るい未来がみえない。
		商店街（代表者）	・北海道の場合、夏場の景気について天候による影響が少ないこともあり、3か月後も景気に変化はなく、変わらない。
		商店街（代表者）	・外国人観光客の消費動向が少し落ち着いてきた。客単価の低下はそのままだが、購買意欲は安定して推移している。また、国籍が多様化してきていることで、入込数も順調に伸びてきている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・7月は1年のなかでも一二を争う売上となる月であるが、今年はなかなか売上が伸びずに終わったため、あと2～3か月はこうした状況が続く。
		百貨店（売場主任）	・少ない来客数のなかで、プラスワンなどのセット率向上策に伴う売上が多いなど、客の購入率が上がりきっていない。外国人観光客による売上の減少もまだ数か月は続く。
百貨店（担当者）		・客単価はわずかに前年を上回っているものの、効果的な来店向上策をいまだに模索している状況であり、今後も変わらない。	
スーパー（店長）	スーパー（店長）	・これからも景気が極端に悪くなることはないが、客が守りの姿勢であるため、売上の減少に歯止めがかからず、この低迷を打破するために無為無策というのが本当のところである。何をやっても焼け石に水で、景気回復の気運も期待感も希薄になってきている。	
	スーパー（店長）	・客は価格に対して敏感であり、そうした傾向は今後も変わらない。	
	スーパー（店長）	・政治や経済情勢、市場環境に大きな変化がみられないため、今後も変わらない。	
	スーパー（店長）	・良くも悪くも状況が全く変わらないため、今後も景気は変わらない。	
	スーパー（役員）	・前年のプレミアム付商品券の反動もあり、数値的には決して良くないが、7月の平均買上点数の微増傾向からみて、8月以降も景気は悪くならない。ただ、天候の影響で果物や魚類の相場が高く推移しそうなことは気がかりである。	
	スーパー（役員）	・前年のプレミアム付商品券による効果が今年はないため、これから厳しくなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・消費増税後の傾向として、保存型商材の飲料水や菓子などはドラッグストアなどのより価格の安い店舗でまとめ買いされる傾向がみられる。また、メーカーなどの出荷量も前年を下回っているとの話から、客の消費マインドは落ち込んだまま推移している。
		コンビニ（エリア担当）	・8月からさんま漁が全面的に行われる予定であるが、引き続き不漁の恐れがある。また、コンビニエンスストアだけでなくドラッグストアの新規出店の予定もあるため、今後の売上回復は見込めない。
		コンビニ（エリア担当）	・変わる要素がないため、今後も景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・売上、来客数の動向に大きな変化がみられないため、今後、景気が大きく変わる見通しはない。
		コンビニ（オーナー）	・当店の周辺環境に変化がみられないため、今後も景気は変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・創業70周年催事、秋のきもの新作展などでの集客、売上増加を期待しているが、低温による秋の農作物の収穫への影響やさんまの不漁の影響で地元の消費経済は厳しくなる。日銀による追加金融緩和の消費者への効果もあまり期待できない。
		衣料品専門店（店長）	・来客数が増えてこないため、今後も変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・一過性の話題は多々あるが、大きく景気が回復するような話題がないため、今後の売上増加は見込めない。
		家電量販店（経営者）	・景気が上向きような材料がない。
		家電量販店（店員）	・リオオリンピックの効果に期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・7月の当社の新車販売は引き続き前年実績を上回っており、今後も堅調に推移するとみられる。ただ、当地区の軽自動車を除いた新車市場は前年水準を下回っているため、現在の傾向がそのまま続くかが気がかりである。
		自動車備品販売店（店長）	・競合店と同様に、来客数を伸ばす観点から値引きやプレゼントなどの集客施策が増えてきている。そうした施策が景気回復につながるとは思えない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・来客数、客単価が若干の上向き傾向にあるが、景気はそれほど変わらない。しばらくは様子見の時期になるだろう。
		高級レストラン（経営者）	・参議院選挙も終わり、自民党の支持率も上がっているものの、景気が良いという実感はない。鉄道運賃もじわじわと値上がりするなど、地方にとってあまり良いことはなく、景気は横ばいのまま推移する。
		高級レストラン（スタッフ）	・毎年、夏に売上が下がって、秋冬に向けて回復するという状況であるため、今後も変わらない。ただ、外国人観光客の動向が気がかりである。現在、当店に直接的な影響はないが、市内のホテルではアジア観光客が減少しつつあると聞いており、円高傾向の影響に不安もある。
		観光型ホテル（スタッフ）	・近隣のアジア圏からの外国人観光客が前年比で緩やかな減少傾向にある。一方、高単価の国内の個人旅行者が増加傾向にあり、宿泊客数が減少傾向ながらも売上が微増しており、今後もこうした傾向が続く。
		観光型ホテル（役員）	・国内客、外国人観光客ともに秋にかけての予約状況が思わしくないため、今後も変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・海外でのテロの不安が収まらず、国内も台風や震災復興の遅れが見込まれるため、景気は変わらないまま推移する。
		旅行代理店（従業員）	・当地における悪天候が基幹産業である農業に大きく影響し、地域経済全般が低迷するのではないかと懸念している。景気が上向き要素は何もないため、このまま低迷した状態で推移する。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況が例年並みのため、今後も変わらない。
		タクシー運転手	・タクシーの利用は天候やイベントに左右されるため、これから秋にかけてほぼ前年並みで推移する。
		タクシー運転手	・外国人観光客や国内旅行者の予約状況が前年並みであるため、今後については変わらない。
		タクシー運転手	・外国人観光客の消費が下降気味であり、地場経済の活力もあまり感じられないため、今後も変わらない。
		タクシー運転手	・これから夏の各種イベントが行われるため、例年並みに気温が上昇することになれば、現在わずかに減っている需要が持ち直すことになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		観光名所（従業員）	・ここ2～3か月、観光客の入込に対して北海道新幹線の開業というプラス要因と海外定期便の運休というマイナス要因がきつ抗しており、今後もその状況を変える要素が見当たらないことから、景気は変わらない。	
		美容室（経営者）	・これから先の景気に大きな変化が出てくるような気配はないが、年金生活層において年金支給月とそうでない月の来店周期の差が以前よりも顕著に表れてきていることが気がかりである。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・野外におけるイベントなどもほぼ終了しているため、当地以外から訪れる来街者が減少する。また、農業関係者などの一部の住民は観光を兼ねて札幌圏まで車で買物に出かける機会が多くなるため、当地区の物販店において売上が伸びるような要因が見当たらない。	
		商店街（代表者）	・非常に悪い状況にある。現在、地方自治体などで物産展を盛り上げようとする動きが多くなってきていることで、既存の店舗における売上が落ち込んできている雰囲気があり、今後についてはやや悪くなる。	
		百貨店（売場主任）	・長期予報によると9月は気温が高くなることが見込まれるため、秋物商戦に影響が出ることが懸念される。特に商品単価の高いジャケット関連、ニット関連への影響が懸念される。	
		百貨店（役員）	・当店の売上や新聞などの情報から、当店も他店も全く同じような状態であり、今後の景気についてはやや悪くなる。	
		スーパー（企画担当）	・世界及び日本の金融経済情勢の不透明感、社会保障制度に対する将来不安、実質賃金の伸び悩みによる生活不安など、消費者心理を冷やす状況が払しょくできていないため、当面の消費動向は厳しくなる。	
		乗用車販売店（従業員）	・今後に向けて、客の買い控えが進むことが懸念される。	
		その他専門店〔造花〕（店長）	・経済対策に不備があるため、今後についてはやや悪くなる。	
		高級レストラン（スタッフ）	・景気の減速がみられるため、今後についてはやや悪くなる。	
		旅行代理店（従業員）	・秋になると航空機の座席供給量が減少するため、外国人観光客を中心に観光客が減ることになる。一方、当地からの旅行者は修学旅行などで活発になる。	
		旅行代理店（従業員）	・9月以降の旅行の申込件数、問い合わせ件数が芳しくないため、今後についてはやや悪くなる。	
		タクシー運転手	・景気が好転するような要素が見付からない。	
		通信会社（企画担当）	・毎年9月に発売される新型端末に対する客の期待が例年よりも低いため、今後についてはやや悪くなる。	
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・例年、季節の移り変わりとともに輸送量が減少するため、今後についてはやや悪くなる。	
	住宅販売会社（経営者）	・消費税増税の再延期の影響がこれから本格的に需要の減少という形で表面化することになる。		
	悪くなる	一般小売店〔土産〕（経営者）	・従業員不足が原因で当地の老舗2社が倒産した。若者が札幌へどんどん移ってしまうため、中途退職者も多い。新規募集にかかる人件費が増加して経営を圧迫しており、今後の景気は悪くなる。	
		観光名所（職員）	・観光分野では外国人観光客の増加に伴い来客数に一定の恩恵を受けているが、すでに外国人観光客の入込が下向きとの声も聞こえてきており、今後の動向に不安が感じられる。	
	企業動向関連 (北海道)	良くなる	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・年内は売上の前年比が上向くとみている。
		やや良くなる	食料品製造業（従業員）	・円高により原材料価格が低下している。この状況が続くと原価が抑えられるため、粗利益の増加が期待できる。
輸送業（営業担当）			・今後、北海道の気候が例年並みとなれば、道内の生乳生産量、農作物収穫量のアップにつながる。あわせて、関東地区の気温が上昇することになれば、本州向けの物流が活発になる。	
通信業（営業担当）			・IT投資に積極的な取引先が増加傾向にあるため、今後についてはやや良くなる。	
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・客先の鉄骨加工業が最盛期を迎えることに加えて、当社独自の展示会イベントを開催することで、今後の売上増加が見込まれる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	食料品製造業（従業員）	・しばらくは現状の販売状況のまま推移する。
		家具製造業（経営者）	・良くも悪くも参議院選挙によって現政権が信任された形となったため、当面の経済状況に変化はないまま推移する。
		建設業（従業員）	・公共工事は現在、農業関連工事の発注が比較的進んでいるものの、今後の発注状況次第の面がある。
		金融業（従業員）	・年初と比べて円高が進行しており、その水準によってはこれまで道内景気をけん引してきた観光関連業種の業況に悪影響が生じることが懸念される。公共工事の増勢や道内観光が今後最盛期を迎えるなど、先行きに悪化を見込むまでの材料はないが、英国のEU離脱問題の影響など、国内全体に不透明感が高まっており、景気の下振れリスクが増大している。
		司法書士	・今後2～3か月は1年のうちで不動産取引が極めて多くなる時期に当たるが、現在の状況から大きな期待を持ってない。
		コピーサービス業（従業員）	・客先はどこも設備投資に慎重であることに加えて、消費に対する考え方がまだまだ保守的なため、今後も景気は変わらない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・特段、景気に変化するような要素は見当たらないため、今後も変わらない。
	やや悪くなる	建設業（経営者）	・今後、受注が一巡することになる。特に公共事業は発注が早かった分、秋枯れとなる。景気対策の補正予算が検討されているが、秋の臨時国会での決定となると財政出動における国費負担分が少ないこともあり、年度内の事業は限定され、大半は来年度への繰越となるため、景気に与える効果は少ない。
		建設業（従業員）	・下半期まで持続できる規模の建築工事がほとんどないため、現在の現場の竣工後は工事量が減少することになる。
		輸送業（支店長）	・荷主や同業からの情報では、今後もレギュラー貨物が苦戦するだろうとの見方が強く、これまでにこそ出そろったスポット物件輸送を並べても当初予算まで届きそうにもない。ただ、今後の農産物の出来次第では上向きに変化することも期待できる。
		司法書士	・不動産売買が低調ななか、不動産情報誌の広告件数も減少しており、今後、不動産取引が増加する見込みは少ない。
		司法書士	・政府の経済対策が発表されたが、地方経済の活性化が考慮されているようにはみえないため、消費が上向くことまではあまり期待できない。現状のままでは景気回復もなく、消費はますます低迷する。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・周囲の会社で人員に余剰が出る状況がみられ始めている。技術者を探すのも容易になってきた。一時的な動向が、これから下降線を描くのかは分からないが、明らかに全体の仕事量が減ってきている。
	悪くなる	-	-
雇用 関連 (北海道)	良くなる	-	-
		-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・春の北海道新幹線の開業から最初の夏を迎えて、観光関連や流通関連からの人材ニーズが高まっており、秋口まで人材需要は増加傾向で推移する。
		職業安定所（職員）	・有効求人数の増加を背景に、有効求人倍率が1.06倍と13か月連続で1.0倍超えの高水準が続いていることから、今後についてもやや良くなる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・中規模程度の建設工事や公共事業は前年と比べても多く、求人の需要に大きなずれはないとみられる。ただ、人材不足の影響が懸念される。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・観光客は増加傾向にあるが、それ以外のプラス要因が見当たらないため、今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・中国などからの外国人観光客に期待する観光業などは、海外の経済状況にも左右される傾向があるため、円高が今後に向けての不安要因となる。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・外国人観光客の増加に伴い求人数が増えていた宿泊業や飲食店、小売業などの求人が減少に転じており、全体でも過去2年の実績を下回って推移している。
求人情報誌製作会社（編集者）		・求人広告が増える要因がない。顧客も人手不足ではあるが、適当な人材が見付からないことを理由に掲載を見合わせることが多い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・直近3か月の新規求人数を前年と比較してみると、正社員求人が2か月連続でマイナスとなり、月を追うごとに減少幅が拡大している。また、大きな求人増につながるような話題もなく、当面は前年比でのマイナス傾向が続くことになる。
		職業安定所（職員）	・管内の小売業で離職者の増加が見込まれるなか、小売業と飲食業の新規求人が減少傾向にあるなど、今後、雇用面のみならず、関連企業や消費面での影響も懸念される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・家電量販店やドラッグストア、ホテルなど、外国人観光客の需要の多い業種をみても、前年までの勢いが感じられないため、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	タクシー運転手	・地元では大型商業施設が建設中であり、来年4月には他系列のスーパーも開業する予定である。このような建設計画は先を見越しているため、景気の悪いところには進出しない。そのため、景気はますます良くなっていくのではないかとみている。
(東北)	やや良くなる	商店街（代表者）	・空梅雨のまま梅雨が明ければ、ますます好天が続くことになる。そうなれば通行量も増え、来客数の増加につながるのではないかとみている。特に飲食業を中心に景気が浮揚していくとみている。
		衣料品専門店（店長）	・衣料品を扱う業種において、夏はそれほど大きなマーケットではないものの、この時期に冷夏で夏物が売れないと業績に大きく響いてしまう。ただし、今年の予報では比較的夏が長いといわれており、悪い方向にはいかないのではないかとみている。
		家電量販店（店長）	・梅雨明けが遅れているため、気温上昇に伴う季節商材の販売量のピークが前年よりも遅れる見込みである。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車イベント効果で、販売台数の更なる増加を見込んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	・政府の経済対策に期待している。好転のきっかけになってほしい。
		乗用車販売店（経営者）	・人気車のフルモデルチェンジが予定されているため、大いに期待している。
		乗用車販売店（店長）	・半期の決算月となり、新商品も発売されるため、良くなるかとみている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・低調ではあるが、地元では10月に大きなイベントが複数予定されているため、例年以上の需要を期待している。
		高級レストラン（支配人）	・国体や市内周辺イベントの開催により、客の動きが活発になるとみている。
		一般レストラン（経営者）	・来客数が増えてきており、手ごたえを感じている。この状態が当分続くことを期待している。
		通信会社（営業担当）	・帰省、旅行ビジネスなどのお盆需要で、多少は景気が良くなるとみている。個人消費も多少上向くとみているが、秋口以降の先行きは不透明である。
		観光名所（職員）	・ようやく気温が上がり始め、売れるものが変わってきている。そのため、客単価の上昇を期待している。
		競艇場（職員）	・来客数は減少しているが、8月に大きなイベントがあるため、多少は客足が戻るのではないかとみている。客単価は上昇しているため、来客数が増えれば売上も伸びるとみている。
	変わらない	商店街（代表者）	・消費者は不況慣れをしてきている。無駄を省いて身の丈に合った生活が普通となった今、人々は一時的な好景気よりも、安定した暮らし、教育、医療、福祉など将来の安定を求めているのではないかとみている。国の経済構造も拡大から安定へとしっかりと切替えなければならない。
		商店街（代表者）	・地下鉄、バスなどの公共交通機関の影響は大きく、先行きに変化が見込めない。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・アベノミクスの効果は、いまだ末端の消費マインドの向上には結びついていない。そのため、消費マインドを向上させるような新施策を展開することが必要である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・近所にあるバーのママさんの話では、7月は例年になく悪い状態であるという。街は静かで活気がなく、このような状態がずっと続くのではないかと危惧している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・医薬品、化粧品販売の低価格へのニーズはますます高まる傾向にあり、この傾向はしばらく続くとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔寝具〕 (経営者)	・ここ3か月間は、客の動きが同じ状況が続いている。梅雨が明けても売上が増加するとは考えにくい。
		百貨店(売場主任)	・クリアランスにおいても、値下げ商品を即購入するという購買動向は見受けられない。セールであっても不要不急のものに対するシビアな見方に変化はなく、来客数、単価共に回復するような要素が見当たらない。
		百貨店(総務担当)	・客との会話からは、財布のひもがかなり固くなっている様子がうかがえる。そのため、それほど景気が良くなるとは考えにくい。
		百貨店(企画担当)	・客の購買意欲に変化の兆しはみられない。
		百貨店(営業担当)	・特に大きな要因もないため、現状維持で推移するとみている。駅前の新規店オープンが一段落しているが、街なかへの誘客ができていますので、今後は市内の買い回りがあれば売上が伸びる可能性がある。
		百貨店(営業担当)	・有効求人倍率が改善したとはいえ、地方では正規雇用の求人はかなり少なく、個人所得の増加が期待できない状況である。一部の客層に景気の回復が見受けられるものの、まだまだ節約傾向が続くとみている。
		百貨店(売場担当)	・この先の景気回復が見込めないなかで、顧客離れが進んでいる。また、量販店やネット販売など、自分のライフスタイルに合わせて買物の仕方を選べる時代において、百貨店の存在は非常に厳しく、今後大きく良い方向に変化するとは考えにくい。
		百貨店(経営者)	・ここ半年の販売量の動きに変化がなく、現在の流れが基調となっている。一方で、円高推移によりインポート商品の値下げなどが出てきているため、多少は消費喚起に結びつくことを期待している。
		スーパー(経営者)	・景気が好転するような要因が見当たらない。
		スーパー(経営者)	・消費マインドの低下傾向は前月より顕在化してきており、一時的なものではないように見受けられる。今後、大きな経済政策が予定されていることから、消費の向上、経済浮揚に結びつくことを期待している。ただし、消費マインドの低下傾向は、根本的、構造的な問題のため、しばらくは続くのではないかとみている。
		スーパー(店長)	・8月は前年より日曜日が1回少ないため、あまり来客数の増加が見込めない。また、9月以降も現状と変わらずに推移するとみている。
		スーパー(店長)	・3～7月にかけての売上が、前年を上回りつつあるも、全体的にはそれほど大きな動きがないことから、今後も現在と同様の状況が継続するとみている。
		スーパー(店長)	・客の節約志向が強く、必要なもの以外を購入しない傾向は続くともみている。
		スーパー(総務担当)	・ガソリン価格は低下しているが、今のところ猛暑になる気配はなく、景気は小康状態で推移するのではないかとみている。
		スーパー(営業担当)	・オリンピックなどの大きなイベントが終わり、特に景気を左右するような経済の動きもないため、現状と変わらないのではないかとみている。
		スーパー(営業担当)	・出店競争のなか、限られた商圈内でパイの奪い合いをしており、競合店との価格競争がますます激しさを増している。景気が回復するような気配は一向にみられず、経営は一層厳しさを増してきている。
		コンビニ(経営者)	・来客数を除けば底堅い動きであり、それほど悪化の一途をたどっているわけではない。前年比や3か月比でも、買上点数、客単価などは横ばいで推移している。
		コンビニ(経営者)	・近隣に競合店が出店する情報もなく、このままの状態が続くとみている。
		コンビニ(エリア担当)	・梅雨明けが例年より遅いため、盛夏期の売上が前年比でマイナスとなる可能性がある。
		コンビニ(エリア担当)	・景気が悪くなっているという印象はないが、良くなっているという実感もない。
		コンビニ(エリア担当)	・競争環境が激化しているが、今後天候が良くなることで、持ち直しが期待できる。
		コンビニ(エリア担当)	・来客数が停滞しており、今後の増加要因も見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・8～9月は例年天候に左右される傾向にあるが、消費マインドについては今より良くも悪くもなるような材料がない。ただし、デフレ傾向になりつつあるという実感は持っている。
		コンビニ（店長）	・新規の取引見込みはあるものの、それが短期取引ないしは利用頻度の低い取引であり、売上がプラスには至らない可能性は大きい。
		衣料品専門店（経営者）	・どのようにして得意先を増やすのか頭の痛いところである。価格や品質だけでは勝ち目がない。そのため、特異性のある商品開発を心がけることに、全社員が傾注している。
		衣料品専門店（経営者）	・客との会話からも、景気が良くなるとは思っていない様子が見える。
		衣料品専門店（店長）	・夏物は天候に左右されるため予測しにくい、気温的にみて買い控えが続くため変わらないとみている。
		衣料品専門店（総務担当）	・景気が良くなるような明るい材料がない。
		家電量販店（店長）	・前年はアベノミクスに対する期待感で客の購入意欲も盛り上がっていた。しかし、現在の客からは不安感が見受けられる。この先も不透明な状況で景気は伸び悩むのではないかとみている。
		家電量販店（従業員）	・来客数が少ない状況が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	・3か月ぶりに軽自動車の販売が再開されたが、販売量に爆発的な伸びがみられていない。そのため、今後もそれほど伸びないのではないかとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・ここ数か月は、土日の新規来客数が全く変わっていない。むしろ、少しずつ減少している。簡単に景気は良くなるかとみている。
		住関連専門店（経営者）	・8月のお盆や9月の秋彼岸などの仕事が続くため、景気は今月並みに推移するとみている。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・おそらく秋口も静かなままではないかとみている。客のニーズが季節ごとではなくなっている。四季に合わせた商売というものを考え直す時期にきているのかもしれない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・今後、石油関連で需要が大きく増加するような見通しはなく、経営は厳しくなりそうである。また、地方経済には景気回復に寄与するような力がなく、当面は現状維持で推移するとみている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・需要が増加するような要因もなく、これまでと同じ傾向で推移するとみている。
		高級レストラン（経営者）	・非常に悪い状態で停滞している。地方には良い材料もなく、このままの状態が続くとみている。
		高級レストラン（支配人）	・3か月先の予約状況は、前年と比較して大きく落ち込んでいる。ただし、来客数は低調であるものの単価が良いため、どちらともいえない状況である。
		一般レストラン（経営者）	・この1か月は販売量も悪く、客からもあまり良い話を聞けない。そのため、悪い状況のまま続くとみている。
		一般レストラン（経営者）	・お盆で外食はそれなりに動くが、その後は10月いっぱいまで余程のことがない限り、潤うことはない。今年も特別な変化はないとみている。
		スナック（経営者）	・ボーナスの時期に入っても思ったほど売上が伸びていない。これから納涼会シーズンとなるが、厳しい現状が続いているため、売上はあまり期待できない。
		観光型ホテル（経営者）	・ここ数か月は来客数が不振であり、この先に景気が上向くような要因も見当たらない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・復興需要も終わりに近づいており、東北の景気に伸びは期待できないのではないかとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・この先、東北は夏祭りのシーズンである。しかし、当地域の祭りにおいて客の入込は前年と同じであり、これ以上の伸びは期待できない。むしろ、日々の客の動きからは若干減っていくのではないかと心配している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊は稼働率が落ち込んできている。宴会は、夏のマイナス分を秋のプランなどでばん回できるように努力したい。
		旅行代理店（経営者）	・9月は連休の並びが悪く懸念していたが、なんとか持ち直してきている。インバウンドによって東京都内のホテルの確保が難しくならない限りは、良くなるのではないかとみている。
		旅行代理店（店長）	・景気の先行きが読み切れない。テロなど治安への不安感がこれ以上増えないで欲しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（店長）	・熊本地震による風評被害が収まりつつあり、旅行需要の回復の兆しが少しずつみえてきた矢先に、別な場所でテロが発生している。そのため、海外旅行、国内旅行共に今一つ予約件数が伸びていない。
		通信会社（営業担当）	・経済政策が実施されるようであるが、具体的な状況がわからないと現在では何ともいえない。
		通信会社（営業担当）	・景気がこの先好転もしくは悪化するような材料に乏しい。
		通信会社（営業担当）	・売上に変化がなく、今後も変わらないとみている。
		観光名所（職員）	・秋は、周辺の市町村などで収穫祭のイベントが目白押しのため、集客の難しい時期となる。
		遊園地（経営者）	・9月の大型連休がないため厳しいが、細かなイベントで下支えをしていく見込みである。
		美容室（経営者）	・常連客は年配の方が多く、それがだんだん減ってきている。
		住宅販売会社（経営者）	・ロードサイド店及び輸出関連企業の一般建築の仕事が多い。当社では不動産の段取りが出来ているため、受注量は目標値で推移するとみている。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・駅周辺の商業施設に客が集中しており、従来の商圈ではほとんど来客数が減少している。ある程度の期間が過ぎれば落ち着くだろうが、しばらくは低迷した状態が続くとみている。
		商店街（代表者）	・地下鉄新規路線開通の効果をあまり直接的に受けない場所であり、また、中心部商店街のなかでもJRの駅から一番離れているため、先行きに期待できる要因は乏しい。個々の商店のみならず、地域全体として対応策の検討が急務である。
		商店街（代表者）	・前年は7月にプレミアム付商品券が発売されて商店街の売上に大きく寄与したが、今年はそのようなものの発売がなく、前年の反動減を懸念している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・以前は大量にまとめ買いをしていた客が、最近では細かく買物をするようになってきている。株価の低迷や英国のEU離脱問題、アメリカの大統領選挙といった不確定要素が景気に暗い影を落としている。前向きに消費をする雰囲気ではなく、多くの客に同様の傾向がみられている。
		百貨店（買付担当）	・久しぶりに衣料品が好調であるが、他のカテゴリーではいまだ厳しい状態である。
		スーパー（店長）	・新規オープンした競合店の影響がじわじわと出てきている。特に、夕方のピークタイムからの来客数減少が顕著である。この状況はしばらく続くとみている。
		コンビニ（経営者）	・5～7月が悪かったため、このまま8～10月も少しずつではあるが悪くなっていくのではないかと。
		コンビニ（店長）	・最盛期を過ぎるため、来客数の減少が見込まれる。また、近隣に競合店がオープンしたため、影響を懸念している。
		衣料品専門店（経営者）	・今月はボーナスの支給月にもかかわらず、消費は低迷したままである。今後も、特に衣料品に対する消費マインドはますます低下していくとみている。
		衣料品専門店（店長）	・今年は残暑の予報のため、秋物商材の立ち上げが難しい。また、現在のようにセールに入ってから好調となる傾向のままでは、定価での販売となる期間の状況が良くなるとは考えにくい。
		家電量販店（店長）	・天候不順により季節商材の動きが鈍く、その影響を懸念している。
		乗用車販売店（経営者）	・中国との関係が悪化するなかで購買力が低下している。また、円高基調がメーカーの財務を圧迫している。
		住関連専門店（経営者）	・受注生産による商売のため、受注量が減少すると2～3か月先の売上が減少することから、今よりは悪くなるとみている。
		住関連専門店（経営者）	・経済の先行きに対して、不安が広がっている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・いくら景気が上向きだと報道されても、地方経済にとっては他人事であり絵に描いた餅でしかない。消費者も不安定なこの状況に慣れてしまい、これが当たり前という雰囲気になっている。このままでは、消費の減退が更に進んでしまうのではないかと危惧している。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・今後は、夏物処分などのセールを実施するが、客の動向が鈍く、期待通りの結果を得られるか不明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・消費者のお金の使い方が変化しており、ぜいたくをしないという生活習慣に慣れてしまっている。周囲の飲食店、レストランはほとんど閉店しており、このような厳しい状態が今後、更に進んでいくのではないかと危惧している。
		観光型旅館（経営者）	・景気に安定感がなく、将来の不安から消費の動向が上向きとは考えにくい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・来月以降の予約状況が芳しくない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・フリー客の減少は落ち着いてきている。ただし、数か月前から減少している予約数が、ここにきて更に伸び悩んでいる。全体的に人が大きく動く気配がなく、好転要因も見当たらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・秋に知事選があるため、企業の動きなどが鈍くなるとみている。
		旅行代理店（従業員）	・度重なる海外のテロ事件などの影響もあり、国内旅行の減少分をカバーできていない。今後しばらくはこの傾向が続き、受注量が減少すると見込んでいる。
		タクシー運転手	・年金の減額、消費税率10%への引上げなど、客は将来に大きな不安を抱えている。これでは景気は良くならない。
		通信会社（営業担当）	・客の興味は、商品そのものではなく他社商品へと乗り換えた際に得られるキャッシュバックなどのサービスに向いている。限られたパイのなかで減少しつつある顧客の奪い合いが激しさを増しており、この先は少しずつではあるが契約者の減少が続くとみている。
		テーマパーク（職員）	・予約数が、宿泊、日帰り共に前年を大きく下回っている。客の1品単価も低下しており、客単価の維持ができていない状況である。
		遊園地（経営者）	・夏季繁忙期を迎えるが、客の動きが鈍い。また、客単価も緩やかな落ち込み傾向にある。
		美容室（経営者）	・東北の景気が大きく回復するような兆候はない。また、世界的に政情不安が広がりつつあるため、景気は冷え込むのではないかと。
		その他住宅[リフォーム]（従業員）	・水回りの工事が前年より減少しており、供給高予算を下回っている。
		悪くなる	
一般レストラン（経営者）	・8月は二八にあたり売上が良くない月とされていることに加え、暑さも重なって、景気は悪くなるのではないかと。		
観光型旅館（スタッフ）	・今年は前年のふるさと割のような助成事業がなく、薄利多売の傾向となる。むしろ、薄利でも利益があれば良いが、それすらも危ういため、素早く厳しい判断が求められる。決断が遅れると、更に悪手を選ばざるを得ない状況となるのではないかと。		
企業 動向 関連 (東北)	良くなる やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・8月より新規事業を開始するため、売上の増加を期待している。
		経営コンサルタント	・この先東北は夏祭りの季節を迎える。また、帰省効果もあり、消費の活性化が期待できる。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・ももの販売単価が前年並みのため、このまま推移することを期待している。
		食料品製造業（経営者）	・円高の影響で、秋以降の原材料価格が低下する見込みであるが、売上状況には明るさがみえない。
		食料品製造業（経営者）	・この先は前年のような売上进行を伸ばせるイベントがない。
		食料品製造業（営業担当）	・景気が好転あるいはこれ以上悪くなるような要因がないため、現在の状況が続くとみている。
		食料品製造業（総務担当）	・英国のEU離脱問題に伴う円高、株安に起因する企業の業績悪化に対する懸念からか、個人消費についても慎重となっている。
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅部材の収益改善の見通しが立っていない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・円高の是正が進んでおらず、輸出採算の改善ができていない。また、国内受注量も同水準での推移が続いており、景気が上向いているとはいえない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（従業員）	・政府の発注前倒し施策を受けて、上期の間はコンスタントな発注が続くと見込んでいる。
		建設業（企画担当）	・工事受注額は当初の見込み通りであるため、今後2～3か月先は現状のまま推移するとみている。
		輸送業（経営者）	・当分の間は現状のまま推移するとみている。
		通信業（営業担当）	・今後も顧客ニーズ応えていくために、日ごろからの継続的な営業活動が必要である。
		金融業（営業担当）	・特に景気を左右するような大きな変化要因はない。
		金融業（広報担当）	・物量の増加を実感している業界、企業は、総じて県外向けのシェアを持っている。県内に限れば、ものが動くようになったという実感はそれほどない。
		広告代理店（経営者）	・電力、ガスなどのエネルギー関連の案件は増えてきているが、現在の減少傾向をカバーするには至らないとみている。
		司法書士	・景気を左右するような要因に乏しく、現状のまま推移するとみている。
		公認会計士	・建設関係については、半年～1年ほど先まで受注が確保されている企業もある。大きく落ち込む要因は見当たらないので、利益を確保する状況が当面続くとみている。
		コピーサービス業（従業員）	・変化する材料が見当たらない。
		その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	・これ以上デフレが進んでしまうと、価格競争が進むだけで中小企業にはなんのプラスにもならない。景気が良くなることを祈るしかない。
		その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	・先行きの不透明感から様子見の状態が続いている。この先も守りの消費傾向から抜け出せない。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・賞与月の売上が想定よりも減少しているため、この先も大きな伸びは期待できない。お盆に望みをつなぎたいが、それでもばん回は難しいと見込んでいる。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・良くなる要素も悪くなる要素も見当たらない。
		やや悪くなる	
繊維工業（経営者）	・英国のEU離脱問題に伴う円高や株安などは落ち着いてきているが、次から次へと不安要因が発生している。そのため、どうしても先行きに不安が残る。		
出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・印刷業界では受注量が減少しており、小さな仕事の取り合いが発生している。また、印刷料金の価格競争も始まっている。		
電気機械器具製造業（企画担当）	・モバイル電子機器の新規開発、生産量が全体的に鈍化傾向にあり、その影響が徐々に始まっている。回復する兆しがみえず、数か月はこの状況が続くとみている。		
建設業（経営者）	・今年の前半は、消費税増税前の駆け込み需要がみられたが、消費税増税の再延期により、需要も弱くなっている。		
広告業協会（役員）	・8月はオリンピックが開催されるが、過去の例からも、開催期間中はテレビに釘付けとなり消費は盛り上がりが見込まれる。そのため、広告業界は当分厳しい状態が続くものとみている。		
広告代理店（経営者）	・第2四半期は全体的に得意先の動きが鈍く、前年比の落ち込みが見込まれている。		
悪くなる		金属工業協同組合（職員）	・一般機械加工業、板金、特に半導体前工程などの筐体加工業は苦戦している。しかし、医療機器、有機EL関係、ガソリンスタンド向けの現金支払機などは善戦している。ただし、全体としては良い材料が見当たらず、先行きに不透明感が漂っている。
雇用 関連 (東北)	良くなる	通信業（営業担当）	・地方に人が集まらず過疎化は止められない。よって、企業も中小企業は淘汰されていくとみている。
		人材派遣会社（社員）	・10月に開始する200名規模の案件を獲得できている。そのため、下半期は上期以上に好転する見込みである。
		人材派遣会社（社員）	・夏を前に求人数はいったん落ち着きをみている。しかし、すでに秋口の大型、中型商業施設の採用計画が始動しており、経済活性化の萌芽が見受けられる。
		人材派遣会社（社員）	・7～8月にかけて、大学3年生を対象に、採用を見据えたインターンシップ活動をする企業が前年よりも増えている。そのため、景気がやや良い状態が続くとみている。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・7～8月にかけて、大学3年生を対象に、採用を見据えたインターンシップ活動をする企業が前年よりも増えている。そのため、景気がやや良い状態が続くとみている。
		人材派遣会社（社員）	・求人数が回復しても、求職者とのミスマッチは続くとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・英国のEU離脱問題、参議院選など今後の見通しに対するけん制からか、採用活動に停滞感がある。この停滞感はしばらく続くともみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・リオからいよいよ東京へという機運が高まれば、オリンピックによる景気高揚感が高まるのではないかと、それが地方まで浸透するかどうかは疑問であり、地方はしばらく様子見の状態が続くとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・円高や株安の影響などもあり、先行きが全く見通せない。
		職業安定所（職員）	・求人と求職者の希望する職種が合わず、就職件数の増加につながらない。この状態はしばらく続くともみている。
		職業安定所（職員）	・求人数は堅調であるが、労働力人口の減少によって応募者が少ないことに起因するものであり、景気の影響とはいえない。そのため、先行きに大きな変化はないともみている。
		職業安定所（職員）	・景気がこのままの状態を維持できれば、求職者は減少しつつも、在職求職者の割合はこのまま高い状態で推移するとみている。
		職業安定所（職員）	・現在求人をしている事業所は、景気が良いからではなく、人手不足のために欠員補充の募集をしているところが多い。また、この先の求人、求職において、状況が大きく変わるような要因は見当たらない。
		職業安定所（職員）	・求人の状態は小さな増減を繰り返しつつ、高止まり傾向にある。また、現在のところ企業の大幅な創業及び大規模な人員整理の情報はない。新規求職者数についても同様に小さな増減を繰り返しており、近い将来に景気が大きく動く印象はない。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は前年と比較して上昇を続けており、今後も同様の傾向が続くとみている。
		職業安定所（職員）	・経済が停滞している状況であり、各企業も先行き不透明感が強い。そのため、前月に引き続き現状維持とする企業が多く見受けられる。
		職業安定所（職員）	・製造業においては今後不安な材料があるものの、医療福祉、卸売業、小売業、観光業、飲食店、サービス業などにおいては、現状と同水準で推移するものとみている。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設業を除いて震災復興関連は一段落しているため、業界全体としては伸び悩んでいる。
		学校就職担当者	・今後の求人状況については、求人予定や採用人員数を当初の予定通りに進めている企業がほとんどであり、大きな変化はみられていない。
やや悪くなる	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・企業の案件数は堅調に推移している。しかし、求職者の登録が低調気味であり、8～9月の業績への影響を懸念している。
		アウトソーシング企業（社員）	・先の仕事の受注が少なく、不安である。

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	良くなる	商店街（代表者）	・団体客の予約が秋まで埋まってきているようなので、引き続き期待している。
		コンビニ（経営者）	・店が国道に近く、観光客の来店が見込めるため、先行きは良くなる。
		衣料品専門店（統括）	・これから夏祭り、秋祭りが各地で盛んに行われるため、景気が良くなるというより、季節的な売上増になる見通しである。個人注文は通信販売等の利用が多いようだが、地域や組織からの注文は、インターネットでは済ませられないため、客と対話しながら受注するというのが現状であり、今後もそれが続いていく。
		コンビニ（経営者）	・春先の駐車場拡張の効果が現れ、前年比2%ほどの来客増を見込んでいる。
	やや良くなる	コンビニ（店長）	・梅雨明けが遅れたせいか、月半ば以降の低温の影響が、例年の来客数をかなり下回っている。紅葉の季節には回復することを期待する。
		乗用車販売店（経営者）	・量販車種のフルモデルチェンジが予定されている。
		乗用車販売店（統括）	・新型車の発売により、来店増が見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		自動車備品販売店（経営者）	・消費税などの不確定な不安要素が今はないので、客の考え方も安定してきており、計画的に物を買う動きが感じられる。
		住関連専門店（仕入担当）	・7月末になりようやく梅雨が明けたので、季節商材の販売が8月に多少ずれ込み、プラス要因になる。
		一般レストラン（経営者）	・10月に地元の祭りがある。
		スナック（経営者）	・フリーの客の動きが日増しに良くなってきている。着実に景気が良くなって来ていると実感することが多くなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会利用の客、件数、売上共に前年と比べても9月まで順調に伸びている。宿泊客の伸びが弱いのが懸念材料である。
		旅行代理店（所長）	・今月は予想外に良くないので、期待も込めて、先行きは良くなる。
		通信会社（経営者）	・求人を行ってもなかなか応募がないので、景気は緩やかに回復している。
		観光名所（職員）	・お土産は箱菓子のような食品類より、多少高くても自分用の実用的なものが売れるようになってきた。食事もこだわりとストーリー性のあるものがよく売れている。売れるための工夫が必要である。
		ゴルフ場（総務部長）	・2～3か月後の9～10月にかけてはトップシーズンであり、予約も回復している。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・葬儀の内容が口コミなどで広がり始め、依頼や問い合わせ、見学が増えている。
	変わらない	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・納涼祭が各地区で開かれている。暑さをしのいで商店街に来てもらえればありがたいが、高齢者が多いので、どの地区でも難しい。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・残暑にからむ商品の売上増を見込みたいが、見込みで商品を購入する客はない。先行き不透明な状況に慣れ、家計に余裕を見い出せないか購買意欲を刺激し購入に結び付ける施策が見当たらない。先行きは現状維持で、変わらない。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	・良くなる要因がない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・夏物は良かったが、これから秋口にかけては、また逆戻りするのではないかと心配である。良くなる要素はあまり見つかからない。
		百貨店（営業担当）	・過去の夏季オリンピックに比べ、リオデジャネイロオリンピックの事前訴求が少なく、盛り上がり欠けており、商機に結び付いていない。今後の天候次第では売上が大きく左右される衣料品も、トレンド感が乏しい。今後2～3か月先も状況は変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・英国のEU離脱問題に伴うリスクオフムードが後退したことにより株価は回復基調にあるが、依然として先行き不透明な状況には変わりがない。高所得者の購買意欲も依然として低いままである。
		百貨店（店長）	・政府の経済対策等で一時的に持ち直すことはあっても、基本的には慎重な消費行動は変わらない。
		百貨店（店長）	・客の動向に動きがあまりない。
		スーパー（総務担当）	・今後売上が伸びてくるとは思えないが、今月の売上が厳しいのは、梅雨明けが遅れていることもあるため、今が景気の底だと思う。
		スーパー（商品部担当）	・ここ数か月の動向を見ると、外的要因も大きな変化はないため、現状維持ができれば良い。
		コンビニ（経営者）	・7月末は土用の丑の日などイベントがあるため、売上がいくらか上がるが、8月の旧盆は会社関係が休みになり、客が来なくなるので、売上が下がる。9月に会社が始まって、売上は急には伸びない。
		コンビニ（店長）	・景気はあまり良くないようだが、周辺で工事などが始まり、大きなマイナス分を補うような形になっているので、変わらない。
		家電量販店（店長）	・リオデジャネイロオリンピック関連特需が来ないまま終わりそうである。4K、8Kの映像革新を早期に決めて、地上デジタルの時のような特需を狙ってほしい。
		家電量販店（営業担当）	・今前半はエアコンが好調で前年比150%で推移していたが、中旬以降は天候の影響もあり苦戦している。リオデジャネイロオリンピック特需もなく、厳しい状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・大手自動車メーカーの燃費偽装問題もあり、軽自動車の販売は落ち込んでいる。景気刺激のための強力な経済対策でもなければ、販売は上向かない。
		乗用車販売店（販売担当）	・良くなる要素も、悪くなる要素もなく、今が最低だと思う。販売量は前年と変わらないが、新型車が出る予定もなく、この先も変わらない。
		乗用車販売店（販売担当）	・県内主要温泉旅館などとも取引しているが、大型格安旅館が1軒閉鎖してしまった。観光客の入込も少しずつ良くなってきているし、今後夏休みに入ると多少良くなると思うが、そんなに爆発的に景気が良くなるという要素もないので、このまま変わらない状態で推移していくのではないかと。
		住関連専門店（経営者）	・英国のEU離脱問題、米国の大統領選挙後に起こると想定される日本への影響、中国の景気減退、ロシアの経済状況等、日本を取り巻く世界の報道はいずれも消費マインドが冷えるものばかりで、景気拡大を伴うような材料がない。
		住関連専門店（店長）	・良くなる材料も悪くなる材料もない。
		一般レストラン（経営者）	・しばらくこの状態が続くが、仕入原価の高騰傾向が不安材料である。
		一般レストラン（経営者）	・地方の中小企業は、なかなか給与のベースアップができない状態なので、それに伴い消費者もなかなかお金を使えない、使わない状況にあり、まだまだ厳しい。
		一般レストラン（経営者）	・景気が悪くなる要素も、良くなる要素も感じられない。新作スマートフォン向けゲームの影響が出てくるのか、配信開始から間もないので不透明であるが、ゲーム目的の来場者は増加している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・3か月先も決して良くなるとは思えない。やはり停滞気味ではないかと。
		都市型ホテル（営業担当）	・極端に悪くなる要素も見当たらないが、良くなる要素も見当たらない。
		都市型ホテル（副支配人）	・8月以降の予約状況から判断するに、しばらくは今のようなくもなく不可もなくといった状況が続くのではないかと。
		旅行代理店（従業員）	・世界情勢が不安定なため、先行きは変わらない。
		タクシー運転手	・地方ではかなりの落ち込みが続いている。
		タクシー運転手	・前年12月以降、前年比100%を達成した月は一度もない。今月はやや良い状態だが、100%は難しそうである。市内の同業者も同様である。
		タクシー（役員）	・乗降客の様子から先行きも変わらない。
		通信会社（経営者）	・リオデジャネイロオリンピックがあるが、あまり盛り上がりせず、客の関心は薄い。
		遊園地（職員）	・世界情勢の影響を受けたインバウンド客の動向が気になるが、夏休みは繁忙期なので今月と比べ盛況となる。
		ゴルフ場（支配人）	・月ごとにクラブ主催のイベントコンペを開催し、ダイレクトメール、インターネットを通じ、集客を図っている。これからの2か月は暑さも厳しいので、涼しさを求めて客が増える。
		美容室（経営者）	・梅雨も明け、気温も上昇するため、カットの客が増えると予想している。夏が過ぎると来客数が減少してくるので、単価を上げる方向に持って行きたいが、なかなか難しい。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・低値安定で、このまま慢性化傾向が続く。
		その他サービス〔貸切バス〕（経営者）	・今年は秋まで式年祭があるため。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・今後の予約数は前月比、前年度比共に依然として横ばいである。政府の経済政策に伴って回復してくるのを期待しているが、相対的には変わらない。
		その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・国内外共に不安定要素があり、状況は変わらない。
		設計事務所（経営者）	・仕事量が少なく、足りていない。
		設計事務所（所長）	・上半期は予算クリアできそうではあるが、貯金がないので、今後少しでも維持できるよう努力したい。
		設計事務所（所長）	・建築設計業界の現状は、ほとんどがコンサルタントと比べてよく、それが昔からの客だと、仕事としてお金を頂くことにならない。
		住宅販売会社（従業員）	・別荘所有者の高齢化が進んでおり、空き別荘が増加する傾向にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・東京オリンピックの影響で、東京など人気エリアの地価は上昇傾向にあるが、地方はまだ不景気感が強い。デフレも解消されていないと思う人が多いなか、地価が上昇する要因には乏しいため、先行きは変わらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・今は値の張る品は全く動かず、購買意欲も見えてきていない。駅から100メートルほどしか離れていない地区だが、空き店舗が出て、次がなかなか入らない。
		商店街（代表者）	・最近、商店街を歩く人が大変少なくなっている。消費にかなり慎重な様子がかげえるが、最近の暑さが拍車をかけるようであれば、更に悪くなる。
		商店街（代表者）	・例年のことだが、お盆過ぎ、秋口のスポーツシーズンには既にスポーツ用品の購買は終わっているため、先行きは悪くなる。
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・当商店街では、夏祭り行事として8月末に抽選会を予定しているが、回覧や新聞紙上で案内を流しても、なかなか客が買物に来ない。観光客も、外国人は来ているが、なかなか買ってはくれず、大変である。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・良くなる要素が見当たらず、現状が進んでいくとすれば、やや悪くなっていく。
		百貨店（営業担当）	・先行きも景気が良くなるような空気ではない。円高の傾向も一進一退、株も上がらないという状況のため、消費にはなかなか回ってこない。
		スーパー（経営者）	・消費者の購買意欲が低下している。
		スーパー（統括）	・世界各地でのテロ発生、トルコの政変、英国のEU離脱問題、アメリカ大統領選の不透明感等々のネガティブな報道に伴う急激な株安、円高で、先行き不安がより鮮明になり、消費マインドの下降による来客数、買上点数の減少は続く。
		コンビニ（経営者）	・8月を過ぎると、秋口は全体的に売上が落ちるといった従来のパターンからいって、見通しは良くない。
		コンビニ（経営者）	・コンビニや外食産業は7～8月の夏休み等が上向くピークなので、先行きはやや悪くなる。
		衣料品専門店（販売担当）	・例年8月は、季節商材を扱う当店のような業態にとっては大変厳しい月である。この猛暑が残暑になっても長引くようであれば、かなり厳しい状況で推移すると予想している。秋物をいつ立ち上げられるかという心配を抱え、早く秋が来てくれることを願うばかりである。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車産業の企業城下町である当地域では、1次下請企業の設備投資が完了しつつあるためか、製造部品の内製化が進み、3次以下の下請企業では仕事量も単価も落ちて、その上高齢化、後継者不足で経営が苦しい。また、先般行われた当地域の夏祭りも、確実に人出が少なくなっている。
		乗用車販売店（営業担当）	・新車が思うように売れないなか、中古車市場も割高な車が多く、厳しい状況が続く。
		その他専門店〔燃料〕（従業員）	・前年比でも減少傾向が続いており、先行きも使用量が増える要因がない。
		スナック（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。これからお盆に入るため、余計な出費も出るのではないかと心配している。
		観光型旅館（経営者）	・前年はふるさと旅行券のお陰で旅館業界全体がバブルであった。今年はそのような対策もないので、現状よりも悪化する。
		旅行代理店（副支店長）	・円高、株安などの不安材料が多く、先行き不安から旅行も海外出張も減少気味である。夏休みや9月に向けての受注が少なく、秋の行楽シーズンが懸念される。輸出製造業の企業等も、採算の悪化やテロによる渡航自粛が始めており、企業の出張も減少している。秋の景気回復を期待する。
	タクシー（経営者）	・5～7月は全体的に動きが悪く、この先も悪い。	
	通信会社（経営者）	・デフレマインドは相変わらずで、できる限り消費を抑えるという消費者心理に変化はない。加えて、中長期的には人口減の問題もあり、先行きは暗い。	
	テーマパーク（職員）	・夏らしい天候にならないと、来園者数も売上も伸びない。	
	競輪場（職員）	・全国発売の記念競輪の売上が徐々に減少してきている。	
	悪くなる	スーパー（副店長）	・行楽地のため、夏の繁忙期が終わる2～3か月先は落ち着いた時期になっている。前年比では、今までの動きから概ね横ばいか少し悪くなると予想している。
		通信会社（経営者）	・例年、夏季は販売量が下降し続ける。どうにか持ちこたえたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（店長）	・業界に見切りをつけた退職が止まらず、補充も間に合っていない。
企業動向関連 (北関東)	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・自動車メーカーの北米輸出が増加している。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・太陽光発電事業は順調に進み、自社発電所が現在6か所で4メガになり、これから安定収入となる。
	やや良くなる	食料品製造業（製造担当）	・原材料の単価が若干下がってきているので、販売量が減少しなければ、数字は改善されてくるはずである。
		化学工業（経営者）	・8月は落ち込む月だが、例年になく一部の受注量が伸びており、これが1～2か月は続くと思われるので、期待している。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・新しい経済対策に期待している。
		金属製品製造業（経営者）	・短納期の受注が増えている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・スポットではあるが何点が受注が決まっているため、現状より多少上向く。ただし継続は見込めず、先行き不透明な状況は続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・見積りや引き合いが徐々に増えてきている。また、既存の仕事も少しだが増えてきており、最悪期は脱したように思う。
		広告代理店（営業担当）	・秋から冬は広告出稿が増える時期なので、順当にいけば悪くはならない。
		経営コンサルタント	・長い梅雨が明け、これから本格的な季節需要が刺激され、消費関連やこれにつながる食品、生活用品、レジャー用品等の販売業が動き出す。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・上期末に向け、小規模の情報化投資が増えてきている。期末における一過性のものであるが、収益の増加が見込める。
	変わらない	電気機械器具製造業（営業担当）	・受注量の横ばい状況が続き、なかなか好転の兆しが見えない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・2～3か月先の景気は全く分からないが、とりあえずこの2～3か月はまずまずの状況なので、この先もそんなに悪くはならず、良い方向で推移する。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・8月は更に厳しさが増す予想だが、9月以降は、9月始めと10月に卸向けの大きなジュエリーフェアが開催される。どちらの展示会も中国人バイヤーに向けて積極的なプロモーションを行っている。6月の香港での展示会では中国人バイヤー相手の商売は不振であったが、その後の海外バイヤーの動向を知る大きな機会でもある。国内市場での秋冬向けの仕入にも期待する。
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・しばらくはこのまま推移する。
		建設業（開発担当）	・公共工事は現政権のもと3年間順調に推移している。今期は発注額が前年比83%、当社受注も前年比85%と厳しい。政府が28兆円規模の大きな経済対策を打ち出したので、今後期待したい。
		建設業（総務担当）	・第2四半期で公共の発注は増えると思うが、民間の動きが弱い。補正予算に非常に期待している。
		金融業（経営企画担当）	・経営者の高齢化が進んでおり、後継者のいる事業者は前期並みの受注を確保しているが、後継者のいない事業者は受注が減少傾向で、全体的には景気は横ばいである。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・良くなる要素も、悪くなる要素も見つからない。
		司法書士	・8月は夏休みで多くの方が休むため、横ばいと予測している。
		社会保険労務士	・海外の波乱要因で、海外で稼いでいる大手企業の下請の中小企業にまで影響が出てくるようだと言われている。
	やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・年末商品受注は見込めるものの、夏場は受注の谷間にもなり近々の予想が見えない。夏休みの体験イベントの告知もしているが反応がなく、とても厳しい状態である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・2～3か月後は受注が多少減少するという情報が入っている。
		輸送業（営業担当）	・猛暑となる予測だが、いまだに梅雨も明けず、天候不順が続いているため、夏物商材のエアコン、扇風機、飲料水等の輸送量が確保できるか心配である。
		通信業（経営者）	・仕事量が少ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（調査担当）	・当行の業況アンケート調査の見通しでは、4～6月期から景況感の更なる悪化を予想する企業が増えている。不安定な海外経済や為替の急変動など先行きの不透明感が増しており、慎重な見方をする企業が増加している。
		不動産業（経営者）	・若い客層のうち、収入の不安定な人が増えてきているようである。
	悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月のことだが、資金繰りが大変である。
		電気機械器具製造業（経営者） 不動産業（管理担当）	・前月と同様の状況である。 ・新築の建物管理受託もあったものの、既存取引先の管理コスト見直しの話を度々耳にするようになってきているので、減収が見込まれる。
雇用 関連 (北関東)	良くなる やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・公共事業や住宅、建築等は平均的に横ばいで、衣料や生鮮食料品なども、需給はほぼ横ばいと思われる。生産関係は、来月お盆に入ると一部休みも予想される。電子関係は、新作スマートフォン向けゲームの影響で、携帯電話やスマートフォンの機種変更等の動きが出てくる。
		人材派遣会社（管理担当）	・携帯電話のリペア等で検査業務派遣の増員を予測している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・今のところ宿泊施設関係の稼働は、前年同月比で見ると落ちているが、前年と同じくらいの稼働になる見通しである。年間契約ではなく1回ごとにお金をもらうような仕事もあるが、そちらも前年と変わらない見通しである。
		人材派遣会社（営業担当）	・消費意欲が湧く材料が何もない。
		人材派遣会社（支社長）	・求職者の動きは鈍く、稼働スタッフが動くことも少ない。動くにしても事情が絡むので汎用性はなく、マッチングするケースが少ないため、どうしても先付けオーダーを受注し、求職者の選択肢を広げるようなラインナップを完成させなくてはならない状態が続いている。必然的に当月での成果には結び付きにくい。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・景気が低迷したままなので、雇用も先行き不安定な状況が続く。
		職業安定所（職員）	・業務量の減少で事業所を閉鎖するケースがやや増加しているため、求人が増加傾向といっても景気が良くなると楽観できない状況である。
		職業安定所（職員）	・求人数は増加傾向を示しているが、円高や中国経済の影響など不安要素も多くあることから、変わらない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・人手不足感が強い産業においては、依然として人手不足が解消できず充足がなされないということで、求職数が減っている。良くなる要素があまり見つからない。好調な産業においても、人手不足感が深刻で人が集まらない状況で、企業のほうでも求人を手控えてくる動きがあるかと思う。
	悪くなる	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	良くなる	スーパー（経営者）	・毎日の積み重ねにより、良くなる。
		観光名所（職員）	・3か月後は秋の走りとなるが、当地は観光地のため秋はトップシーズンで、今月よりは良くなる（東京都）。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・英国のEU離脱問題の影響から多少は回復してくると思われるため、期待している（東京都）。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・法人客の商品購入はやや減少気味ではあるが、ここ数か月の個人客の購入額増加傾向や、8～9月は地域のイベントが活発に行われるため、景気はやや上向きになる（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・隣の空き地の建設工事が少しずつ始まるために、多少良くなるのではないかと。
		家電量販店（統括）	・金融政策と政府の経済対策により消費が高まると見ている。特に耐久消費財では、客単価や購買指数のアップが期待できる。
		乗用車販売店（総務担当）	・決算や新車投入など好材料が豊富であり、客の動きがより活発化すると予想している。
その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・徐々に新店をオープンするので、勢いに乗りたい。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔雑貨卸〕 (経営者)	・売上と利益から判断している(東京都)。
		高級レストラン(経営者)	・東京郊外の私鉄沿線駅というロケーションにある当店のような飲食店は、昼がマダムコース、夜がファミリーコースとなる。4月以降は前年並みの来客数、売上額であるが、客単価は若干上がっている。この数字では上向きとまでは言えないが、多少の期待はある。
		一般レストラン(経営者)	・7～8月は年間を通して売上が落ち込むので、2～3か月先は少し良くなる。
		一般レストラン(経営者)	・インターネットという目に見えない存在が、新しいビジネスチャンスを作り、小さな商店街にも恩恵を少しずつ与えている。人件費削減にもつながり、先行きに対する期待は大きい(東京都)。
		一般レストラン(経営者)	・客単価の上昇と来客数増加傾向から、良くなっていると思うものの、ランチの来店頻度が減っている店もあるため、全体の価格帯が上がっているわけではない。サラリーマン層には値上げは厳しいと思われるため、リーズナブルな商品も出していく予定である(東京都)。
		都市型ホテル(スタッフ)	・夏季シーズンは需要が高まるため、少し良くなる。
		旅行代理店(販売促進担当)	・2～3か月後は旅行業界にとっては、秋の旅行シーズンである。国内は順調だと思うが、海外がやはり団体を中心に伸び悩んでいるため、国内へのシフトが一層進む。そのため、多少は国内旅行のお陰で良くなる(東京都)。
		旅行代理店(営業担当)	・秋季旅行シーズンを迎えるため、販売量の増加が期待できる(東京都)。
		タクシー運転手	・希望的観測を含むが、世間は、都知事選、リオデジャネイロオリンピックと浮かれており、実質的な好景気感とは全く関係ないかもしれないが、やや浮わつた景気感である(東京都)。
		通信会社(管理担当)	・法人向けソリューション設備投資への意欲は現状と変わらないとみるが、個人向けの携帯電話販売は夏季商戦期を迎え、やや良くなる(東京都)。
		ゴルフ場(経営者)	・希望的観測で、やや良くなる。
		ゴルフ場(企画担当)	・9月中旬過ぎの予約が例年以上に埋まっている。
		その他レジャー施設 〔ボウリング場〕(支配人)	・企業予約はまだまだ低迷しているものの、個人利用が増加傾向にある。
		その他サービス〔立体 駐車場〕(経営者)	・近隣の大型商業施設が11月いっぱいの閉店に向けてセールを行うため、来客数が増える。
		設計事務所(経営者)	・民間企業からの相談もあり、徐々に忙しくなりそうな気配を感じる。ただし、相変わらず利益率は低く、労働時間は長くなりがちである。経済状況が停滞している現在、仕事があることに感謝である。
	変わらない	商店街(代表者)	・今年の天候をみると、あまり良くなるとは思えない。これから30度を超える日が続くと、大変になる。高齢者が動けるような天候になるのが一番で、暑すぎるのも、寒くなるのもいけない。なかなかそれが難しい(東京都)。
		商店街(代表者)	・選挙結果とこの夏の天候も大きく影響する。低調基調はしばらく続くように感じる。新作スマートフォン向けゲームの影響で街中の人出が増えるが、消費にはほとんどつながらない(東京都)。
		商店街(代表者)	・地域のプレミアム付商品券が発行されたものの、既存小売店での消費は不透明である(東京都)。
		一般小売店〔和菓子〕 (経営者)	・これからも暑さは続くうえ、今年9月の季節行事が重なってしまうため、売上も一緒になってしまい減少する懸念がある。
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・夏商戦もこれからで、どこに頼んだらよいか分からないような困りごとなどの仕事依頼が増えている。どんなことでもこなしていかないといけないが、簡単な仕事は量販店に行ってしまうのだろう。
		一般小売店〔家具〕 (経営者)	・小売店はこの悪い状態のまま変わらないだろうと感じている(東京都)。
		一般小売店〔米穀〕 (経営者)	・3か月先はあまり良いイメージができない。今の政治の不安定さや社会の雰囲気から、それほど変わらないのではないかと(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・店頭においてこれから飛ぶように売れる商品が出るとか政策として補助金等あるということも特になく、外商も大きな案件が3か月後にはないので、あまり変わらない。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	・会社の販売量が伸びなければ、従業員は良くならない。新規の得意先も競争が厳しく、なかなか受注できない。特に夏から秋にかけては例年厳しい(東京都)。
		百貨店(売場主任)	・円高傾向が続く株価も低調に推移する予想で、富裕層だけではなく、中間層も苦戦を強いられるとみている。
		百貨店(営業担当)	・例年に比べて梅雨明けが遅く、夏日の少ない影響もあり、夏物衣料、服飾雑貨等の動きが全般的に悪い。また、訪日外国人観光客の買上動向も変化しつつあり、ハイブランドの高級衣料や雑貨の動きが減速傾向である。景気は停滞気味と考える(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・アパレル関連の苦戦や服飾雑貨の堅調な動きに、大きな変化は見られない。食料品は徐々に回復しつつあるが、全体的な傾向は変わらない。ただし、客単価の伸びがあまり見られないため、今後も大きな伸びは期待できない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・インバウンドや経済不安の状況はしばらく変化がない。今年は前年のような服飾の大きなトレンド変化もないため、消費意欲が促進されにくい(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・訪日観光客は増加するものの購買額の減少は継続している。また、円高、株安が続くなかで、富裕層の購買も減少傾向にあり、現段階では明確な対策が見出せないため、当分は変わらない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・英国のEU離脱問題による世界経済の停滞は落ち着きを取り戻しつつも、11月にアメリカ大統領選挙を控えており、しばらくは静観ムードになるのではないかと(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・先行き不透明感から国内消費マインドの落ち込みは、しばらく続く。更に外国人需要も、来客数の減少はないものの、高額品の買上は減少傾向にあり、今後の客単価の低下は避けられない(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・スタートが集中したことで出だしが良かったセール商戦も、2点買上でクーポン券進呈、よりどり企画など新たな施策を実施している。依然として、客の消費に対する意識は厳しいままであり、必要な物しか買わない傾向は今後も続くと感じている。
		百貨店(計画管理担当)	・大手取引先の経営不振など先行き不安の要因が多く、回復の見込みは低い(東京都)。
		百貨店(店長)	・日本経済や将来に明るい兆候が1つ2つ出ない限り、状況を変えていくことは難しい。
		百貨店(副店長)	・リオデジャネイロオリンピック開催後も世界経済の不透明感は継続すると感じている。秋物商材の動向も、明確に上向く材料があるとも思えない。
		スーパー(経営者)	・世界情勢が不安定である(東京都)。
		スーパー(販売担当)	・売出初日の目玉商品や、ポイント何倍の日、時間帯割引サービスなど、特典のある店や時間を上手に使い分け、少しでも安く買物しようという客の動きがまだまだ多く見られる(東京都)。
		スーパー(経営者)	・やや悪い状態が続いているので、この状況は変わらない。時々良くなるのだが、次々に競合店が出てくるので、そのたびに影響を受けて、なかなか良くならない。
		スーパー(店長)	・本来なら3か月後の景気は良いと答えたいが、客の様子を見る限り、午前中は年配客、昼から夕方にかけては主婦、夕方から夜間は通勤帰りのサラリーマン、OLというような状況で、買う物自体の点数はそれほど大きく変わらなくなってきている。値段の高い安いだけになっており、チラシを入れて特売をしたり、店内でプロモーションをかけても、なかなか思うように売上が上がってこない。3か月後も、現状のまま変わらない(東京都)。
		スーパー(店長)	・行楽シーズンに向かい、食費以外の出費が多い時期にさしかかるので、今後しばらくは同じような状況が続く(東京都)。
		スーパー(営業担当)	・現在、世界の景気に、日本が振り回されている。この状況が安定化しないと国内景気も上向きになってこない(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（仕入担当）	・2月以降、チラシ掲載価格が下落傾向になっている。価格を下げて売上数量が増えれば良いが、従来価格の時と変わらない商品もあり、競合店との兼ね合いを考えると、非常に厳しい判断になってくる。
		コンビニ（経営者）	・高付加価値商品のみが売れる時代で、客の目が厳しくなっており、予想がしにくくなってきている。
		コンビニ（エリア担当）	・価格に敏感な客層が増えている。スーパーなどと価格差のあるコンビニは厳しい状況が継続する(東京都)。
		コンビニ（商品開発担当）	・前年のような長期の連休もないため、来客数の上向く話題もなく、引き続き来客数に苦戦すると予想される(東京都)。
		衣料品専門店（経営者）	・路面店のため、猛暑の8～9月の日中は、高齢者の来店が落ちる。全店で午前中1時間の前倒し開店を考えているが、ここに来て、最低賃金の値上げを傳達されると全員の時給を上げなければならない。粗利の改善も厳しく、どのような手があるのか、値上げが通用するのを考えている。
		衣料品専門店（経営者）	・衣料品にとって、季節を占う一番大事な時期に入るが、この数年、ファッションに対する価値観の減退が多々見られ、起爆剤となるような、景気の良くなる要素が感じられない。
		衣料品専門店（統括）	・現状の客のマインドに、急に変化が起きるとは思えない。
		家電量販店（店員）	・量販店では現状のまま変わらないことが多い。飛躍的に伸びる要素もない(東京都)。
		家電量販店（経営企画担当）	・季節要因を除いても、現在の消費傾向に大きな変化は見込めない(東京都)。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をしているが、整備は順調に入っているものの、販売があまり芳しくなく、2割減となっている。
		乗用車販売店（経営者）	・軽自動車の減少分を小型車売上でなんとか補っているが、かなり厳しい。
		乗用車販売店（営業担当）	・長期の休みがあるので、集客にも影響が出る。
		乗用車販売店（販売担当）	・やはり輸送業は全体的に停滞気味の感覚はぬぐいきれない。アベノミクスも順調ではないし、日銀がいろいろな対策を打っても、画期的な経済効果が出てこないだろう。当分の間は、今の踊り場的な状態のままで変わらない(東京都)。
		乗用車販売店（渉外担当）	・登録車は前年比90%で推移している。新車受注は登録車より悪く、新型車の効果があっても総数では苦戦している。あまり良くない状態は今後もしばらく続く。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・周りを見ても景気が上向いているようには思えず、当店も変わっていない。
		その他専門店〔貴金属〕（経営企画担当）	・客の動きはあるものの、現在のトレンドから、今後の販売量の伸びが良くなるとは考えにくい(東京都)。
		高級レストラン（副支配人）	・法人の宴席予約状況から判断し、変わらない(東京都)。
		高級レストラン（仕入担当）	・販売単価、来客数、売上高いずれも前年並みと考えており、しばらくは様子見状態である(東京都)。
		一般レストラン（経営者）	・3か月後も今の状況とあまり変わらない。いろんな試みをしているが、なかなか良くならない。人口が増減したのか、周りの企業の景気が良いか悪いかにもよると思うが、あまり変わらない気がする。
		一般レストラン（経営者）	・英国のEU離脱問題による世界経済への悪影響が考えられる。円高や、当店のような零細企業には人手不足による営業への影響や人件費高騰で厳しい状況が続く(東京都)。
		一般レストラン（経営者）	・新しい安倍内閣で10兆円の補正額が組まれたり、いろいろと景気刺激策はあるが、現場にとっては人手不足で、売上をあげるのに厳しい状況になっている(東京都)。
		一般レストラン（スタッフ）	・場所によって異なる。多くの人出があり良くなっている店舗もある一方、人の入っている店は当店ぐらいという場所もある。良い時と悪い時があるが、球団の効果や新作スマートフォン向けゲームをやっている人がうろろうしている程度である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・アベノミクスの次の手が、どれほど効果が出るのか、はっきりするまでは、分からない。
		旅行代理店（従業員）	・前年同期比で101～102%となっているため、変わらない(東京都)。
		旅行代理店（従業員）	・円高による、企業業績が不安定である(東京都)。
		旅行代理店（営業担当）	・円高基調が落ち着き、政府の景気対策も好材料がみられない(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・治安が悪くなってきている。世界的にもそうだが、不安が加速している時代で、世の中が非常に暗い方向に動いているような気がする。不安のなかで生活しているため、我々の客も横ばい、値下がりの傾向にあるのではないかと。
		タクシー運転手	・国内景気は足踏みが長期化し、輸出も中国、アジア向けや米国向けなどで減少している。英国のEU離脱問題による円高株安など様々な報道を見ると、景気の先行き判断はしばらくは変わらない(東京都)。
		タクシー運転手	・営業エリアには工業団地もあり、お盆前後は仕事が減り厳しい日が続くとみている。最近では、近場の居酒屋で飲む客が多く、長距離の客も減っているため、夜の売上が伸びない。まだまだ、この状況は続きそうである。
		タクシー運転手	・良い材料がない(東京都)。
		タクシー(団体役員)	・夏季休暇に向け、国内、海外、遠方、近場への人の動きに大きく左右され判断は難しい。首都圏から人が流出するため、例年8月は収益が減少傾向である。
		通信会社(経営者)	・消費税増税や、軽減税率の導入議論があったものの、再延期となっている。これらは現在だけでなく将来の景気にも悪影響を与えている。やる時にはやり、将来不安を払しょくしなければ、景気はなかなか上向かない(東京都)。
		通信会社(社員)	・放送番組、イベントなどの引き合いがあまりない(東京都)。
		通信会社(営業担当)	・景気の先行き不透明感が払しょくされなければ、大きな回復は見込めない。
		通信会社(営業担当)	・他社との競争が激化しており、付加価値ではなく、価格面での攻防から抜け出せていない。
		通信会社(経営企画担当)	・上期の動きは鈍いが、下期に商談件数も増えるのではないかと(東京都)。
		パチンコ店(経営者)	・今までの面白い機械がなくなってきている。そういう機械を好んで遊んでいる客は、店内を移動したり、当店から離れるかもしれない。ただし、遊び、娯楽という意味では、低単価であり売れない機械や、1円パチンコなどに客が移行しているため、長い目でみたら良いことかもしれない。ただ、2~3か月後は今とあまり変わらない(東京都)。
		その他レジャー施設(経営企画担当)	・催事や、予約は堅調に獲得している。ただし、節約志向の強まりは既にレストランの売上などに現れており、この傾向はしばらく続くとみている(東京都)。
		その他サービス[福祉輸送](経営者)	・景気に対するプラス要因は、参議院選で保守系、現在の政権与党の票がそれほど減らなかったため、安定した経済政策にさらに踏み込む内閣の方針が具体的な施策として出て、3か月後に良い影響を与えることもあるが、都知事選の結果や、今後生じる英国のEU離脱問題、紛争地をめぐる経済状況がマイナス方向に働くこともあり、景気が上向くのか下向くのか、今後の進展次第といった状況なので、現在のあまり良くない状況が続くという意味で変わらない(東京都)。
		その他サービス[保険代理店](経営者)	・今後のメーカーの卸価格にもよるが、あまり変動がなく落ち着いた価格帯に収まり、販売量の増減はないとみている。
		その他サービス[電力](経営者)	・新築マンションの建設は予定通りで、電力小売の導入も予算通りに進みそうである(東京都)。
		その他サービス[学習塾](経営者)	・今夏は好調だが、先行きに対する安心感までは感じられない。
		設計事務所(経営者)	・行政への入札の件は、最低価格ラインが設定されているにもかかわらず、ある市町村においては入札金額にて低価格が裁許され落札されている。当社は低価格を外したいが、非常に難しい社会情勢となっている。そういった意味において、民間の仕事にチャレンジしたいが、設計事務所に向けてくれない方向が見受けられる。もっとホームページを活用しなければと考える。
		設計事務所(職員)	・補正予算の数字は大きいですが、ここ数年の状況から考えて、景気を左右するのかがどうか、よく分からない(東京都)。
		住宅販売会社(従業員)	・住宅展示場等の集客等は前年並みで、受注に大きな変化は感じられない(東京都)。
		住宅販売会社(従業員)	・マイナス金利も影響し、投資家への融資を抑えている金融機関が少ないため、アパートについては、3か月先まで順調に推移していく。
		住宅販売会社(従業員)	・売上の先行指標である受注においても、前年同期比、前期比共に変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		<p>その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）</p> <p>その他住宅〔住宅資材〕（営業）</p>	<p>・景気の動きとしてはあまり変わらないが、多少相談がされたものが決まることを期待するも、時間的がかかるのではないかと懸念している。</p> <p>・先行きの良い情報が出てこない。物件など一過性の好材料が出てくる可能性はあるものの、底上げするほどにはならない(東京都)。</p>
	やや悪くなる	<p>商店街（代表者）</p> <p>一般小売店〔家電〕（経理担当）</p> <p>一般小売店〔祭用品〕（経営者）</p> <p>一般小売店〔傘〕（店長）</p> <p>百貨店（総務担当）</p> <p>百貨店（広報担当）</p> <p>百貨店（営業担当）</p> <p>百貨店（店長）</p> <p>百貨店（営業企画担当）</p> <p>スーパー（店長）</p> <p>スーパー（総務担当）</p> <p>スーパー（仕入担当）</p> <p>コンビニ（経営者）</p> <p>コンビニ（経営者）</p> <p>コンビニ（経営者）</p> <p>コンビニ（経営者）</p> <p>コンビニ（経営者）</p> <p>コンビニ（経営者）</p>	<p>・最近、客の買物に対する意欲がほとんどみられず、慎重になっている。同じ物であるならば、単価の低い方向で契約が進んでいくような状況で、売上を作るためには、今後もかなり努力をしないと不安が残る。</p> <p>・売行きが良くないせいか、卸値もだんだん下がってきている。</p> <p>・来客数、受注量が減っているため、やや悪くなる。</p> <p>・大幅に値下げをする販売はしていない。あちこちで夏のバーゲンが始まると客足が悪くなる。</p> <p>・一部の商品には動きがあるものの、必要以上の物を購入しない傾向は続いている。買い回りがなく、全体として厳しい状況である。</p> <p>・英国のEU離脱問題や、フランス、ドイツのテロ、また、米国では次期大統領選で国内意見が割れるなど、世界レベルで経済に強い影響を及ぼす事柄が進んでいる。この影響で日本も株価や為替が安定せず、国内的には雇用のミスマッチなど生活への不安は払しょくされず、例え一時的に賃金が上昇しても、生活の余裕は実感できないため、百貨店の消費が活性化する可能性は低い。衣料品などではWebなど他業態への顧客流出が続いており、いずれの方向から考えても百貨店への消費行動が上昇する要因は見当たらない(東京都)。</p> <p>・残暑は厳しいとの予報が出ていることや秋、冬物にトレンドが見えず、また商品の同質化が顕著であり、新しいチャレンジができないなかで、売上を伸ばすことは非常に厳しい(東京都)。</p> <p>・必要な物の買上が中心で、客単価の伸びは減少している。</p> <p>・英国のEU離脱問題の影響がはっきりとしていない。また、中間層は相変わらず消費を抑えており、そのマイナスを補う訪日外国人客と富裕層の消費も、ここにきて陰りが見えてきている(東京都)。</p> <p>・現状では、来客数の増加を見込んでいる。商品の動きは、価格の高い、安い、また、量目の多少と客層の幅が広がっていく傾向にある。</p> <p>・梅雨が明けても、大きく購買意欲が上がる雰囲気はない。また、今話題となっている新作スマートフォン向けゲームが、直接売上に結び付くような集客や、購買意欲を持たせているようなこともない。頻度性の高い物、特に食料品の動きが良くなく、また、流行がないということでは、おもちゃ関係も売行きは非常に厳しい。また、身の回り品、衣類品含めて、客単価は若干上がっているものの、来客数、買上点数は落ちており、今後もこの傾向は続く。</p> <p>・英国のEU離脱問題以降、株安、円高傾向で、デフレに向かうことが懸念され、節約志向が高まっている。</p> <p>・販売量に加えて、来客数も減っている(東京都)。</p> <p>・1年を通して7月が当店の来客数、売上のピークである。これから8～10月と秋に向かって、来客数が少しずつ減り、売上も減っていく。来客数を減らさず商売をすることは、なかなか難しい。また、これだという有効策がない限り、来客数、売上を維持することは難しい。なんとか落ち込みを減らして、維持するように精一杯考えてやっていくしかない。</p> <p>・夏が過ぎて涼くなればまた来客数も減る。客の消費性向は非常に低い。</p> <p>・長期予報では、今夏は猛暑と予想されていたが、平年並みと訂正された。前年の猛暑と比べると、売上は非常に厳しくなる。</p> <p>・季節要因的にコンビニは7月が売上のピークのため、少しずつ下降していく。また、今月は例年に比べて梅雨が長引いており、売上も前年実績に届かない。</p>

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・年金受給者の話では、介護保険料がかなり上がったということで、収入が目減りが目立っている。将来には不安しかない様子である。
		衣料品専門店（経営者）	・参議院選が終わり、景気対策はそれほど叫ばれなかった。近隣で夏祭りが多くあり、人出は良かったものの、買物は減少していると聞いている。
		衣料品専門店（店長）	・来客数の減少が止まらず、単価を上げなければならないが、単価は前年をぎりぎり下回っている。
		衣料品専門店（営業担当）	・景気の良くなる材料が一つもない。消費税増税の再延期は良かったが、駅のターミナルが一部開業したところ、入口が耐震補強のために今までの広さの五分の一になってしまい、客が入ってくるのかこないのか分からず、不安だけである。
		住関連専門店（営業担当）	・消費税増税の再延期の影響が大きく、駆け込み需要を見込んでいた分の売上のばん回は、厳しい状況にある（東京都）。
		住関連専門店（統括）	・現時点で景気が良くなる要素は見当たらず、消費者も戸惑っているのではないかと感じる。そのため、購入意欲もそれほど伸びていない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・外国人客の購買行動の変化による売上減少と、国内客の将来不安による、購買モチベーションの低下がうかがえる（東京都）。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・スマートフォンゲーム市場では、新作スマートフォン向けゲームのリリースで社会現象が発生している。成年以上ではコンソール向けゲームに使える時間が大きく奪われるうえ、リオデジャネイロオリンピックもあるため、やや悪くなる（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・先行きに対する不安感で、客が財布のひもを固くしていると感じる。
		一般レストラン（経営者）	・今回の参議院選でもまた自民党を認めるような形になり、景気対策がされていないのに、しているかのように進んでしまっており、停滞したままの景気が上向くことはない。
		一般レストラン（経営者）	・英国のEU離脱問題及び移民問題、テロ問題に起因する政治経済の混迷や中国経済の減速は、世界経済を間違いなく押し下げると考える。日本経済は、その影響で円高になるといわれており、今より更に景気が減速する危険性があるように感じる。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・為替、株式などの相場が、先々の景気悪化のシグナルを示している（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・円高傾向や先行きに対する不安から消費を控えるなど、前年とは一転し、全体的に前年を下回る予想となっている。法人、個人共に動きが鈍く、客単価の上がらない状況が続いており、景気が上向くとは期待できない。
		都市型ホテル（総務担当）	・先行きへの不安から消費マインドが慎重になっている。
		旅行代理店（経営者）	・天候不順のせいもあるかと思うが、今のところ2～3か月先の予約等は半減しており、あまり良くはならないような状況である。
		旅行代理店（従業員）	・客からの問い合わせ、見積依頼が前年に比べて減っている。また、例年ならトップシーズンである秋の九州旅行需要も戻らず、九州ふっこう割の効果も限定的である（東京都）。
		通信会社（経営者）	・他社携帯電話を軸とした乗り換え解約が今後も増え続け、純増が大きく減ると見込まれる。電力小売、MVNO、顧客訪問強化で防止策を講じているが、いまだ解決の糸口が見えない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・8月はお盆休みもあり稼働日数が少なくなるため、契約件数はやや悪くなる。リオデジャネイロオリンピックを販促に契約件数を増やしたい（東京都）。
		通信会社（局長）	・英国のEU離脱問題の影響が出る2～3か月後は、不動産不況の噂がある。事実、都内の外国人が多く入居している高級賃貸マンションの空室率が高くなってきていると聞いている。そうした悪影響で、一括契約しているマンションから値引きや解約が少なからず出るのはないか（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・良くなる材料は見当たらず、現在の傾向が続くのではないかと感じる。
		通信会社（総務担当）	・夏のレジャーやお盆休みの消費の反動で、少し消費が冷え込むのではないかと感じる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（従業員）	・アベノミクスが景気の上向きに大きな影響を及ぼしたことは事実である。しかし、日本の進む道は、まだ分からない。世界中でシグナルが鳴っているようなので、景気は簡単に回復、安定はしない。
		ゴルフ場（支配人）	・今後、新作スマートフォン向けゲーム等による若者の動向や、梅雨明け後の高温の影響などにより、土日の来客数や年配客の減少も考えられる。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・子どもの数も段々減ってきているためか、各塾の無料体験期間が長くなってきている。それによって、早い時期から生徒の取込等があるのか、売上も生徒数も減少している。9月からもあまり入会の見込がないため、悪くなる。
		設計事務所（所長）	・土地の値上がりと建築費の上昇があり、良くなる要素が見当たらない(東京都)。
		設計事務所（所長）	・もう少し仕事が増えないと、景気が良くならないのが現況である。都心ばかり仕事があっても、地方に波及していかない。やはり施主に自己資金がないので、補助金などで助成制度を高めていかないと耐震診断補強にもなかなかつなげていかない。
		住宅販売会社（従業員）	・ここ数か月の来客数はかなり落ち込み、それに伴い具体的な商談数も減り、成約数が落ちることは明らかである。カンフル剤的な要素も見当たらないため、販売量を確保する手段がないか、真剣に検討中である。
		住宅販売会社（従業員）	・情報数の減少及び客の反応が悪くなっている。
	悪くなる	一般小売店〔茶〕（経営者）	・消費税増税の再延期になったところから、客の動きが鈍化しており、消費にかなり慎重になってきている。来客数、売上共に減少が続いている。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・店舗が増え続ける以上、回復の兆しはみられない。
		コンビニ（経営者）	・客の財布は非常に厳しい(東京都)。
		コンビニ（経営者）	・当地域では、コンビニの出店の増加や異業種が増えていく。百円ショップ、ドラッグストアなど今までにないような業態が台頭している。また、スーパーマーケットの営業時間が延長され、運営しているコンビニに影響しており、今後もその傾向は続く見通しである(東京都)。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・業界全体が悪化の一途をたどっている(東京都)。
		一般レストラン（経営者）	・宅配業務を止めるため、売上は悪くなる。また、店舗の一部改装をすることにより、使えないフロアが出るため、売上は減少する。1～2か月はこのような状況で、必ず売上は下がっていく(東京都)。
		住宅販売会社（経営者）	・まだ中小企業の景気が回復していないところへ英国のEU離脱問題という不安材料が発生したため、今後どのように影響を受けるか分からない。今のところ景気が良くなる材料はない。住宅が売れると経済波及効果は大きいので、住宅が売れるような対策を取ってもらえるとありがたい。
企業 動向 関連 (南関東)	良くなる やや良くなる	-	-
		食料品製造業（経営者）	・国の小規模事業者持続化補助金を通り、新しい展開ができそうである。
		食料品製造業（営業統括）	・夏本番を迎えるため、飲料系を中心に需要増を期待している。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎年9～10月ごろから受注量は増え始める(東京都)。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・法人関係が少しずつ上向きになっている。個人は横ばいというところだが、客単価が少し上がって伸びてきている(東京都)。
		電気機械器具製造業（経営者）	・先の引き合いが多少増えていることや、新商品の評判が良かったため、やや良くなる(東京都)。
		建設業（経営者）	・選挙が終わり、景気対策も始まるため、やや良くなる。
		建設業（従業員）	・取引先からの見積依頼の量が増えてきている。
		建設業（営業担当）	・九州はもとより、関東でも最近頻りに起きる地震に備えた耐震シェルターなどの工事案件が増えてきている。年内の工事完了案件もあるため、対応に追われている。
通信業（広報担当）	・経済対策や追加の金融緩和もあるため、そのうち持ち直すとみている(東京都)。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	その他サービス業〔ソフト開発〕(従業員)	・引き合い案件が減っていないため、これから良くなる。
		食料品製造業(経営者)	・これ以上悪くなるような気はしない。ただししばらくこの様子が続く(東京都)。
		繊維工業(従業員)	・先行き不透明感があるため、消費者の購入意欲が湧いてこないのではないか(東京都)。
		出版・印刷・同関連産業(経営者)	・新しい案件の話も非常に少ない。
		化学工業(従業員)	・取引先、仕入先から今後が良くなる、悪くなるとの話が全くなく、先行きが見えない。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・今月は良いが、全体の状況を考えると3か月後に景気が良くなるという見通しはなかなか立てられない。基本的には大きく変わらない。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・既存製品の受注見通しは非常に厳しい状況が続くそうであるが、補助金等で開発した物の案件が採用されれば一気に活気付く。
		金属製品製造業(経営者)	・中国の止まらない景気減速、無秩序な生産の影響を取引先が大きく受けている。改善が長引きそうで協力会社にも影響がある。
		金属製品製造業(経営者)	・取引先からの内示情報を見ていると、横ばいが続いている。
		一般機械器具製造業(経営者)	・今は1か月に1,000個出ているものが急に2,000個出たり、他方でコンスタントに出ていたものがゼロになるという状況。それも違う客で起きていて、状況が把握できず、いろいろと怖い感じがしている。
		その他製造業〔鞆〕(経営者)	・なんとなく気配を感じる程度で、大きく悪くなる、良くなるような原因は見当たらないので、変わらないのではないかと。
		その他製造業〔化粧品〕(営業担当)	・上半期は、実績が前年を若干上回ったものの、それ以上に伸長する要因が見当たらない(東京都)。
		建設業(経営者)	・政権が安定すれば少しは良いと感じるものの、世界経済が安定していないため、変わらない。
		建設業(経理担当)	・当社の対象である中小企業製造者の景気が悪いようで、設備投資の話がない。町中の商店もシャッターを降ろすところが以前より増加している。
		輸送業(経営者)	・これといった目ぼしい対策が取られていないので、現状とあまり変わらないのではないかと。
		輸送業(経営者)	・2~3か月後に変化がありそうな気配は現在のところない。しかし燃料価格が徐々に上昇をしてきて、先行きが大変気がかりである(東京都)。
		輸送業(総務担当)	・出荷量は低迷状態から、少しずつ増えてきている。ただし、8月は工場や納入先の夏休みもあるため、稼働日が少なく、状況に変わりはない。
		輸送業(総務担当)	・長期的に期待できる案件は少なく、3か月後の見通しも変わらず、厳しい状況が続く可能性は高い。
		金融業(統括)	・政治の落ち着きがプラス材料ではあるが、その他の部分で特にプラス材料は見当たらないので、それほど変わらない。英国のEU離脱問題や政治資金のバラまき等があり、懸念材料は多くある。
		金融業(従業員)	・製造業では業況が回復している取引先が多いが、小売業、サービス業の大半は顧客の減少や競争の激化に悩まされている。テロ等のネガティブなニュースが続いており、今後の経済に悪影響を及ぼすのではないかと心配する声も聞かれる(東京都)。
	金融業(支店長)	・海外でのテロの多発や英国のEU離脱問題もあり、世界経済に不透明感があり、不安が募っている。当面の景気も良くなりそうになく、現状がしばらく続きそうである。	
	金融業(営業担当)	・2~3か月先の受注予想も現在と変わらず、設備投資の話も少ない。夏休み等もあり景気回復とまではいかない(東京都)。	
	金融業(役員)	・一部業種では仕事が増えてきているようだが、人材不足やコスト面等、何らかの理由により、受注できないでいる。ネックとなっているものは一様ではなく、課題を克服するには時間がかかる。	
	不動産業(経営者)	・同じような報告になるが、新築で今のような状態はまともではない(東京都)。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（総務担当）	・大きく変動する要素は見当たらない。ただし、新築ビルの空室も多く、テナントの獲得競争は激しくなると見ており、特に、やや古いビルは今の賃料水準を維持していくのは難しくなる(東京都)。
		広告代理店（従業員）	・受注予定や売上予想額等は変わらず推移しており、増減はない(東京都)。
		広告代理店（営業担当）	・世界情勢などから訪日外国人の数が鈍化し、消費も少なくなるのではないかと。そのため、外国人客で売上を伸ばしていた企業や商品の業績が悪くなり、最終的に宣伝販促費が減るとみている(東京都)。
		税理士	・アメリカの景気はそこそこ良くなってきている。中国のバブルがいつ弾けるか、英国のEU離脱問題などが、すべてからんできて、円安、円高、どちらの方向に向かうのか、また、国内政治では、アベノミクスが参議院選で勝ったが、中小企業にどう影響するのかが分からないため、変わらない(東京都)。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない(東京都)。
		経営コンサルタント	・特に変化する要因がない。
		税理士	・8月に大きな期待はないが、猛暑が予想されており関連商材の売行きには期待したい。旅行需要が九州ふっこう割関連から盛り上がりそうで喜ばしいことである。
		経営コンサルタント	・商工会議所の会合などで、大きな問題となっているのが、人手不足を背景とした人件費の上昇である。既に昇給などでベースアップをしているが、今後は、パートなどに適用される最低賃金の上昇や、夏季賞与支給がある。売上自体はそれほど変わっていないため、人件費比率の上昇が危惧される。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・取引先の工場、特に、工業系製造業の稼働率が上昇する要素が全くみられない。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・受注も大事だが、雇用条件の改善をしなければ景気は安定しない。
その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・人手不足と最低賃金上昇の影響で、見積単価を上げているため、見積件数は増えても成約には至らない。今後、値上げした額でも成約できるようになれば、景気回復を実感できる(東京都)。		
その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・取引先で新規に整備事業を予算化することが困難となり先送りになっているため、ここしばらく変化はなさそうである。		
やや悪くなる		金属製品製造業（経営者）	・見積依頼は来るものの、相見積となり値下げをしなければならず、利益を出すのが大変である。
		輸送業（営業担当）	・主力取引先の1社が物流の改編、センター移転を行うことになり、当社の売上減は避けられない見通しである(東京都)。
		広告代理店（経営者）	・現状、過負荷となっている仕事は3か月後には終了し、作業増の悪循環は解消しているだろうが、過負荷に費やした時間を回収できる案件の見込みは立っていない。
		経営コンサルタント	・中国経済の影響やその他、海外取引の厳しさが、大手企業に響き、その余波が中小製造業に及ぶのは必至である。この先も厳しいと予想されるが、更に拍車をかけているのが、人口減少、一部建設関係の人材需要による人手不足である。ハローワーク経由で元派遣スタッフが求職してくるが、中小企業に回ってくる人材は、組織に向かないような採用のミスマッチの原因になるような人しか来ない(東京都)。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・円高傾向がこのまま続き、国内で対策を講じても追い着かない。景気上昇の要素があるとは思えない(東京都)。
		悪くなる	出版・印刷・同関連産業（所長）
		精密機械器具製造業（経営者）	・国際情勢は今年いっぱい混とんとするとみており、最悪である。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・大きな案件が軒並みなくなっている(東京都)。
雇用関連 (南関東)	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・引き続き、求人数の落ち込む要因はなさそうである(東京都)。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・周囲がにぎわっている(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・有効求人倍率は、4月1.15倍、5月1.09倍、6月1.17倍となり、前年4～6月の平均と比較すると、0.18ポイント上昇しており、引き続き上昇傾向で推移している。また、6月の新規求人数を産業別にみると、卸、小売を除く、全産業で前年に比べて増加しており、産業計では20.2%の大幅な増加となっている。
		職業安定所（職員）	・今月の新規求人数は、前年同月と比べて減少したものの、フルタイム求人を中心に企業の採用意欲は強く、引き続き求人増加が見込まれる(東京都)。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は1月をピークに下降気味であったが、再度上昇してきている。また、高卒の求人受理は前年度の3割増となっており、企業の新卒採用は活発である。
		民間職業紹介機関（経営者）	・業種によって差はあるが、景気刺激策への期待は高い(東京都)。
		民間職業紹介機関（経営者）	・訪日外国人の活発な行動が、経営者の採用意識に明るさをもたらしている(東京都)。
		学校〔大学〕（就職担当）	・夏休みで外出が多くなり、4年に1度のオリンピックイヤー効果もあると予想する(東京都)。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・中国情勢が依然として不透明。アメリカの大統領選挙後どうなるのかということ、海外市場が非常に見えないという経営者が多い(東京都)。
		人材派遣会社（社員）	・英国のEU離脱問題や海外市況の変化が、どのように国内景気に影響するか不透明である(東京都)。
		人材派遣会社（社員）	・年末に向けて採用は、厳しい状況が続くそうである。
		人材派遣会社（社員）	・景気回復につながる要因が見当たらない(東京都)。
人材派遣会社（営業担当）		・派遣市場は、ほぼ横ばいではないか。秋に向かい退職者補充等の派遣需要が増えると思うが、求める求人スペックも高く、なかなか採用数の増加とはならない。	
人材派遣会社（支店長）		・求人、求職共に、ここ数か月横ばいのため、変わらない。	
人材派遣会社（営業担当）		・中小企業向けの補助金は一部事業者への影響はあるものの全体的な底上げには至らず、現状維持とみている(東京都)。	
求人情報誌製作会社（営業担当）		・時期的にアルバイト、パートの人材採用は増えるものの、企業が積極採用していくという話はあまり聞かない。現状の社員数で様子を見ていくようである。	
求人情報誌製作会社（広報担当）		・今後の景気の見通しが良くなる材料がない(東京都)。	
民間職業紹介機関（経営者）		・企業の部門管理者からは、着実な地盤固めや現状打開のためには、新規事業の開発が必須と聞いている(東京都)。	
民間職業紹介機関（職員）	・大手企業を中心に新卒採用が一服し、中途採用へのシフトがみられる。今のところは求人数、採用者数共に大きな変化はみられない(東京都)。		
やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・余剰人員を抱えずにぎりぎりで業務を行うため、負担が増し疲弊による離職者が発生するという悪循環の企業が増えてきている。業績悪化が懸念される(東京都)。	
	人材派遣会社（営業担当）	・参議院選、都知事選の特需分の短期的採用は減るものの、依然として好況であることには変わりがない(東京都)。	
	人材派遣会社（営業担当）	・英国のEU離脱問題で、取引先各社とも様子見をしているようで、新たな予算執行を見送っている(東京都)。	
	職業安定所（職員）	・熊本地震の経済への影響や、英国のEU離脱問題等による為替相場の不安定さなどのため、やや悪くなる。	
	悪くなる	-	-

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)	良くなる	商店街（代表者）	・東京都知事が新しく決まり、前向きに考える人が多くなる。
		一般レストラン（従業員）	・花火大会があった時は、テイクアウト、店内飲食共に非常に売行きが良く、久しぶりに達成感を感じたので、暑い時期はとて忙しくなる。
	やや良くなる	一般小売店〔土産〕（経営者）	・伊勢志摩サミットの効果で、今後も増加が続く。
		百貨店（経理担当）	・米国経済の持ち直しや、中国の過剰債務・設備解消の進展を受けて、秋口当たりからは、景気はわずかながらも上向きに転じる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売担当）	・20日間ほど閉店して10月に改装オープンする。売場面積は減るが、店がきれいになり、ポイントカードも始めるので、来客数も増える。
		コンビニ（エリア担当）	・販売什器等の設備投資と品ぞろえ強化を維持し、来客数と客単価の改善が続く。また、テレビCMの延べ視聴率増加を図ることで告知を強化することにより、一層の改善を期待する。
		家電量販店（店員）	・新作スマートフォン向けゲームの登場で、モバイルバッテリーの売行きが良い。スマートフォンの買換えも進む。
		家電量販店（店員）	・リオオリンピックもあり、景気が良くなるように期待したい。例年オリンピックイヤーには映像商品が動くので、前年を上回る売上を見込む。
		乗用車販売店（経営者）	・今年前半と比べて確実に動きが変わっているので、今後に期待する。
		乗用車販売店（従業員）	・7月は売行きが悪く、動きも悪かったが、感触は悪くない。2～3か月のスパンで見れば、全体的に悪くはない。
		乗用車販売店（従業員）	・東京都知事選挙が終わって、政治の動きが一段落すると、そこからは少し安定する。東京オリンピックもあり、少しずつ良くなっていく。
		乗用車販売店（総務担当）	・政府の景気対策が具体化すれば、消費者心理も改善する。
		その他飲食[ワイン輸入]（経営企画担当）	・人手不足に伴い、賃金の上昇が浸透している。
		旅行代理店（経営者）	・特に不安材料もなく、先行きの景気は良くなる。
		通信会社（営業担当）	・今後も、好調が年度末くらいまでは続く。
		美顔美容室（経営者）	・8～12月はホームケアキャンペーンが始まり、毎年、この時期に購入する客が来店する。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税の再延期で駆け込み需要の期待はなくなり、客の動きは落ち着いている。マイナス金利政策が続き、固定金利は史上最低で、ローンを組む上では先を見据えた計画を立てやすく、お盆休み以降の動きに期待ができる。
		その他住宅[室内装飾業]（経営者）	・見積り依頼等の動きをみると、企業の設備投資や個人の新築物件が増加しそうだ。
	変わらない	商店街（代表者）	・購買意欲はみられるが、販売量の増加につながらない。
	変わらない	商店街（代表者）	・景気は底入れしていると感じるが、販売量から見ると、良くなっているとは全く感じられない。
	変わらない	商店街（代表者）	・必要最小限の物しか買わない状況が続いているので、なかなか上向きにならない。
	変わらない	商店街（代表者）	・ターミナル駅周辺に関しては、今後もまだ商業施設がオープンするので、秋口までは変わらない。
	変わらない	一般小売店[結納品]（経営者）	・景気が良くなる理由が全く見当たらないので、このまま停滞する。
	変わらない	一般小売店[土産]（経営者）	・わずか2～3か月では、これまでの大きく状況が変わることはない。
	変わらない	一般小売店[生花]（経営者）	・しばらくは現状のままが続く。
	変わらない	一般小売店[薬局]（経営者）	・夏休みやお盆等で旅行等に行く人が増え、来客数は減り、売上は期待できない。栄養ドリンク剤等は良く売れるが、安売りで利益にならない。化粧品や調剤部門は横ばいである。どこの店の店長や社長も、愚痴が多くなっている。
	変わらない	一般小売店[果物]（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
	変わらない	一般小売店[書店]（営業担当）	・秋に向けて例年並みの受注量が期待される。
	変わらない	一般小売店[和菓子]（企画担当）	・英国のEU離脱問題等の影響が、これからどの程度出てくるかわからないので、何ともいえない。
	変わらない	百貨店（企画担当）	・参議院選挙で与党が大勝し、経済優先の方向性が示された点は景気に対してプラスであるが、具体策や財源等が不明確で、将来への不安から貯蓄を優先する可能性が非常に高い。7月も中旬までは堅調に推移したが、後半に入って消費者の購買意欲が一気に低下し、今後数か月は、この傾向が続く。
	変わらない	百貨店（販売担当）	・販促企画を行えば来客数や売上が増加するため、今後の施策によって、好不調は変化する。
	変わらない	百貨店（販売担当）	・英国のEU離脱問題や中国経済の減速等の不安定要素があり、購買意欲を刺激する材料に乏しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・円高が続き、輸出企業も以前のような利益が確保できない。新興国でも特に中国の経済が悪く、欧州経済にも影響する。我が国の景気も良くはない。
		スーパー（経営者）	・伊勢志摩サミットの効果は、期待したもからはほど遠く、今後も期待できそうにない。
		スーパー（店長）	・消費税増税は再延期されたが、先行き不安が強く、思い切って金を使える状況にはなっていない。必要な物は買うが、何でも買うというほど景気が良くなっている様子ではない。
		スーパー（店員）	・販売量がなかなか増えず、限られた数量しか売れない状況が続いている。景気が良くなっていく流れには結び付いていない。
		スーパー（店員）	・特にマイナス材料となりそうな出来事がないので、しばらくは変化がない。
		スーパー（総務担当）	・お中元の販売数、販売額共に、前年より少ない。
		スーパー（販売促進担当）	・売上、来客数は相変わらずで、景気が良くなっているという状況ではない。
		スーパー（企画・経営担当）	・進物やお中元の売行き次第である。ボーナスを食費の増加に回す家庭は少なそうである。
		スーパー（支店長）	・目を引く景気対策や、売上増加につながるような案が見つからない。
		コンビニ（企画担当）	・今後良くなる要因が見当たらず、先行きの不安感がある。
		コンビニ（店長）	・悪くなる理由も、良くなる理由も見出せない。
		コンビニ（エリア担当）	・良い商品に対しては、客の反応も良くなっているが、競争の激化で打ち消されてしまう。
		コンビニ（エリア担当）	・7月と同様の状況が当面は続く。
		コンビニ（店長）	・うなぎやその他の商品のセールでも、客は金を使わない。身の回りの最低限の商品だけを買って、余分な物は買わないという消費スタイルが、ずっと続いている。
		コンビニ（商品開発担当）	・消費者には相変わらず安価な物を求める動きがあり、当面、この動きは変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・残暑で、秋物の出足が鈍くなる。
		衣料品専門店〔紳士服洋品〕（売場担当）	・参議院選挙での与党の圧勝で、経済政策に期待はするが、この数か月の状況をみる限り、アパレル業界の厳しさは、簡単には変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・人気車種の新型車投入効果で、客の動きが良くなってきているが、円高、株安がマイナス要因で、結果的に変わらない状況である。
		乗用車販売店（経営者）	・消費が積極的になる材料が見受けられない。
		乗用車販売店（経営者）	・先行きも、取り立てて悪くなりそうな要因は見受けられない。
		乗用車販売店（従業員）	・秋に向けて新型車両の発売が予定されている。客の財布のひもは固いが、少しでも車に興味を持ち、来店につながるよう期待する。最近の話題では自動運転技術に関心を持たれている。メーカーには安全装備をより多くの車種に設定し、客にアピールして欲しい。
		乗用車販売店（従業員）	・良くなる要素としては、追加の経済対策がどのようなものがポイントとなる。悪くなる要素としては、円高、世界経済の動きがポイントとなる。プラスマイナス両面があり、先行きがどうなるかが読めない。
		乗用車販売店（経理担当）	・低迷する個人消費を喚起する景気刺激策があれば別だが、今のところ大きくは変わらない。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型車種が出る予定もないので、良くなることも悪くなることもいえない。
		住関連専門店（営業担当）	・建築業界全体が様子見で、新築物件の動きが落ち着いている。一方で、リニューアル工事や大規模改修物件は増えているため、プラスマイナスでは変わらない。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・先行きの天候が読めないで、期待はできない。
		その他専門店〔書籍〕（店員）	・なかなか本が売れない時代で、他店も厳しい状況にある。本離れが進んでいくように感じており、売上の増加を見込むのは難しい。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・景気対策が検討されているが、先行きも現状維持が精一杯である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔貴金屬〕（営業担当）	・足元からこの先2～3か月はリゾートに金を使う傾向となるので、宝飾品の動きは少し鈍る。今後2～3か月は、販売量も現状のまま変わらない。
		その他小売〔陶器卸〕（営業担当）	・景気が上向き要因が見当たらない。
		高級レストラン（役員）	・夏休みやお盆期間の予約状況は、前年同期並みで推移している。
		一般レストラン〔パン・カフェ〕（経営者）	・様々な業種の経営者から話を聞いても、景気は今一つ良くないように見受けられる。
		一般レストラン（経営者）	・夏祭り、花火、イベント等が多いので横ばいである。
		一般レストラン（経営者）	・自分の身の回りでは、景気が良くなる要素が見当たらない。
		スナック（経営者）	・この先は休みが多い時期に入り、家庭サービスを大事にする客が多いため、客足の伸びは期待はできない。
		観光型ホテル（経営者）	・9～10月の予約は、前年比で多少プラスとなっており、足元の好況が続く見込みである。世界経済等、不安な面もあるが、当業界は景気が良くなるのも悪くなるのも後の方といわれている。団体客が主流で1年前から予約が入っているため、景気の動きもすぐには影響しない。今のところキャンセルもなく予約が実行されている。
		観光型ホテル（販売担当）	・関東方面からの宿泊宴会予約が順調に入っているが、秋口の予約状況は、前年同月比では5～6%低く、今のところは回復しそうな兆しはみられない。
		都市型ホテル（営業担当）	・為替の影響等でインバウンドの動きが不明なので、現状から変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・景気の良いのは本当に一部の企業のみで、ほとんど景気の良い話を聞くことはない。先行き不安で設備投資や福利厚生への支出は少なく、ゼロ金利政策が全く活かされてない。
		旅行代理店（経営者）	・インバウンドの受入れ国の拡大と規制緩和により、量的拡大はできるが、地方にまで波及させるには時間がかかる。受入れには、宿泊施設のようなハード以外にも、人的なソフトの育成に時間がかかるほか、受入れに対する感情的な障害の除去が重要である。
		旅行代理店（経営者）	・金を使える層は常に決まっているので、2～3か月後に来客数が増えるとは思えない。消費をしたり旅行をする層は、既に来年度を見据えて旅行の計画をしている。
		旅行代理店（経営者）	・涼しい日が続いたり、リオオリンピックの開幕が迫ったり、客は夏の旅行への意欲が高まっていない。秋以降の対策に早めに切替えたい。
		旅行代理店（従業員）	・旅行申込の状況を見ると、欧州で相次ぐテロで海外旅行は大きく減少している。国内旅行も金をかけない節約旅行が増えており、インバウンドも爆買いツアーから観光重視に変わり、消費は減少している。先行きが良くなる要素は今のところ見当たらない。
		タクシー運転手	・英国のEU離脱問題等、不安材料が一杯である。円高や株価の変動もあり、景気がどうなるか心配である。今のところは、大きく変わる要素もないので、このまま変わらない。
		タクシー運転手	・良くなる要素が見当たらない。
		通信会社（企画担当）	・政治、経済、社会のどの面からみても、あまり明るい話題がなく、先行きの不透明感は一層強まっている。
		通信会社（サービス担当）	・1人1台のスマートフォンの普及により、固定電話の解約は、これからも増え続ける。
		通信会社（営業担当）	・時期的な要因も重なり、悪いままから変化はない。
		テーマパーク（職員）	・オリンピックの年なので、家でのテレビ観戦が多くなる。
		テーマパーク職員（総務担当）	・上向き要素が見当たらない。世間で話題の新作スマートフォン向けゲームも、当園には影響が少ないという報告もある。
		観光名所（案内係）	・7月末で4つの台風が発生している。自然現象はどうしようもないが、天候次第で景気にもかなり影響が出てくるため、あまり期待はできない。
		ゴルフ場（企画担当）	・9月は、施設平均でほぼ前年同月並みの予約数である。最近の様子を見ると、これから大きく来客数が伸びると思えず、景気は変わらないまま推移する。
		美容室（経営者）	・金に余裕がある時期にもかかわらず、客にはあまり動きがみられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・介護保険制度の見直しにより、サービスの利用者数が減少する可能性はあるが、競合する事業所数が頭打ちからやや減少傾向にあるため、大きな変化はない。
		設計事務所（経営者）	・全体として案件数は少なく、規模は小さいままで安定している。
		住宅販売会社（従業員）	・当分は現在の状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅関連の工事の受注量は、現在でも少ないのでこれ以上は減りようがない。住宅ローンの金利引下げも、住宅関連産業の底上げにはつながらっていない。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・来客数は横ばい傾向で、金額でも常に交渉を迫られる状況が続く。
		商店街（代表者）	・前月は好成績だったが、7月はその勢いは持続しなかった。もしこのままのペースで下がれば、2～3か月後には元の低水準に逆戻りする。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・競合店が店内改装をする等、強力な攻勢に出ているので、しばらくの間は前年より業況が少し悪くなる。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・先行きへの不安感から、プレゼントの贈り先を増やしたり交友の輪を広げることを強く自粛し、贈答品店で金を使う機会は減るように感じる。節約志向でどちらかといえば、貯金をする方向に向かう。
		百貨店（売場主任）	・客の様子では、安くて良い物を探している客が多い。値段が安いからといって商品に妥協する客は少ない。まとめ買いをする客も少なくない。8月に値段が少し上がる商品もあるので、靴を購入する客が段々と減ってくる。買換えを先延ばしする人が多くなり、売上は一層厳しくなる。
		百貨店（販売促進担当）	・インバウンドや富裕層の売上の低下が続く。
		百貨店（計画担当）	・秋物の立ち上がりの動きをみると、特に、婦人服には勢いが感じられない。
		百貨店（経営企画担当）	・円高等、企業の業績を取り巻く環境が悪くなっている状況で、そのような空気が消費にも悪い影響を及ぼしている。
		スーパー（店長）	・今のところ来客数は上昇しているが、近隣の競合店との価格競争も厳しくなっており、前年割れに突入する恐れがある。
		スーパー（人事担当）	・最終的にはお盆の状況をみないと判断がつかないが、足元の商品の動きは鈍い。
		スーパー（商品開発担当）	・7月は売上が前年の99%、来客数は98%、購入点数が97.8%と、上期中で最も悪い数字となっている。競合店の出店が加速するなか、客足を取り戻す対策は思うように効果が出ず、苦戦はまだ続く。
		スーパー（営業企画）	・ここ数か月、売上には徐々に陰りが出ており、この傾向が一層強くなる。金融緩和政策追加の動きもあるが、かえって景気の停滞感を募らせるように感じられ、消費行動は慎重になる。
		スーパー（ブロック長）	・株価の下落や牛肉を代表とする食料品の値上げ等、マイナス要因が強い。
		コンビニ（企画担当）	・安定志向の人が増え、状況が良くなくても、こんなものかと肯定するムードである。変化の兆しがあるとすれば技術であり、新作スマートフォン向けゲームが国内から海外にまで広く拡大すれば、人の行き来が活性化する。
		コンビニ（エリア担当）	・客の購買意欲が回復する雰囲気は全くない。高い商品が全く売れなくなってきて、安売り商品も以前ほどは売上が伸びない。この先は更に悪くなる。
		コンビニ（店長）	・コンビニ以外のドラッグストア等、異業種との競合による影響が少しずつ出ており、その影響は今後も続く。
衣料品専門店（販売企画担当）	・一時は売上も増加し、回復傾向とも見受けられたが、ここに来て、再び落ち込み続けている。		
乗用車販売店（従業員）	・新型車種の発表等、新車の販売増加につながる要素がなく、ここ2～3か月の状況から考えると、販売台数は更に落ち込む。		
一般レストラン（従業員）	・夏に消費した分、その先の財布のひもは固くなる。		
その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・何らかの、これで景気が良くなると確信を持てるものがないと、なかなか景気は向上かない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から先行きはやや悪くなる見込みである。
		都市型ホテル（経営者）	・不安定要素があり、景気の先行きが見通せない。
		都市型ホテル（支配人）	・競争の激化が見込まれる。
		都市型ホテル（経理担当）	・宿泊人員が伸び悩んでいる。
		パチンコ店（経営者）	・業界全体が薄利多売に移行しているため、競争が激化している。
		理美容室（経営者）	・客との話で、様々な物の値段が上がって給与は上がらないため、景気は段々悪くなる。
		美容室（経営者）	・客が高齢化してきているので、伸び悩んでいる。
		美容室（経営者）	・地域全体の景気が良くない。職場がなく、良くなる兆しが無い。
		設計事務所（職員）	・輸出に関しては、基本的に円高が続くそうである。景気対策も具体的な時期等の話が聞かれず、安心材料がない。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・材料の品質よりも価格に関心が向き、低価格の材料での受注が増えている。特に賃貸物件は低価格傾向となる。景気の良い話は聞かない。
	悪くなる	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・外食への支出をみると、財布のひもは固くなっている。外で夕食をとる時も、アルコール等の金のかかる飲料は控え、無料の水だけで済ませる客が増えている。
		一般レストラン（経営者）	・世界の国々が急激な変化を迎えており、先行きの方向性が見えない。
		理容室（経営者）	・周りでは、景気の良い話は、少しも出てこない。
住宅販売会社（経営者）		・先行きが不透明で、不安が広がっている。現在は不安要素が多く、先行きは一層悪くなる。	
企業 動向 関連 (東海)	良くなる	-	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（企画担当）	・テロが続く等、国際社会情勢に不確定要素は残るものの、年末商戦に向けて、売上は徐々に伸びていく。
	変わらない	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・案件の1つが1年半かかる長期プロジェクトで、当面は新規案件を探す必要がない。
		食料品製造業（営業担当）	・取引先の販売業や製造業では、来月以降の受注量、生産量共に例年以下で、人件費の問題から雇用の確保が難しくなるかもという声を多く聞く。残った人や企業には景気の変動はないが、職を失う人も多く出そうな状況である。
		食料品製造業（経営企画担当）	・先行き不安からか、消費には勢いが欠けている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・例年は、需要が多くなる時期だが、天候不順や英国のEU離脱問題等で、今年はあまり期待できず、景気は今と変わらず、あまり良くない。
		化学工業（総務秘書）	・採用は売手市場の模様で、人手不足感があるということは、景気は悪くはない。しかし、所得格差は拡大しており、所得の低い層では景気が悪いと感じ、今後、社会が不安定にならないことを望む。今すぐに社会が不安定になることはないため、景気は横ばいである。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・新分野の製品はまだ伸びる可能性が高く、他の製品の売上が若干減少している分を、十分に補うことができる。
		鉄鋼業（経営者）	・すぐに大型の物件や見積依頼があるわけではなく、夏場は落ち込む時期でもあるので、現状より上向き可能性は低い。
		金属製品製造業（経営者）	・引き合いも減少しており、引き続き変わらない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注状況に変動はない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・円高が続くが販売価格を変更することはできないので、利益を確保できていない。米国の自動車部品製造者からの引き合いは多いが、親会社の都合で突然計画が中止や延期になることが増えている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・働く者としては、収入が増えたわけでもなく、アベノミクスの効果はさほど感じられないので、最終的に消費が増加するとは考えにくい。海外向けも、為替次第でどうなるかわからない。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・客先の生産計画では、横ばいの見通しである。
		輸送用機械器具製造業（研修担当）	・受注量は増えているものの、熊本地震の振替的な要素が強く、今後も大幅な改善は見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・世界経済では、中国の景気減速や英国のEU離脱問題等があるが、為替相場はいったん円高に向かったものの、円安方向に戻っているため、先行きも変わらない。		
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・円高の影響を受け、利益は引き続き低調な見込みである。		
		建設業（経営者）	・当地の主要産業である自動車産業では、円高に対する不安が現実となっている。現時点では大きな変化はないが、今後の消費者のマインドに、どのような影響があるかは未知数である。		
		輸送業（従業員）	・上昇していた原油価格がまた下降傾向となり、コスト面で物流業界には一服感がある。トラックは需要が多く、納車まで一年以上かかる状態である。バスは更に納車に時間を要し、業界によって景況感には差異がある。		
		輸送業（エリア担当）	・貿易関連の企業は、為替の動向を様子見である。		
		輸送業（エリア担当）	・主要荷主からは、明るい話が1つも聞こえてこない。		
		輸送業（エリア担当）	・今の日本経済は、購買意欲を刺激するような新製品が生まれ出せない。経済全体がこうした流れのなかで、起爆剤になるとすれば、政府主導による経済政策である。今のところそういう動きはみられないため、景気の先行きは、現状のままである。		
		通信会社（法人営業担当）	・28兆円の補正予算、電力会社の料金値下げ、有効求人倍率は全都道府県で1倍を超え、消費者物価指数が4か月連続で前年同月を下回る等、景気の上向き要因がどこまで個人消費を押し上げるかによる。英国のEU離脱問題により為替や株価は、以前の水準に戻っているが、9月以降に離脱の動きが本格化するかは不透明である。		
		通信会社（法人営業担当）	・アベノミクスでは追加の経済対策が検討されているが、大企業から中小企業への浸透速度の問題なのか、取引先からは、なかなか景気の良い話は聞こえてこない。いつになったら経済対策の効果が、多くの企業や消費全体に広がるのかわからず、不安さえ感じる。		
		金融業（法人営業担当）	・地元自動車メーカーでは、当面の国内生産計画は前年並みであり、地域全体の生産も堅調に推移する。		
		金融業（企画担当）	・株式相場が好転しなくては、個人投資家の投資意欲も購買意欲も戻ってこない。		
		不動産業（用地仕入）	・景気を大きく左右する要因が見当たらない。		
		企業広告制作業（経営者）	・新作スマートフォン向けゲームが経済全体を押し上げるわけではない。一過性の社会現象に一喜一憂していても、ぜい弱な経済体制の本質は変わらない。関西の家電メーカーの例でも、再建は困難なことを印象づけられた。英国のEU離脱問題の影響は、現段階ではみられないが、米国の大統領選挙の行方も不透明で、不安定要因が多い。テロ対策も打つ手を失っている。こうしたムードのなかでは、景気が良くなるはずはない。		
		広告代理店（制作担当）	・秋の商戦に向けて、特別な動きはまだなく、各企業とも様子をうかがっている状態である。		
		公認会計士	・政府の中小企業施策は、総花的で具体性を欠いており、中小企業の業績の実態を把握していない。		
		行政書士	・燃料価格が今年に入って下がっており、経営的には赤字の縮小が続いている。		
		会計事務所（職員）	・リオオリンピックや東京オリンピックに期待をしつつも世界経済が落ち着いた状況では希望が持てず、投資意欲も沸いてこない。		
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・景気の循環において、現在が底なのか更に下があるのか判断がしづらい。我が国の経済にとっては、1ドル100円程度ならば何とか対応できる範囲である。個々の企業としては新製品の開発が求められる。		
		やや悪くなる		印刷業（営業担当）	・業種のためか、地方の事情なのか、周りも含めて景気に関する良い話は聞かない。
				化学工業（営業）	・原料価格が若干値上がりする見込みである。値上げ幅が小さく客への転嫁が厳しいため、7月と比べて収益が若干悪くなる。
化学工業（人事担当）	・英国のEU離脱問題の影響がどうなるか不明であるが、円高の進行やテロの懸念等、景気にとって悪い話ばかりでしばらく景気が良くなるとは思えない。				
金属製品製造業（従業員）	・今年度の仕事量に関しては、悲観的な声がよく聞かれる。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		電気機械器具製造業（営業担当）	・円高の影響が続く。	
		輸送業（経営者）	・運転手や倉庫内作業員の不足が深刻である。多少の物量減では、必要な人手は変わらず、派遣人材の多用で大幅なコストアップが想定される。	
		輸送業（エリア担当）	・人員不足を補うために、時給や外注単価を上げざるを得ないが、客からは適正な単価を得られる状況にはなっていない。	
		金融業（従業員）	・自動車産業は現状もあまり良くないなかで、数か月後にも回復の見込みもなく、見通しはあまり良くない。	
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・客層の高齢化、若年層の購買力の低下、人材確保も困難なことから、先行きもやや悪くなる。	
		会計事務所（社会保険労務士）	・客先の個人飲食店では、来客数、客単価共に下降気味である。ボーナスが支給されても、消費より貯蓄に回っている。	
		悪くなる	出版・印刷・同関連産業（代表）	・消費者と直接的に向き合っている客からは、先行きへの不安の声が強くなっている。将来への不安感がなくなる限り、見通しは暗い。
雇用 関連 (東海)	良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・客先の業界では、監督機関による指導の影響で、設備投資が当社製品に関連する部分以外に流れるため、当社製品の出荷は減少する。	
		人材派遣会社（支店長）	・契約開始の派遣労働者数と契約終了者数の差がプラスになっている。人材調達の環境が厳しくなっていることもあり、派遣先の意向で契約終了となるケースが前年より大幅に減っているため、稼働者数の増加に伴う売上増加は、しばらく続く。	
		人材派遣会社（営業担当）	・年度下期に向けて、転職希望者や求人も増えることにより、派遣市場は活発化してくる。	
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・下期の生産体制を安定させるために、今から人材を確保し、採用した人材の定着率を上げようという動きがある。	
		職業安定所（職員）	・大規模な経済対策が予定されており、人手不足が厳しくなると見込まれる。	
		変わらない	人材派遣会社（社員）	・この先の予約状況も良く、現状の好調さは変わらない。
			人材派遣会社（営業担当）	・先行きにポジティブな材料が見当たらない。
新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・変化する要因が見当たらない。			
職業安定所（所長）	・賞与水準が前年より良くなったという企業はみられず、従業員の賃金等、待遇改善が進んでいないため、消費が活性化する材料が見受けられない。			
職業安定所（職員）	・求人数、求職者数共に減少が続いている。			
職業安定所（職員）	・求人、求職が悪化する要因は見当たらないが、今後、中国経済の減速や消費税増税の再延期等の影響が懸念される。			
民間職業紹介機関（営業担当）	・雇用環境は好転する可能性はあるが、夏場を迎え10月転職を目指す人が増える時期であるため、先行きが見通しづらい。			
民間職業紹介機関（窓口担当）	・足元の求人動向に変化はなく、人手不足の感が否めない。受注はあるが、業況が大きく上下する要因は考えにくい。			
民間職業紹介機関（支社長）	・採用意欲も活発にみられ、求人数にあまり変化はないと見込まれる。			
学校〔専門学校〕（就職担当）	・インターンシップに参加する学生が多い時期だが、前年以上の受入れ企業、参加者数で、対象学年の拡大もみられる。			
やや悪くなる		その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	・当分変化はない。	
		人材派遣会社（営業担当）	・周りの製造業等の動きから、先行きの営業状況は不安定な見通しである。大手製造業の予算削減で影響を受ける企業は多い。徐々に他の製造業にも影響が広がり、2～3か月先には身の回りの景気は、現状よりやや悪くなる。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・参議院選挙も終わり、夏休みを挟んで少しは良くなるとの望みを持つが、良くなるための材料が少なすぎる。まずは、安心して金を使えるムード作りが必要である。	
		職業安定所（職員）	・医療・介護分野では、慢性的な人手不足で引き続き求人が多いと考えられるが、製造業では、円高による影響が懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・慢性的な人材不足が続いているため、企業が予定した雇用を確保できず、生産性が低下する。

6．北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店〔事務用品〕（店員）	・季節商品の売上増が見込まれ、商談の引き合いが増え始める。
		コンビニ（店舗管理）	・前年のプレミアム付商品券効果との対比差がなくなるため、前年比では良くなる方向である。
		家電量販店（店長）	・昨年は7月中旬から季節商品の売上ピークに入ったが、今年はピークが遅く8月度も伸びると見込まれる。オリンピック特需も緩やかではあるが、テレビ、レコーダーが売上を伸ばしているのももう少し続く見込みである。
		乗用車販売店（経営者）	・大手自動車メーカーの燃費不正問題が一段落したので、これからは軽自動車も含めて販売に対して動きが出ると思う。
		乗用車販売店（従業員）	・月末から数週間、自社独自イベントの開催を予定しているため、来客数増加を期待している。
		住関連専門店（役員）	・耐久消費財を扱う当社では、年間でも比較的動きがみられる時期に入ってくることと、来店数、販売数量が過去数か月は増加していることから、前向きな予測が立てられる。また、住宅着工件数などからも、これから動きが活発になると考えられる。
		通信会社（営業担当）	・新型スマートフォンの発売を見込んで、総合的に販売数は増えるとみられる。
		住宅販売会社（従業員）	・大型造成地の分譲が始まり、北陸新幹線延伸に向けての住宅需要が高まる。
	変わらない	商店街（代表者）	・大きな変化は期待できない。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・ここ2～3か月の間に、集客が見込める商業施設がオープンする。それにより来客数は増えてくると思うが、今の状況では購買意欲がそれほど上がるとは思えないことから、差し引きであまり変わらないとみている。
		百貨店（売場主任）	・政府の経済対策で、2,200万人の低所得者を対象に1万5千円を給付し消費を喚起すると発表があり、経済の底上げを期待している。ただし、過去の実績から効果は日常の食料品などの日用品に限定され、百貨店が受ける恩恵は薄いと考える。
		百貨店（営業担当）	・個人消費は低迷していて、今後もプラスになる要因が無いことから変わらないと考える。
		百貨店（営業担当）	・夏物衣料関係が猛暑で非常に売れているが、逆にメーカー側は生産を調整しており需要に供給が追いついていない。後半戦以降は苦戦が続くそうである。
		スーパー（店長）	・この6～7月の流れをみても、この先で特に環境の変化も無いということ踏まえると、特に変わらないのではないかと考える。
		スーパー（店長）	・現状のお中元や夏物商戦は今一つ売れていないのが実情であることから、これからのお盆商戦に期待している。また、来月からのオリンピック効果を期待している。
		スーパー（総務担当）	・リオオリンピックがあることで、家庭内での食品の消費が増えるプラス要因はあるが、他は現状通りで推移するとみられる。
スーパー（店舗管理）		・前年のプレミアム付商品券などの影響を差し引いても、今年は競合店の出店があり、昨年より来客数の増加は見込めない。	
コンビニ（経営者）	・来客数の減少を客単価の上昇でカバーしている。特に主力系の商品、お弁当やおにぎり、麺類が前年を割り込んでいる。それをカバーしているのが、暑さのせいアイスクリューなどになっている。主力商品が現状で前年を割り込んでいる状況では、トータルの上上が上がっていくとは見込めず良い傾向ではない。		
コンビニ（経営者）	・売上は、相変わらずイベント日の天候や気温に依存する状態であることから、売上の増減はあると思うが、そのほかの部分では大きな変化はみられない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・業種間で好不調があるのに加え、同業種でも好不調がある。また、大企業や役所にしか就職希望者が集まらず、今後、地方の小売はどうしたらいいかわからない。
		家電量販店（店長）	・リオオリンピックによるテレビやブルーレイレコーダーの販売が先行した事で、年末までは変わらない状況が続くそうである。
		乗用車販売店（役員）	・最近の受注状況は、計画分を確保しているため中間期末に期待している。
		自動車備品販売店（役員）	・相対的に集客が落ちており、今年に入り変わらない状況。今後の不安要素である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	・季節商品に期待したい。新製品、話題商品が見当たらず、厳しい状況が続くそうである。
		高級レストラン（スタッフ）	・週末は観光客や個人の記念日などで賑わうが、平日の法人客の利用は、接待はもちろん会費制の会合も減る一方である。
		一般レストラン（店長）	・観光入込客数と地方の飲食店、商店の景況感にはかい離があり、良くなっていく方向には考えにくい。
		観光型旅館（スタッフ）	・7月以降の予約保有は、9月の92%以外の月は70～85%の保有となっている。北陸新幹線開業で予約が多かった昨年と今年では大きく仕入れ環境は変化し、従来の様子に戻っている。また、九州ふっこう割の影響も出てきている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・8月の宿泊予約状況を見るとそこそこの予約が入っており、単価は下がると思われるが稼働は良く、今以上の落ち込みはないと考えられる。
		旅行代理店（所長）	・特に大きな話題性がなく受注が伸びる要素が乏しい。
		タクシー運転手	・観光客やビジネス客などで大きな伸びは期待できない。夏にお金を使い、財布のひもも少しずつ固くなると考えられる。
		通信会社（営業担当）	・前年比で来客数はやや増えているが販売量は変わっていない。ボーナスの時期なので少し動きが出ることを期待したい。
		通信会社（役員）	・8月のリオオリンピックを契機に、4Kや8Kなどの高解像度映像への関心が高まっていることから、多くの専門番組を有する放送サービスの契約が今後増加すると考えている。
		通信会社（店舗統括）	・新機種発売のうわさがあるので期待したいが、大きな変化になるとは考えにくい。
		通信会社（役員）	・ボーナスの時期で7月は好調であったが、4～5月の苦戦を考えると2～3か月先は楽観視できない。
		美容室（経営者）	・目新しい商品に対しては、多少、高額であっても客がお金を出すようになってきた。
		住宅販売会社（従業員）	・客の動きは鈍化しており、新築、リフォーム共に増える様子はみられない。例年、お盆前は客の動きが良くないのだが、今年は例年にも増して動きは弱い。イベントでの需要の掘り起こしは思ったほどの効果は出ていない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅を購入するきっかけとなる要因がない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・地方では、消費税増税に対応する賃金アップはなく、この夏もボーナス支給は見送りという企業が多数のようである。収入がむしる減らされる状況では、景気が良くなるはずがない。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・今年の上半期だけで、国内外問わず今年の十大ニュースが出そろった感がある。この先もアメリカ大統領選挙などがあり何が起こるかかわからない。日銀の金融政策決定会合に期待したい。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・現在と比べても良くなる要素が見つからない。
		百貨店（営業担当）	・今年度に入り店全体が低迷している。まだこのような状況が続くとみられる。
		スーパー（総務担当）	・今後来客数はなかなか増加せず、物価が上がる要素はない。
		衣料品専門店（経営者）	・今後も浮上のきっかけは見当たらず、低価格の物でも必要な物だけを買うという流れは変わらない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・競合店オープンから1年経過したが、前年比の改善は想定を下回る。特に衣料品、食料品、飲食業種については昨年度に自店で実施したりリニューアルの反動も出ており、苦戦が続くとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（統括）	・客のデフレ心理、先行き不安が影響してか、外食の回数を減らす傾向がみられる。客単価が千円以下の店ではあまりその傾向はみられないが、二千円以上の店では、その傾向が徐々に顕在化している。
		スナック（経営者）	・客から楽観的な様子はみられず、経済的にも国際情勢的にも先々の不透明感が広がっている。
		観光型旅館（経営者）	・夏休み期間中は前年並みの予約状況だが、9月以降はシルバーウィークの日並びの影響に加え、今年はふるさと割がないことから、大幅に客が減少するとみられる。
		タクシー運転手	・暑い時期であるにもかかわらず、相変わらず深夜の需要が少ない。
		通信会社（職員）	・先行き不透明感はしばらく続き、生活必需品以外の支出は極力抑えられる。
		その他レジャー施設（総支配人）	・業務受託先の公益法人から、下期の業務委託を減らすと通達が出た。その穴埋めができる新たな要素がほとんどないため、売上減にならざるを得ない状況である。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税の再延期による需要先延びと英国のEU離脱問題、円高によって経営環境が一気に悪化している。賃金の上昇が見込めない不安定な経済情勢から客は様子見になり、成約受注に進むまでの長期化は避けられない。また、大幅な集客数の減少につながっている。
悪くなる		その他専門店〔酒〕（経営者）	・大企業の景気は良いが、こちらには何ら波及しないし、これから大企業がよいことばかりとは思えない。また、その恩恵がこちらに波及するまでは時間がかかるし、波及する保証もない。これからも、こうした低迷した状態は続く。
		テーマパーク（役員）	・前年の北陸新幹線開業効果の反動もあり、国内の団体、個人旅行は前年より大きく落ち込んでいく。また、インバウンド客は、現在の為替状況や海外のさまざまな景気状況から前年と比べて動きが鈍い。全体としては悪くなる方向に考えている。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる やや良くなる	-	-
		食料品製造業（役員）	・この夏以降に業務用商材の販売価格が数%アップで改定される。一方で、為替の影響で輸入原材料価格が5%程度安くなる見込みなので、業績面はやや良くなると思われる。
		建設業（経営者）	・大型の経済対策が発表され、今後の公共事業の発注が期待できる。しかし、当地区でどの程度期待できるかは、まだ不明である。
	変わらない	税理士（所長）	・経営者の話を聞いていると、8月のお盆以降あるいは9月以降、ビジネスチャンスが多くまとまるという話がなぜか多い。このことから、あまり過度な景気対策をしなくても、円相場が高いなら高いなりに安定してくれば、それなりに生産態勢が回復してくると考えられる。円とドルの相場の動きが激しい時に少し止まるが、逆に安定してくれば、製造業は計画を立て直して回復してくることから、今後は良くなる見通しではないかと考える。
		繊維工業（経営者）	・政府の経済政策に期待を寄せるものの、買い控えによる国内消費の低迷や輸出の厳しさなどが続くと考えられる。
		繊維工業（経営者）	・衣料については全体的に悪い。今後の展開は新製品開発次第である。非衣料については低位安定の状況である。
		化学工業（総務担当）	・今後の受注額は変わらない予定である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・英国のEU離脱問題、新興国や資源国の経済の下振れ、日銀の金融緩和追加など、予断を許さない不透明な状況である。良くなるか悪くなるか判断しづらい状況にあり、先が見通せない状況である。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の注文の入り具合を見て、変わらないと考えた。
		精密機械器具製造業（役員）	・国内市場では不安感が相変わらず払しょくされず、今のところ仕入れ制限や商品委託の依頼があるなど、あまり好材料は見受けられない。
輸送業（配車担当）	・英国のEU離脱問題の影響で、輸出関連の荷動きが不安定な状況が続く。		
通信業（営業担当）	・セキュリティ商材の販売は変わらずに好調である。		
金融業（融資担当）	・急な外部環境の変化は見込まれず、しばらくは我慢の時期である。		
新聞販売店〔広告〕（従業員）	・通常、折込広告は参議院選の公示後から投票日の間までチラシの出稿が停滞し、その後に巻き返す形で出稿増になる傾向がみられる。しかし、今回は停滞したままである。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	司法書士	・アパート建築、マンション購入は堅調ではあるが、賃貸物件等については人口減の傾向の中で供給過剰になっている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・今後、数か月間のうちに各国での政治的、経済的イベントが予定されており、それらの結果と動向次第では更なる為替の不安定化を招き、厳しい状況になると見込まれる。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・英国のEU離脱問題やテロの関係で欧州市場が先行き不透明で、今後は米国や国内市場への影響が考えられる。
		建設業（役員）	・特に当地域において受注競争緩和の兆候はみられず、工事発注量が不透明であるため、今後さらに競争激化が続く見通しである。
		金融業（融資担当）	・建設関係は当面の大型工事が少なく、しばらく我慢が続くと聞いている。
		不動産業（経営者）	・法人客が少なくなってきたり、個人客からの問い合わせもかなり少なくなっている。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
(北陸)	変わらない	人材派遣会社（役員）	・派遣人材が集まらないため、需要先に迷惑をかけている状況である。
		人材派遣会社（社員）	・7月の参議院選に関連した短期の派遣登録者数は多かったが、新規の長期派遣登録者数の減少は当分続きそうである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用計画の話が出てこない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・現在のところ大きな変化の兆しなどはなく状況が変わらない。
		職業安定所（職員）	・求人、求職の状況において、現在、大きく動向が変わる要因は見当たらない。有効求人倍率の高止まりの状況が続くことが見込まれる。
		職業安定所（職員）	・製造業の輸出関連会社が、英国のEU離脱問題で生産について少し様子を見ている。景気が落ち込むということはないが、製造業を中心に求人が横ばいとなるのではないかと考えている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・今後、受注が増えてきた時の人材確保がより一層難しくなってくる。
		職業安定所（職員）	・ほとんどの事業所では今のところ円高の影響はないとのことだが、今後何らかの影響が出てくるだろうと不安視している。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・不安材料を抱える世界経済の下では、製造業などの企業で採用の様子見の状態が続くのではないかと考えられる。	
	学校〔大学〕（就職担当）		
	悪くなる	-	-

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	良くなる		
	やや良くなる	商店街（代表者）	・7月末に、新作スマートフォン向けゲームが配信され、当商店街にも人気スポットが設置されているため、集客のチャンスと考えている。
		百貨店（売場主任）	・今月だけが前年比でマイナス5%と落ち込んだため、8月以降、周りの環境が落ち着いてくれば少し戻ってくる。
		百貨店（企画担当）	・前年にインバウンド売上が急増した反動については、9月以降は小さくなっていく。今が反動減の影響が最も大きい時期であるため、今後はマイナスの動きが緩和される。
		百貨店（営業担当）	・新ショップを導入するため、新規顧客の増加が期待される。
		百貨店（外商担当）	・欧州の政情不安が一段落し、株価が戻ってきたほか、政府の経済対策が決定することにより、消費マインドが幾分回復してきている。
		百貨店（営業企画）	・英国のEU離脱問題やテロ、円高といった外的要因が落ち着いてきたほか、参議院選挙での与党の圧勝も安心感につながった。大型の経済対策が具体化すれば、年後半に向けて徐々に回復してくることが期待される。
		スーパー（店員）	・梅雨が明けて、スイカや桃、メロンなど、単価の高い果物がよく売れ始めている。また、今後は野菜の価格も下がることが予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		スーパー（社員）	・多くの店舗で、競合店による新たな出店の影響を受けているが、一定の来客数は確保できている。この状況は当面続くと予想されるほか、今夏は暑くなることから、スーパーでは例年以上に活発な商品の動きにつながる。	
		コンビニ（経営者）	・イートインコーナーでの利用をねらった飲食品で、プレミアム系商品がこれからも開発される予定であり、それに伴って客単価の上昇が期待できる。	
		コンビニ（経営者）	・客の健康志向が強くなり、野菜のサラダのほか、スムージーなどの野菜ジュースがよく売れているなど、プラスアルファの購入がみられる。	
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・秋物オーダースーツの注文が順調に入ってきている。今年は夏物と秋物の間の閑散期がないように感じる。	
		高級レストラン（スタッフ）	・例年、お盆前後は顧客の予約が増える。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の先行予約は依然として厳しいが、宿泊は好調な状態が続く。	
		旅行代理店（役員）	・海外旅行は、過激派組織によるテロなどが発生し続けているものの、あまりにも多発しているため、客が麻痺してきている感もある。欧州方面の復調が見受けられることで、今後はやや良くなると期待している。	
		タクシー運転手	・海外の危険度が増しているため、旅行先には国内を選ぶ傾向が強まっている。ホテル関係でも客は増えており、今後は夏にかけての暑さやレジャー客の増加で利用が増える。	
		タクシー運転手	・これから京都はお盆の寺参り関係で人出が増え、9月に入ると修学旅行生も多くなるため、良くなる。	
		タクシー運転手	・新作スマートフォン向けゲームで人が動けばよいと思う。また、観光地では短い距離でも利用が見込まれる。	
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・消費税増税の延期で駆け込み需要はなくなったが、過去最低の超低金利がプラス要因になっている。	
		変わらない	商店街（代表者）	・客には高齢者が多く、生活防衛の動きがみられる。
			一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・景気対策として、内閣改造後に何か手が打たれる見込みであるが、地方が実感を得られるかどうか不安である。景気が回復するまでには時間がかかる。
一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・前受受注や新規開店の情報がないため、このままの状態推移する。			
一般小売店〔衣服〕（経営者）	・経済が好転しているとはとても感じられず、数か月先も景気が良くなっているとはどうしても思えない。数か月先は秋冬物が動くはずの時期であるが、どうなるか心配である。			
一般小売店〔野菜〕（店長）	・どうすれば良くなっていくのか、見当がつかない。			
一般小売店〔花〕（店員）	・客の節約志向は変わらないが、例年どおりの売上があるため、節約しつつもお金を使っているように感じる。			
百貨店（売場主任）	・長期予報では9月の残暑が厳しいため、秋物の立ち上がりは苦戦が強いられる。一方、外国人観光客の売上も期待薄である。			
百貨店（売場主任）	・これまで需要を支えてきたインバウンド需要や高額品需要が、直近で回復するとは考えにくい。中間層の所得が増えない限り、需要が回復する見込みはない。百貨店、取引先共に、直近は売上が伸びないと予想されるなか、経費削減などで利益をいかに安定させるかが重要であり、大きく改善するとは考えていない。			
百貨店（売場主任）	・売上が劇的に増えるような状況の変化がない。むしろ、これまでのインバウンドの増加による反動や、富裕層をねらった投資が裏目に出始めている。			
百貨店（営業担当）	・景気が良くなる要素が見当たらないなか、高額品の購買意欲の低迷や、低価格志向の継続、インバウンド売上の不振が続く。			
百貨店（服飾品担当）	・今秋は気温の低下が期待できるため、顧客の関心が軽衣料から重衣料にスライドすることで、昨年以上の購買が予想される。ただし、顧客の購買意欲やスタイルが大きく変わることはない。百貨店を買物の中心として活用している顧客は、客単価が前年比で101%と上昇しているため、中間層の購買意欲が今後のかぎであり、モノ以外の好奇心をくすぐるようなアプローチが求められる。			
百貨店（サービス担当）	・来月の催事などに変化はなく、海外観光客の免税額も減少傾向にある。今後は、全社的に売場のリニューアルを進め、来客数の増加による売上確保に努めたい。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販促担当）	・今後数か月は、消費に影響を与える要素が見当たらない。リオオリンピックは外出が抑えられるため、マイナスの影響となる。一方、暑さが長引けば、8月は夏物の動きが活発になるものの、9月以降は秋物の動きが鈍る。参議院選挙は終わったが、株価や景気の見通しは難しい。
		百貨店（売場マネージャー）	・株価が今のところ落ち着いているためか、高級ブランドや宝飾品などの売上も、現在は堅調に推移している。ただし、ファッション部門はファストファッションなどとの二極化がますます顕著になっており、百貨店のボリュームラインである冬物の定価商品がどこまで動くのかを注視している。
		百貨店（商品担当）	・英国のEU離脱問題による影響が徐々に小さくなり、参議院選挙の結果も、経済に好影響を与えている。株価が安定的に推移すれば、一進一退ではあるものの、大きく崩れることはない。
		百貨店（マネージャー）	・英国のEU離脱問題による金融市場の冷え込みが終息した。株価も落ち着き、富裕層の購買力は維持されているが、インバウンド消費は今月も前年比で20%の減少となっている。来客数も減少傾向となるなど、中間ボリューム層の消費意欲が戻ってきたとは感じられず、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（経営者）	・チラシなどに掲載されているパーゲン品を狙って、客が競合店などを買い回っているようで、デフレ傾向は変わっていない。
		スーパー（店長）	・昨年のプレミアム付商品券の反動もあり、今後も相変わらず悪いままである。
		スーパー（店長）	・現在の単価ダウンの背景には、夏休みやお盆での出費もあり、冬までは節約が続くと予想される。
		スーパー（店長）	・8月は、プレミアム付商品券の反動が7月よりも大きく影響し、販売点数、単価共にダウンが予想される。
		スーパー（店長）	・今月を含めて、給料日以降は販売が伸びるが、翌月の下旬にかけて売行きが鈍る動きが続いている。月トータルでは昨年並みか、やや下回る状況となっている。
		スーパー（経理担当）	・全体として景況感はずっとしないが、状況が大きく悪化する要因も当面は見当たらず、小康状態が続く。
		コンビニ（広告担当）	・外的要因によって変動するが、小売業では日々の大きな変化は出にくい。中長期的に変化してくる可能性はある。
		コンビニ（店員）	・暑さで飲料やアイスの購入が増えている。
		衣料品専門店（経営者）	・相変わらず良くなる要因が少ない。株価は少し持ち直しているものの、良くなる決定打がない。
		衣料品専門店（販売担当）	・いつまで続くかは分からないが、買い控えが続く。
		乗用車販売店（経営者）	・車検予約、新車販売台数のすべてにおいて、変化がない。
		乗用車販売店（販売担当）	・販売台数は増加しているが、単価が下がってきたため、良くもなく、悪くもない。
		乗用車販売店（営業担当）	・各メディアから発信される情報は、負の要素の強い内容ばかりである。各家庭にとって、今後の生活を楽観視できる材料は何もないため、買い控えの意識が更に強くなる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今年の長期天気予報では、8月は暑い日が多くなる。天候に左右される業種であり、夏は暑くないと季節商材の動きが鈍くなるため、売上には良い影響が出る。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・特に景気の良くなる理由が見当たらない。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・消費の改善につながるプラス要素はなかなか見当たらず、今のような状況が続く。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・新しいカタログも発刊されるため、しばらくは今の状態が続く。
		高級レストラン（企画）	・今後の為替動向のほか、企業の宴会需要、個人消費に不安要素がある。
		一般レストラン（経営者）	・会社関係による飲食店の利用機会が少ない時期となり、インバウンドの需要も減少しつつあるため、期待は薄いが、ウェディング事業に動きが出てくるほか、小規模のパーティーを地道に取り込むことでバランスを取る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（企画）	・販促活動を強化すると来客数は増えるが、その後は反動が出るため、トータルでは大きく押し上げるには至らず、まだまだ景気が良いとはいえない。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・景気回復を期待させる明確な経済対策もない。先行き不安から、消費者の財布のひもは依然として固い。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・客単価は上がっているが、売上は前年から変わっていない。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・気温に左右されると予想され、気温が高過ぎると外出する人が少なくなる。新商品もないなど、今のところは可もなく不可もない。
		観光型ホテル（経営者）	・最近では売上が振るわず、来客数も増えていない。団体客による昼食の予約も今のところは多くないため、大きな変化はない。
		観光型ホテル（経営者）	・アベノミクスという言葉に幻惑されて、景気が良くなっているように感じていたが、客の様子をみると非常にシビアで、デフレへの対応に神経を使っている。現在よりも良くなるような政策もみられないので、変わらない。
		観光型旅館（団体役員）	・大型施設が耐震工事に入っており、町全体の経済状況が良くない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門については、インバウンドの動きも落ち着きを見せていることから、大幅な伸びは期待できない。宴会は順調に予約が入っているものの、価格の面では厳しい要望が増えてきている。
		都市型ホテル（客室担当）	・国内の旅行者については、代理店が集客に苦労しているものの、インターネット経由では順調に伸びている。一方、インバウンドは団体客の催行率が良くないが、インターネット経由の個人客は順調に予約が入っており、トータルでは現状と変わらない。
		旅行代理店（店長）	・旅行に関しては良くなる要素が見当たらない。
		旅行代理店（営業担当）	・個人消費が回復する起爆剤がなければ、なかなか回復にはつながらない。
		通信会社（経営者）	・特に変化の兆しがみられない。
		通信会社（社員）	・4K放送などの充実は遅れているが、地上デジタル放送への移行から5年が経過しているので、テレビなどの買換えは伸びつつある。これらの機会に販促を行わなければ、売上を維持するのは難しい。
		テーマパーク（職員）	・施設内では、イベントや有料施設、飲食店、販売店が客の取り合いをしている。とにかく来場者が増えないことには、収益が増加傾向にはならない。
		遊園地（経営者）	・来客数、売上共に、前年比では一進一退である。インバウンド効果も落ち着きつつあり、先行き不透明な印象が強い。
		競艇場（職員）	・全国的に売上は横ばいで、大きな変化がみられない。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・催事全体としては、昨年並みの稼働率を確保できると思われるが、物販などの売行きには波があり、全体的に横ばいの状態が続くと予想される。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・夏休み期間となり、8月にはプロ野球の公式戦が開催されるほか、人気グループのコンサートもあるので、昨年並みの来場者を見込んでいる。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・多少の変化はあるとしても、先行き不透明感が強く、重苦しい経済環境となる。増収増益の企業についても、設備投資を控え、様子を見守る状況が続く。大企業は問題ないが、零細企業の間では倒産の動きが増えてくる。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルマッサージは服を脱ぐため、暑い時期になると来客数が増える。2～3か月後はまだ秋であり、それほど変わらない。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・夏休みに入っても、リオオリンピックの開催などで、時間消費型サービスは売上アップがあまり期待できない。
		住宅販売会社（経営者）	・当社は量販店ではないので、このところの状況が、周りの景気に改善によるものとは判断しにくい。他社の様子を見ても、同じようには売上が伸びていないと感じる。
		住宅販売会社（総務担当）	・先行きの不透明感はあるが、客自体は動いているため、大きな変化はない。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・低金利やマイナス金利によって下支えされているものの、価格の上昇で実需層の動きが更に悪化する懸念がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	一般小売店〔時計〕 (経営者)	・電池交換の価格に対して、人によって安い、高いなどと反応が異なる。持っている時計や、価値観によっても違ってしまうが、所得が平均的に上がっていないと感じる。
		一般小売店〔珈琲〕 (経営者)	・中国からのインバウンド客は、中国政府の内需拡大策の発表があつてから、減少が目立っている。大阪市内の商業地でも来客数の減少がみられる。
		一般小売店〔精肉〕 (管理担当)	・参議院選挙が終わつたが、何もなかったように変化がない。東京都知事選挙を控えているが、前向きには何も変わっておらず、雰囲気为重苦しいと感じる。世界的にテロの発生が増え、リオオリンピックもいろいろな問題を抱えてのスタートであり、活気が感じられない。
		一般小売店〔花〕(店長)	・涼しくなるまでは、売上、販売量は減る。
		一般小売店〔酒〕(社員)	・円高により、高所得者の購買意欲が下がっている。セールの打ち出しで回復を図っているが、特に目立った効果は出ていない。
		百貨店(営業担当)	・インバウンドによる高級品の購入は徐々に減少している。優良顧客においても、高額品の買上が増加する要素は見当たらない。
		百貨店(販売推進担当)	・百貨店では高額品の不振が長期にわたって続いている。さらに、インバウンド需要も、中国の関税引上げや円高などで日本離れが続く、その大半は欧州に流れている。また、若者の消費意欲は依然として低いため、急激に悪くなることはないが、良くなる兆候は全くない。
		百貨店(マネージャー)	・英国のEU離脱問題、中国経済の失速といった外部環境の影響はあるが、国内の個人消費は慎重な姿勢が続く可能性が高い。中間層のモノに対する価値観が大きく変化してきている。また、徐々に高齢化が進んでいる団塊の世代の富裕層も、今後は消費意欲が減退していく傾向が強い。
		百貨店(マネージャー)	・参議院選挙後は株価が改善傾向にある一方、外食産業などを中心に、値下げを実施した企業の業績が回復する傾向がみられる。これまでは値上げに対する理解が浸透しかけていたが、大きく変化してきた。消費者の節約志向が強いという認識を企業も持ち始め、価格戦略を見直す動きが広がりつつある。今後、百貨店では厳しい商戦が避けられない。
		スーパー(店長)	・可処分所得が実質的に減っている状況で、日常の買物が増える要因が見当たらない。節約志向はまだ加速していくと予想される。
		スーパー(店長)	・昨年に景気対策として実施されたプレミアム付商品券の影響が、8～9月に客単価の面で出てくる。また、円高、株安により、富裕層の間で買い控えが出てきている。
		スーパー(企画担当)	・農産物、水産物の不振が今後も続く一方、衣料品や住居関連ではカバーしきれないと予想される。
		スーパー(管理担当)	・すぐに悪化に向かうとは考えられないが、英国のEU離脱問題を含めて、世界経済には良くないニュースが多く、景気の好転する材料が見当たらない。
		コンビニ(店長)	・お盆で出費がかさんだ影響で、買い控えが進む。
		コンビニ(店員)	・旅行シーズンが終われば、来客数もいつもどおりに落ち着く。
		家電量販店(経営者)	・客の財布のひもが非常に固い状況にある。所得の低下による将来不安が原因と感じる。
		家電量販店(企画担当)	・消費税率のアップが延期され、具体的な経済政策もみえてこないため、しばらくは景気の低迷が続くように感じる。
		乗用車販売店(経営者)	・世間では不確定要素が次々と増え、不安感が高まっている。
		乗用車販売店(経営者)	・参議院選挙は終わったが、落ち着くまでは時間がかかる。まだ東京都知事選挙が終わっていないため、政情が安定しているとは感じられず、消費が刺激される材料もない。それに伴い、今後しばらくは景気が落ち込む。
	住関連専門店(店長)	・毎年、夏のリゾートシーズンは受注が減るが、今年は例年よりも早めに受注案件が一段落したため、更に落ち込むことになる。今年に入って、春以降は受注が増えているものの、ただの前倒し受注の可能性があるので、楽観はできない。	
	一般レストラン(経営者)	・商店街の人通りが少なく、残暑も厳しくなりそうなので、良くなるとは感じられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経理担当）	・為替の変動による、今後のインバウンドへの影響が読めない。大幅に良くなる要因も見当たらないため、現状のような、若干勢いの弱い傾向が続く。
		一般レストラン（店員）	・夏休みに入り、祖父母と来店する客が増えたが、2～3か月先は夏休みも終わり、普通の月に戻る。
		観光型ホテル（経営者）	・8月の先行予約は極端に悪くはないが、ここへきて伸び悩んでおり、9月は昨年よりも大幅にダウンする見込みである。
		観光型旅館（管理担当）	・年金受給年齢が75歳まで引き上げられる可能性があり、また、年金積立金の株式運用による損失が数兆円規模との話もあり、消費者の将来に対する不安から、消費は引き締められる。
		都市型ホテル（支配人）	・まだまだ景気回復とはいえない。為替や株価は不安定であり、企業業績も人件費の高騰や人材不足、食材の原価率アップなどが足を引っ張っている。景気回復にはもう少し時間がかかる。
		都市型ホテル（総務担当）	・国内観光客の節約志向が目立つ。大阪の中心部を避け、宿泊価格の低いホテルを求めて、大阪以外のホテルに宿泊する傾向がある。
		旅行代理店（支店長）	・これだけ頻繁にテロが起きているため、不穏な雰囲気があることは否めない。また、通常であれば、オリンピック後はその開催地への旅行が増える傾向にあるが、今回は期待できない。
		通信会社（企画担当）	・スマホゲームの台頭で、手の込んだゲームが売れにくい。
		ゴルフ場（支配人）	・災害などの影響なのか、客足が伸びない。
		美容室（店員）	・秋冬に向けて髪を伸ばしたり、ボリュームをアップする客が増えるため、来店周期が若干延びる。
		住宅販売会社（経営者）	・不動産市場では、しばらく供給過多の状態が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・新築分譲マンションは、価格の高騰で投資やセカンドハウス需要が中心となるなど、住居としての需要が減ってきたため、販売状況は悪化してくる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・不動産価格が高騰しているため、金融機関の融資姿勢が変化し、取引件数は減少傾向となる。
		悪くなる	
衣料品専門店（経営者）	・3か月先も景気は悪くなる一方と予想される。良くなる気配がなく、ヒット商品も生み出せていないのが現状である。		
乗用車販売店（経営者）	・同業者をみても暇な店舗が目立つ。客は必要がなければ、部品すら交換したがない。予防整備なども、なかなか受け入れられないと感じる。		
その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・円高、株安が続き、コストも下がらないなど、販売環境が厳しい。		
都市型ホテル（管理担当）	・8月以降、アジアからの予約は激減しており、特に団体客の決定率が悪化している。また、国内客ではブライダル関連が悪化しており、来客数が減少している。		
競輪場（職員）	・例年悪くなる傾向にあり、この流れを覆す要素が見当たらない。		
企業動向関連 (近畿)	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・受注量の増加に生産が追い付いていない。製品の増産体制を再構築し、受注量と供給量のギャップをなくすことで、売上、利益を増加させたい。
	やや良くなる	食料品製造業（営業担当）	・残暑が厳しくなる予想であるため、飲料水の売上はしばらく良い。
		化学工業（企画担当）	・食品需要が低迷する季節が終わり、年末の最盛期に向かっていく。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・停滞気味であるが、受注量、販売量に月ごとの変化は少ない。新規案件の立ち上げりを加味すると、ややプラスの動きとなる。
		金属製品製造業（営業担当）	・建築関係で少し動きが出てきたという報告が上がってきている。
		輸送業（営業担当）	・例年7月に荷物が増えるのを見越した、社内のシステムや人員増加の準備がうまくいった。荷主からも高評価で、荷物がかかり増えている。
	通信業（管理担当）	・レジャーなどが更に好調となる。	
変わらない	食料品製造業（従業員）	・秋になれば、食品関連の流れも変わってくると思うが、期待できる新製品もないので、先行きは厳しい状態が続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（経理担当）	・アベノミクスの手詰まり感があるなど、環境が良くならない。
		繊維工業（団体職員）	・これまでと比べて大きな変化はなく、しばらくは消費税増税前の水準が続く。
		繊維工業（総務担当）	・消費者の購買意欲が低下したまま、回復する兆しが全くみられない。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・ここしばらくは状況に変化がない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・顧客からは、季節要因以外の増産の情報がない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・1回の発注ロットが小さくなるなど、できるだけ在庫を持たず、必要部数だけを発注する傾向がより強くなってきている。
		化学工業（経営者）	・ここ2年間、耐震工事に予算を取られていた分野は好調であるが、それ以外の分野では従来品の売上は大きく落ち込んでいる。新規案件の増加と相殺すると、今後もしばらくは景気に変化はない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・参議院選挙も終わったが、その結果として景気が上昇するようには思えない。アベノミクスの3年間の実績は、中小企業には影響が出ていない。
		金属製品製造業（経営者）	・大きな変化はなく、横ばい状態が続いている。
		金属製品製造業（管理担当）	・関西エリアでは建築物件情報が少なく、大手電機メーカー関連の今後の受注も不透明である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・石油関連の市場では、まだ長期の投資環境が良くない。受注残が多いので、短期的には景況も悪くないが、中期的に景気が良くなることはないと思われ。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・先月時点では悪くなると予想したが、受注量の減少はみられなかった。しばらくは現状が維持できそうである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・英国のEU離脱問題による影響や、テロ、米国の大統領選挙など、世界の動きが不透明であるため、注意が必要である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・引き合い件数が増えてこないほか、いつもの取引先からの発注が減少している。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・周りでは景気の良い話が聞かれない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・景気が良くなる要因がない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・海外からの受注は少ないが、引き合いはあるため、今後に期待している。
		建設業（経営者）	・8月もお盆があるため、9月以降にならなければ本格的に動かないかもしれない。
		建設業（経営者）	・東京への一極集中や、熊本地震の復旧、復興で、監理技術者、技能労務者不足が深刻になると思われる。建設業界では二極化が進みつつある。
		建設業（経営者）	・周りでは景気の良い話が聞かれない。
		輸送業（商品管理担当）	・母の日や父の日などのイベントも終わり、年末まで大きく動くことはない。
		金融業（営業担当）	・関東は東京オリンピック関連の動きもあり、条件は良いが、関西での景気回復は、もう少し時間が必要である。
		金融業[投資運用業]（代表）	・もはや黒田バズーカには期待できない。政府主導で金融政策を実行してほしい。
		新聞販売店[広告]（店主）	・折込収入は今が悪い状況なので、今よりも悪くなってほしくないが、毎週2回入っていたスーパーのチラシが1回になったり、不動産関係の広告も減っているため、先行きは良くない。
		広告代理店（営業担当）	・しばらくは大きな変動要素がない。
		広告代理店（営業担当）	・今年に入って、売上は前年並みで推移している。
		司法書士	・事件数は相変わらず少なく、案件もあまりないため、良くない状態が続く。
		経営コンサルタント	・これまでの状況を踏まえて、政府も大型の経済対策を打ち出すようである。どのような影響が出てくるのかを見守りたい。
		コピーサービス業（店長）	・やや低迷気味に推移するのではないかと予想する。問い合わせ件数も若干少なく、勢いがいい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・取引先も暇で、仕事が回ってこない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・中国人観光客の減少は否めないが、その一方で欧米のほか、タイやシンガポールなどの東南アジアからの観光客が増えている。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・輸出関連の取引先が多いので、為替が110円まで上がれば景気が上向き可能性はあるが、105円から106円であれば下火になる可能性があり、心配である。
	やや悪くなる	繊維工業（総務担当）	・明るい材料に乏しく、外注先でも仕事量が減っている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・国内ではどこからも良い話が聞かれない。ASEANで利用が増えている当社製品は、実は日本企業の海外拠点からの注文が多く、その分だけ国内の仕事が減っている。EUでは引き合いがあっても、関税が壁になっている。全体的に言えば、海外市場は成功しているものの、取引先の開拓には時間がかかる。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・昨日、大手靴卸問屋が民事再生法の適用を申請し、その連鎖と思われる靴メーカーの適用申請も続いた。今後は業界全体への影響が懸念されるところである。
		不動産業（営業担当）	・米国の利上げの見送りで円高が進み、ますます神戸から事業所が撤退しているように感じる。今後もこの状態は続くと思われ、景気は緩やかに悪化していく。
		経営コンサルタント	・食品関連の業種は、例年8月と2月は需要が落ち込むため、余計に悪くなると心配している。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・開発中の新製品の販売が始まるころには、他社の競合品の価格が下がり、割高になると予想される。
	悪くなる	化学工業（管理担当）	・円高、株安のほか、英国のEU離脱問題によって先行きが不透明になっている。
その他非製造業〔電気業〕（営業担当）		・政府の景気対策が不透明である。	
雇用 関連 (近畿)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・先の求人依頼の相談も増え始めている。
		アウトソーシング企業（管理担当）	・8月に仕事が入る予定があるため、やや良くなる。
		民間職業紹介機関（職員）	・熊本地震の復旧工事関連の日雇い求人が、いくらか出始めているとの声が、建設下請業者や日雇い労働者から聞こえてきている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・9月以降、下半期は例年よりも落ち着いた動きとなり、政府の補正予算の編成次第では8月下旬ごろから動きが活発になってくる。
		人材派遣会社（営業担当）	・10月の行楽シーズンになれば、観光やホテル業界などで求人が出てきそうだが、求職者の動きを刺激するほどではない。
		人材派遣会社（支店長）	・英国のEU離脱問題やリオオリンピック、東京都知事選挙など、先行きは混とんとしており、しばらくはあまり期待できない。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・前月は英国のEU離脱問題による景気への大きな懸念から、悲観的な回答になった。今月になって、今のところは極端な株価下落や円高もみられず、求人数も安定しているため、2～3か月は景気に大きな変化はないと予想している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・リオオリンピックと、その後の東京オリンピックに向けて、社会全体の機運がどうなるかを注視したい。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・インバウンドの中心が団体客から個人客に移行してきており、爆買い現象も落ち着いている。しばらくはこの状況が続いた後、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック、2021年のワールドマスターズゲームに向かって上昇していくことが予想される。
職業安定所（職員）		・このところは求人数の増加が続いている一方、新規求職者数は減少が続いており、雇用・失業情勢は改善傾向で推移している。ただし、管内事業所への今後の展望に関するヒアリングでは、現状維持とする声が多い。	
職業安定所（職員）	・影響があるとすれば円高によるもので、受注量が減少すると予想している。ただし、英国のEU離脱問題の影響もないため、全体としては現状維持である。		
民間職業紹介機関（営業担当）	・先行きには不確定要素があり、予測できない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（マネージャー）	・京都に関しては、大阪の大企業に求職者が流れる傾向がある。採用数という点では伸びが少なく、現状維持の可能性が高い。
		学校〔大学〕（就職担当）	・気分的にも明るさが感じられない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（役員）	・企業の採用意欲が昨年に比べて後退している。求人も少ないことから、市場の縮小が続くような気がする。円高基調が早急に反転するとは思えず、今後は更に景気が悪化することが予想される。
		職業安定所（職員）	・企業にヒアリングしたところ、中国経済の減速や英国のEU離脱問題による為替相場の変動などに伴い、先行きの不透明感が増している。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・季節的な問題で、夏から秋にかけては求人が減る傾向となる。今年は企業からの要望が細かいため、人選に苦労している。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・景気低迷の影響が徐々に出てくる。
	学校〔大学〕（就職担当）	・東京オリンピックのための設備投資は一段落しているが、結局のところ、関西までは波及してきていない。	
	悪くなる	-	-

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	通信会社（総務担当）	・大規模集合住宅への営業展開を進めているほか、加入料金を大幅に割り引くキャンペーンを予定しており、加入件数の増加が見込める。
		競艇場（職員）	・9月にG1競争の売上が見込める。
(中国)	やや良くなる	商店街（代表者）	・景気が良くなる話題がちらほら聞こえてくるようになった。
		百貨店（人事担当）	・燃費不正問題の影響で止まっていた大手自動車メーカーの生産ラインが徐々に再稼動しており、少し期待できる。
		スーパー（販売担当）	・夏休みに入って近くの観光地を訪れる人の数が増え、その影響で土日の来客数が増加しており、しばらくこの状況が続く。
		スーパー（販売担当）	・今年の8月から祝日が1日増え、中国総体開催の影響もあって来客数が増加する。前回の中国総体では土産品で230万円の売上があり、今回はその実績を上回る見込みである。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・観光客の増加や各地イベントでの集客が見込まれる。また健康商品のニーズが上昇し、リピート購買が期待できる。
		家電量販店（店長）	・梅雨が明けてエアコンの売上が伸びる。
		乗用車販売店（業務担当）	・年後半に向けて新商品の投入が続くので期待が持てる。
		乗用車販売店（統括）	・大手自動車メーカーの燃費不正問題の影響がまだ残りそうである。
		乗用車販売店（営業担当）	・賞与が出ているので客が増加する。
		乗用車販売店（総務担当）	・以前から一定程度の来客数は見込めているが、新型車の発売によってにぎわいを取り戻せる。
		タクシー運転手	・燃費不正問題の影響で停止していた大手自動車メーカーの生産が再開されたので、景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・暑くなるにつれピヤガーデンに行く人が増え、タクシーを足代わりに利用する人も出てきて、景気は徐々に良くなる。
		通信会社（工事担当）	・客の様子からやや良くなる。
		通信会社（総務担当）	・通信用固定回線では大きな変動がないため景気は変わらないが、新作スマートフォン向けゲームの流行により、スマートフォンユーザーの消費拡大に期待が持てる。
		通信会社（販売企画担当）	・新機種発売により販売量が伸びる。
		テーマパーク（営業担当）	・秋の後楽シーズンを迎えて客の動きが戻ってくる。
		ゴルフ場（営業担当）	・来客数が今月は少し上向き傾向なので、インバウンドの集客も伸びれば良くなる。
住宅販売会社（営業担当）	・梅雨が明けて販売量が伸びる傾向にある。		
住宅販売会社（営業所長）	・当社販売用土地の確保ができています。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街各店での新たな出店や業態変更による店舗改装などの積極的な予定はなく、景気が良くなる様子はない。
商店街（理事）		・景気が良くなる要素がない。オリンピックで一喜一憂するかも知れないが、実際の生活や消費に影響はあまりなく、景気は悪いまま推移する。	
商店街（代表者）		・8～10月は需要期に入るが、円高が続くとインバウンド客には期待できない。	
商店街（代表者）		・地方の収入は増加しない。食品の値上がりは家計を圧迫し、客の買い控えの状況に変化はない。	
一般小売店〔靴〕（経営者）		・中型の新築テナントビルが中心市街地に増えて中古物件に空きが出てきており、商店街を歩く人は増えず、今後のあり方に不安を覚える。	
一般小売店〔茶〕（経営者）		・このまま悪い状態が続く。	
一般小売店〔紙類〕（経営者）		・金を使わない旅行が主流になっているため景気は停滞する。	
一般小売店〔印章〕（経営者）		・株価が下がるなど良い話題がなく、営業に関する名刺注文が出ないことから、前向きな動きは期待できない。	
一般小売店〔食品〕（経営者）		・参議院議員選挙後の景気対策にもよるが、小売に直接影響が及ぶことはない。	
百貨店（経理担当）		・夏物の最終クリアランス後に秋物がスタートする。ファッション部門の売上が好調を維持できるかにかかっている。	
百貨店（営業担当）		・現状の売上が続く。インバウンド客による化粧品購入はいずれ勢いが止まるので、更に厳しくなる。	
百貨店（営業担当）		・気温や天候以外に客心理にプラスに働く材料がなく、売上は前年確保がやっとで、大きくプラスになることはない。	
百貨店（営業担当）		・政情の不安定さが継続する。	
百貨店（販売促進担当）		・リオオリンピックの盛り上がり新しい購買に結び付く期待感はあるが、主力のミセス商品に対する客の堅実さと厳しい購買姿勢は継続するため、景気の高揚にはまだ時間がかかる。	
百貨店（営業推進担当）		・劇的に変化する材料はなく、何か外的要因がなければ現状は当分続く。	
百貨店（売場担当）		・8月はこのままの猛暑が続けば夏物セールに期待ができるが、秋物の作り込みが少ないことから後半はやや鈍化する。地元プロ野球チームが優勝すれば9月は期待できる。	
百貨店（購買担当）		・客は必要な商品のみを購入し、それ以外は安くても購入しない流れは続く。秋物商戦に入る数か月後に客の買い方が変化するとは期待できない。旅行やイベントに参加したという話は聞くが、そこに着ていく洋服や装飾品を購入することはない。	
百貨店（売場担当）		・秋以降の冬物商戦では、今月のような好調な状況は続かず微減で推移する。	
スーパー（店長）		・秋の気配が早まるほど景気は上向く。	
スーパー（店長）		・売上を押し上げているのは単価の上昇であり、この状況は続く。	
スーパー（店長）		・景気が良くなる材料はない。	
スーパー（店長）		・商圏内企業の好景気が続く見込みがない。	
スーパー（総務担当）		・来客数が横ばいで推移しており、回復が見られない。	
スーパー（業務開発担当）		・暑さが続くようなので冷菓や飲料関係が好調に推移する。	
スーパー（営業システム担当）		・先行きの不透明感から客は必要最低限の購入に留まっている。ただ近年から続く健康志向の高まりの影響からか、オーガニック食品の売上は毎月微増している。	
スーパー（管理担当）		・ディスカウント店の進出情報があり、現状に大きなプラス変化は期待できない。	
コンビニ（エリア担当）		・残暑が続くことになれば、夏向け商材の売行きはさほど低下せず、景気はこのまま維持する。	
コンビニ（エリア担当）		・来客数の伸びが売上を押し上げているが、一過性のものなので、今後は店の清潔さ、品ぞろえ、接客態度などを工夫して現状の好調さを維持する。	
コンビニ（エリア担当）		・購入点数が減少し販売量も伸びない。	
コンビニ（支店長）		・現状では上向き傾向にある。	
衣料品専門店（店長）	・景気が良くなる状況ではない。		
家電量販店（店長）	・客は将来に対して不安を抱いており、財布のひもを緩める気配はない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・ここ数か月、景気が上向いた感はない。季節的要因による売上の伸びはあるものの、同期間に季節商材以外が同様に売れば景気が上向きとの判断ができるが、実際は家電に使う金が季節商材に使われただけである。
		家電量販店（企画担当）	・特に良くなりそうな要素がない。
		家電量販店（販売担当）	・決算や新製品に期待が持てる。
		乗用車販売店（店長）	・6月から客の動きが鈍く、目玉商品の発売予定もないので現状は続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・一般整備での来場はあるが、車を見に来る客は減少している。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・売上の増加につながる要素がない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	・6月の売上増加は、来客数の増加によるものではなく、単価上昇によるものであり、景気の先行きが良くなる傾向ではない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・これから夏休みと盆の動きを見ながら判断していく状態である。好転の要素はないが、マイナス要素も見られない。
		高級レストラン（宴会サービス担当）	・来客数は前年並みに推移しているが、予約状況は前年より悪い。今後の動きによるが、まだどのようになるか分からない。
		一般レストラン（経営者）	・実質的な所得の増加が期待できない現状では、はっきりとした動機がないと客は外食をしなくなるため、今後も厳しい状況が継続する。
		一般レストラン（経営者）	・景気が良くなる要素が見当たらない。
		一般レストラン（外食事業担当）	・大手外食チェーンの出店で、地元中小の飲食店は閉店するところが増える。業態としても食べ放題メニューを取り扱う店が増加し、デフレ傾向が進んでいる。週末のファミリー客の利用が増えず、今後も現状のままである。
		スナック（経営者）	・政策や地方の経済状態に何も変化がないのに、景気が良くなることはない。
		観光型ホテル（営業担当）	・夏休みになり家族旅行の来客数が増加することが期待できる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・客単価が上昇しない。
		都市型ホテル（企画担当）	・下期以降は大きなイベント開催の予定はなく、需要を掘り起こす要因が少ない。個人消費でもオリンピック景気とはいえ、物価高騰の契機ともなっており、英国のEU離脱問題や海外テロ事件の勃発などで、今後の景気の不安要素はぬぐいきれない。
		都市型ホテル（総支配人）	・プラス要因としてテーマパークのオープンがあるものの、益以降は九州復興支援の動きもあり不透明である。
		旅行代理店（営業担当）	・景気が大きく変わる要素はなく、そのような兆候もない。
		タクシー運転手	・中国総体が開催されるので、全国からの参加者や応援団のタクシー利用が増える。
		通信会社（社員）	・問い合わせ等に変動がない。
		通信会社（企画担当）	・スマートフォンやモバイルについては、今年後半も新作スマートフォン向けゲームの話題が続くため、関心が継続し購入も拡大する見込みである。
		通信会社（営業担当）	・当社は個別かつ限定的理由で販売量が増加傾向にあるが、総合的に経済を上向きにする要因は見当たらない。
		テーマパーク（業務担当）	・秋の行楽など来客数の増加に期待できる要素はあるが、前年に比べ連休も少ないことから大きな集客が見込めない。
		テーマパーク（管理担当）	・熊本地震以降の4～5月は入館者数や物販売上が微減していたが、6～7月は前年同月並みに回復している。
		美容室（経営者）	・離職率と採用人数のバランスが取れてないので売上に繋がらない。
		設計事務所（経営者）	・来場者数の増加が見込めず、動きも低調である。
		設計事務所（経営者）	・先が見えない。
		設計事務所（経営者）	・建築工事に関して消費者に営業をかけても動きが悪く、消費税率引上げの延期も景気改善につながってこない。
		設計事務所（経営者）	・建築を取り巻く状況が大きく変わる要因が見当たらない。今後建築費が下がる気配もない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	住宅販売会社（従業員）	・消費税率引上げ延期により、駆け込み需要がなくなってしまったので、しばらくは景気を刺激する起爆剤がない状況が続く。
		商店街（代表者）	・2～3か月先の経済施策や為替相場、株等の状況次第ではあるが、あまり期待できず、景気はやや悪くなる。
		商店街（代表者）	・客の財布のひもが非常に固く、今よりも価格が下がるのを待っている状況である。客はより安く、タイムリーにより良い商品を求める。
		スーパー（店長）	・地元企業の業績悪化により、収入減から支出抑制の構図が顕著になる。
		スーパー（店長）	・高齢者の多い地域では盆に帰省する家族のために金を多く使い、盆以降は節約傾向になる。
		スーパー（財務担当）	・景気の状態よりも地域全体の人の心理的不安の方が大きく、今後も節約が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・消費者の金の使い道が変わってきている。文化を大切にしながら職人の技を認めてもらえる商売も大切にしなければならない。
		住関連専門店（営業担当）	・来客数が減少しているため、新築や婚礼の情報が得られず、今後の売上は期待できない。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・今月は季節的要因で売上が増加したが、今後は期待できない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・明るい材料がなく、今後は各市町村の努力次第で格差が出てくる。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・秋は行楽シーズンで来客数は増えるが、今年は熊本地震関連の九州ふっこう割制度で、九州地方に人が流れることを危惧している。
		一般レストラン（店長）	・景気が良いという話を客からはあまり聞かない。前年に比べると少し落ち込む見込みである。
		観光型ホテル（宿泊担当）	・相変わらず客は少しでも安い商品に流れる傾向にある。
		都市型ホテル（企画担当）	・昨年は被爆70周年の年で多くの人々が広島に来たので、その反動が想定される。
		通信会社（広報担当）	・客は常に質より安いものを求めているため、通常の状態では売れない。
	美容室（経営者）	・景気が上向き気配がない。大きな商業施設に客が流れ、商店街の来客者数が減少し、安くしなければ客は来ず、悪い方向に向かっている。	
	美容室（経営者）	・客の所得が上昇する要素はなく、夏のレジャーで消費した分、2～3か月後は景気が悪くなる。	
	悪くなる	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・景気が良くなる要因が見当たらない。
		スーパー（販売担当）	・例年であればバーゲン時期に入ると来客数が伸びるが、今年はそれ程でもない。客の行動からも無駄な物や不必要な物は買わない傾向が顕著である。客の節約意識は高く、消費への意欲は弱い。
		自動車備品販売店（経営者）	・景気が上向き要素がなくマスコミも悪いことばかり報道するので、消費者の気持ちは盛り上がりせず、景気も落ち込む。
その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（店長）		・サービスエリア沿線の高速道路の交通量が減少しているため来客数が少ない。	
住宅販売会社（営業担当）		・住宅ローン金利が過去最低を更新している一方、消費税率引上げ延期で客の出足が鈍る傾向にある。	
企業動向 関連 (中国)	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・秋に向けて受注の予定がある。
	やや良くなる	木材木製品製造業（経理部次長）	・英国のEU離脱問題により一時的な円高株安で市場が混乱していたが、今後は落ち着き、低金利政策の効果もあって新築住宅着工戸数も前年同期を上回っているため、今後2～3か月は受注量や販売量がやや良くなる傾向にある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・受注量が増加し、新規案件の受諾も進む。
		金融業（貸付担当）	・新興国や中国の景気減退感から景気に対する不安感があり、国内の消費マインドは落ち込んでいる。しかし取引先ではコスト削減などにより、悪いなりに前年程度の業績を確保しており、今の状況が長引かなければ更なる業績回復が見込まれる。英国のEU離脱問題後からの回復は見られ、また安倍政権の景気対策の発表により今後の景気は持ち直す。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		会計事務所（職員）	・参議院議員選挙で与党が勝利したため、公共事業に頼っている建設業等には安堵感がある。人手不足の問題と材料費の高騰に改善が見受けられるようになれば、秋口以降の景気は上昇が期待できる。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	・不安要素はたくさんあるが、変動する様子は見られない。
		食料品製造業（総務担当）	・お中元商戦の伸びが悪く、前年より厳しい状況になる。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・手持ち受注の大型案件が本年末まで継続するため高水準の生産状況は継続する見込みである。スポット受注の引き合いは弱く、現状が継続する。
		鉄鋼業（総務担当）	・オリンピックに向けて下期からの建築需要増への期待はあるものの、いまだ具体化したものが見えない。首都圏では動き出すかも知れないが、当地区まで仕事が回ってくるのか懐疑的である。
		鉄鋼業（総務担当）	・秋以降は生産量が増加するが、政治、為替、紛争、テロ等のリスクが多すぎて楽観視はできない。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・5月のテレビ用パネル世界出荷量は前月比1.4%増で、各社在庫積み上げ前倒しの様相である。しかしスマートフォンは成長率7%と前年度から半減している。事業分野別で差もあり、全体的には現状から横ばいである。
		金属製品製造業（総務担当）	・ものづくり補助金案件が増えると想定しているが、微増に留まる。他の変動要因は見当たらないため、現況が3か月後も続く。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・円高傾向による先行き不透明感はぬぐえず、設備投資には慎重になっている。当面地方では景気に浮揚感はない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・新商品がなく受注量の増加は見込めない。
		建設業（総務担当）	・着手待ち物件がこの先1年間は切れることがない状況である。
		輸送業（支店長）	・燃料単価が一定せず、個人消費がどこまで持ち直すのか予想できず、不透明感が強い。
		通信業（営業企画担当）	・企業案件としての設備投資に関する商談があるものの、雑談の中で個人消費に関する話題が減少している。
		通信業（営業担当）	・具体的な景気対策を早急に求めたいところであるが、上向き要素があまりない。
		不動産業（総務担当）	・賃貸物件の需要時期ではないため、今月とあまり変わらない。
	広告代理店（営業担当）	・秋の行楽シーズンの販売促進の方向性と進行状況から判断して、現状と変わらないと客は予測している。	
	やや悪くなる	化学工業（経営者）	・長引く景気停滞感に加え、今後主要取引先が相次いで秋の定期修理の時期に入るので、引き続き受注量が減少する見込みである。
		化学工業（総務担当）	・製造業にとって景気が横並びかそれ以下であれば、為替や原料の価格による業績変動が大きくなる。特にエネルギーについては国主導で良い方向に向かう政策が望まれる。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・新規案件の乏しさ、為替の不透明感等からマインドは徐々に悪化する。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・現状で何かが起きれば経済はどん底に落ちる危険性をはらんでおり、先が見えない状況が続く。
		建設業（総務担当）	・英国のEU離脱問題、中国の景気後退、米国大統領選など、不安定要素が多すぎて、先の見通しが立たない。
		輸送業（経理担当）	・今後の入在庫予定は少なく、海運関係も増加が見込めない。
		輸送業（総務担当）	・英国のEU離脱問題で円高傾向が進んでおり、輸出産業にじわじわと影響が出てくる。
		金融業（融資企画担当）	・円高の進展で自動車メーカーの輸出は台数が確保できても採算悪化は避けられない。このため部品メーカーへのコストダウン要請は強まり、部品メーカーの収益は前年比で減少する。
	悪くなる	農林水産業（従業者）	・イカ釣り漁が最盛期であるが不漁である。他魚種もふるわず、夏枯れに入った感がある。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きが悪い。
雇用	良くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (中国)	やや良くなる	人材派遣会社(支社長)	・雇用を大きく左右する変化はない。今後秋口から年末に向けては、例年通り季節的な繁忙に対応する求人が多く発生する。
		職業安定所(産業雇用情報担当)	・人手不足の状況はしばらく続く。企業によっては計画していた大卒採用がままならず、早目に高卒に切替えたところや、例年より早目に採用計画を立てたところもあって高卒求人の出足も早く、前年比で求人件数34.5%増、求人数42.1%増といずれも大幅に増加している。
		民間職業紹介機関(職員)	・好調な地元プロ野球チームによる経済効果は高く、テレビ視聴率の高さや百貨店でのイベントなどで景気を後押ししている。リーグ優勝も現実味を帯びてきており、秋に向け個人出費も増加していく。
		学校[大学](就職担当)	・オリンピックや新作スマートフォン向けゲームの流行のような明るい話題が続く。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・大きな話題がないので、現状維持の方向で推移する。
		人材派遣会社(経営企画担当)	・受注が厳しさを増すなか、現段階では求職者確保に大きな影響は出ていない。ただ市場に求められる求職者ニーズは大きく変わってきている。派遣業界は求人数が減少すれば、登録者も減少する。闇雲な求人活動ではなく、求職者に響く求人内容に変えていき、市場に則した広告活動をしていく。
		求人情報誌製作会社(営業担当)	・新卒の求人動向としては特に変化が見受けられない。
		求人情報誌製作会社(広告担当)	・中途市場、新卒市場ともに売手市場ではあるが、全員がそうではなく人によるところが大きい。企業の景気が非常に良いわけでもなく、平均的には変わらない状況である。ただ業種や職種による慢性的な人手不足は継続中で、特に20~30代半ばの売手市場がまだまだ継続する見通しである。
		新聞社[求人広告](担当者)	・大きく変わる理由が見当たらない。
		職業安定所(産業雇用情報担当)	・管内に企業倒産の話や円高と英国のEU離脱問題の影響はない。
	やや悪くなる	人材派遣会社(支店長)	・今後海外との取引を行っている企業を中心に、少しずつ影響が出てくる。
		新聞社[求人広告](担当者)	・個人消費が低迷したままで、有効求人倍率と企業業績のアンバランスがより顕著になっている。求人も特定業種に限られているため、それが全体の数字を押し上げている状況で、決して楽観できない。
		職業安定所(所長)	・医療福祉分野で慢性的な人手不足が続いている一方、前年に比べて新規学卒求人の出足が鈍いなど、多くの業種でこれまでものおう盛な求人意欲が薄れており、求人全体でも今後は下降気味で推移していく。
職業安定所(雇用開発担当)		・建設業や製造業などのものづくりに関わる求人数の動きが不安定になってくる。その一方で非製造業の求人は増加か横ばい方向になりそうであるが、応募者がおらず、求人が未充足のまま残されるため、相対的に生活の安定が図れない。	
学校[短期大学](学生支援担当)		・保育関係は特殊事情の下にあるが、食物栄養関係は全体の動向を反映してくる。	
悪くなる	-	-	

9. 四国(地域別調査機関: 四国経済連合会)

(-: 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	良くなる	-	-
	やや良くなる	スーパー(財務担当)	・今年は残暑が予想されているほか、客の買上点数も回復してきている。
		コンビニ(店長)	・ずっと下がり続けていた客単価が上昇した。底をついたのではないかと。客の様子も明るくなっている。
		衣料品専門店(経営者)	・これから秋冬物が入荷する。まだまだ暑いと、衣料品関係は多少は良くなる。
		乗用車販売店(営業担当)	・9月に待望の新型車が発売されるため、軽自動車市場に活気(購買意欲)が出ることを期待している。
乗用車販売店(役員)	・秋に新型車の発売が控えている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住関連専門店（経営者）	・マンションや分譲住宅の建設が目立つ。金利が低い今、住宅の需要は多く、住宅関連の耐久消費財を扱う当社も少しは良くなる。
		タクシー運転手	・秋はお遍路の仕事が増えるので、今よりは良くなる。
		設計事務所（所長）	・中心部の土地の動きが出てきたり、高度成長期に建てた建物の建替のための土地を探している人が増えてきている。
	変わらない	商店街（事務局長）	・昨年のプレミアム付商品券に代わる経済対策が今年はなく、株価も低迷していることから、8月以降の消費は高望みできない。
			・消費税増税の再延期と、参院選後に消費者マインドを上昇させる具体的な景気対策が見えないことから、厳しい状況がこのまま続く。
		商店街（代表者）	・改善の兆しが無い。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・良くなる要素も、悪くなる要素も、特に思い当たらない。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・今は天候が良く暑いが、来月以降は客の様子が変わってくるのではないかと予想している。
		百貨店（営業担当）	・7月の販売増は天候に起因するところが大きい。月後半はやや失速気味となり、衣料品や高額品の売上回復に力強さを感じられない。
		百貨店（販売促進担当）	・猛暑のため昼間の来店数が鈍っており、来客数、売上ともに前年を下回っている。
		スーパー（企画担当）	・猛暑の影響で売上が伸びると考えられるが、景気には全く関係ない。
		コンビニ（総務）	・外的環境からはプラスに働く要因が見つからない状況が続いている。
		コンビニ（商品担当）	・顧客からは給与等の収入面で増加が見込めないという話を多く聞く。生活防衛意識が強く、より支出を抑えていく姿勢が感じられる。
		衣料品専門店（総務担当）	・ボーナス時期で、新型車の発売など商品的に問題はないが、販売台数は良くなっていない。
		乗用車販売店（従業員）	・最近、新型車効果で販売台数が飛躍的に伸びることがなく、新型車が売れた分だけ従来車が落ち込み、例月と変わらない。話題車やヒット車はあるものの、景気が良いと感じるには至らない。
		乗用車販売店（従業員）	・財布のひもが緩むような雰囲気は感じられない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・目の前に大きな流れがあればずっと乗っていけるのにまだまだ待機状態、そんな感じだ。
		一般レストラン（経営者）	・国内も海外も、あまり景気は良くないし、見通しが明るくない。道後温泉は前年よりわずかに観光客が増えただけで、まだそれほど良くない。
		観光型旅館（経営者）	・宿泊はまあまあ順調な伸びを示しているが、宴会やレストランの予約状況はあまり良くない。県外客は増えているものの、地元の消費の弱さが見受けられる。
		都市型ホテル（経営者）	・大きな変化をもたらす要素が見当たらない。
		通信会社（支店長）	・特に大きな変動要因がない。
		通信会社（企画）	・新しいスマートフォンのリリースまでは、落ち着いた動きとなる。
		通信会社（営業担当）	・乗客数は増えているが、国際線の廃止など不安要素がある。
	観光遊園地（職員）	・8～9月にかけては、お盆レースの開催、9月には本場開催において、土日に準優勝戦と優勝戦が組まれており、売上増が期待できる。	
	競艇場（職員）	・中心市街地のまちづくりが頓挫したことから、今後、中心部の大型商業施設にとって計り知れないマイナス影響が出るかと危惧している。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・下見のための来店や問い合わせ等が増えているが、購入には慎重になっている様子で、他店やネット販売と比較しているのだろう。必需品以外は売れなくなっている。
			・英国のEU離脱問題が世界経済にどれだけ影響するかわからないが、良くはならない。
一般小売店〔生花〕（経営者）		・一過性である季節商材の消費が終われば、また以前と同様に落ち込む。	
衣料品専門店（経営者）			
家電量販店（店員）			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		乗用車販売店（従業員）	・自動車教習所の生徒数が減少していると聞く。運転免許証保有者が少なくなれば、自動車販売も徐々に厳しくなっていく。	
		旅行代理店（営業部長）	・英国のEU離脱問題による円高で、個人の海外旅行に期待していたが、相次ぐテロで政情不安が多く、燃油サーチャージ0円の効果もない。円高が続けば企業業績が懸念され、法人団体需要も非常に不安定になる。	
		タクシー運転手	・例年9～10月は良くなるが、今年は期待できない。乗客から、給料が増えないとか、小遣いが減ったという話を聞いた。	
		通信会社（営業部長）	・新商品発売前の買い控えが想定される。	
		ゴルフ場（従業員）	・予約の埋まりが悪い。平日は特に悪いが、土日も同じような状況で、前年と比べて予約状況は悪い。	
		美容室（経営者）	・夏が過ぎて涼しくなると、来客数が減る傾向にある。	
	悪くなる	住宅販売会社（従業員）	・来場者が減っているため、今後の契約数増加は見込めない。	
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・酒類の小売専門店には、良くなる要素が見当たらない。どう頑張っても、価格競争のみである。	
		スーパー（店長）	・今の調子、今の気候でこの程度の伸びだから、この先の天気や周りの環境次第でさらに悪くなるのではないかと思われる。昨年9月には大型連休があって人の移動も多かったが、今年はそれが無いこともマイナスに影響するのではないか。	
		コンビニ（店長）	・コンビニ店は異常なほど出店していて、既存店は売上減少の一途を辿っている。	
企業 動向 関連 (四国)	良くなる	-	-	
	やや良くなる	食料品製造業（商品統括）	・世界的な不安要素、円高による輸出企業の利益減が懸念されているが、円安時の価格アップ転嫁が進んでおり、輸入価格のダウンによる利益確保が進むと思われる。	
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現状のまま年末まで好調が続いていく。	
		農林水産業（総務担当）	・薬味用野菜は堅調であり、販売店の注文も入っている。	
		食料品製造業（経営者）	・所得が上がらず、消費も低迷が続く。	
		繊維工業（経営者）	・市場によって厳しい部分と進展している部分があり、全体としては厳しい。	
		木材木製品製造業	・アベノミクス再起動に期待したいところだが、金融緩和だけでは持続できない。少子高齢化対策や待機児童ゼロを早期に実施し、民力を上げる施策に期待したい。	
		電気機械器具製造業（経理）	・実需が大きく変動しそうな要因やトピックが見当たらず、上下動の幅が小さく推移すると考えられる。	
		建設業（経理担当）	・受注高、受注残高ともに横ばい。今後は民間の受注が伸びると思うが、競争が激しく、景気は変わらない。	
		建設業（経営者）	・公共工事が増えない限り、相当厳しい。	
		建設業（経営者）	・今年上期に前倒し発注が期待されていることから、数か月先までは変わらないと見込む。その後は補正予算等に期待している。大手との受注競争激化には危機感を持っており、予算投下されても、地方企業が好条件で受注できなければ、地方の活性化や地方創生の効果は見込めない。	
		輸送業（経営者）	・景気に直接関係ないが、テロが多発していることなど雰囲気が悪い。全体的には変わらない。	
		輸送業（営業）	・今のところ天候不順（多雨・日照不足）もなく、購買意欲が改善して消費が拡大すると期待している。ただ、今年は9月にシルバーウィークがないので、秋の行楽シーズンの消費は弱いと予想している。	
		金融業（副支店長）	・一時期から見ればやや落ち着いた感を受ける。金利水準は低下傾向にあるものの、景気動向の不透明さから取引先企業の設備投資には慎重な姿勢が見られる。	
		広告代理店（経営者）	・地方の消費低迷は依然として続いており、一部の県外大手得意先以外は広告費削減傾向が続いている。	
		公認会計士	・為替動向や今後の景気対策を気にして、いまだ設備投資に消極的な顧客が非常に多い。	
		やや悪くなる	鉄鋼業（総務部長）	・産業用機械の受注が少ない。
		悪くなる	通信業（営業担当）	・地方企業が広告宣伝を抑制気味である。
			一般機械器具製造業（経理担当）	・米国経済の成長鈍化、新興国経済の減速、原油価格動向、テロ・難民・紛争等地政学上の問題に加え、英国のEU離脱ショックもあり、下振れリスクが高まっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
雇用 関連 (四国)	良くなる	求人情報誌製作会社 (従業員)	・求人数の増加が見込まれる。	
	やや良くなる 変わらない	-	-	-
		人材派遣会社(営業)	・有効求人倍率が上昇し、求人条件も良くなっている。一方、企業側では経費の効率化が問われる状況から、マネジメント力の高い経営者が勝ち残る社会環境を痛感する。	
		人材派遣会社(営業担当)	・県内の労働者市場は、いわゆる売手市場になっている。当面、この局面が続く。	
		求人情報誌(営業)	・採用難に対する明確な解決策がないため、景気は変わらない。	
		新聞社[求人広告] (担当者)	・広告業界は全体的に売上が下降傾向にあるものの、ここ3か月は底打ちを感じており、しばらくは低位安定する。	
		職業安定所	・6月の有効求人倍率は1.28倍で、5月と変わらず、前年6月の1.10倍よりも0.18ポイント増にとどまった。	
	民間職業紹介機関(所長)	・景気浮揚の起爆剤が見当たらず、売上は前年並みか半年並みの企業が多い。経営者は売上を伸ばすための手段を模索している。		
学校[大学](就職担当)	・現時点では、雇用状況から2~3か月先の景気動向を判断する材料は見られない。			
やや悪くなる	人材派遣会社(営業担当)	・正社員の採用が増えていることから、派遣登録する人が少なくなっている。派遣業界全体の落ち込みを懸念する。		
悪くなる	-	-		

10. 九州(地域別調査機関:公益財団法人九州経済調査協会)

(-:回答が存在しない、:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	商店街(代表者)	・9月ごろになるとキャンペーンの広告を打ち出すため、自ずと売上が増える。
		乗用車販売店(販売担当)	・質を重視する流れがこのまま進む気配を感じるため、周囲の景気は良くなる。
		通信会社(企画担当)	・官公庁の予算の動きが大きい。公募も取れており、付随する業務も受注が増える。
		観光名所	・福岡で誘致活動を行った成果、客が当地域へ戻りつつある。また新たにパンフレットを改善したことや、HPに随時最新の情報を掲載し続けることも客にとって安心材料になる。
		住宅販売会社(従業員)	・長期固定金利ローンが過去最低金利を更新するなど住宅ローンの金利が低下傾向で、今後も住宅受注は良くなっていく。
	やや良くなる	商店街(代表者)	・夏のセールが入るので消費が動くことを期待している。
		商店街(代表者)	・熊本地震により観光業を中心に、来客数が減っている。九州ふっこう割、その他のいろいろな施策で来客数は増える。それに伴い全体の景気も少しは良くなる。
		一般小売店[生花] (経営者)	・熊本地震後、この状況が1~2年は続くと思われる。生花販売にとって、夏になるが新規オープン店のお祝いの需要も多く、これからも建て替えなど新しくなっていくので、悪くはない。
		百貨店(企画)	・夏休みまで熊本地震特需によるプラス効果が期待できそうであるが、9月以降は風評被害も沈静化され、ある程度現状維持が見込めそうである。しかし、世界経済の悪化による影響については想定できない。
		スーパー(店長)	・熊本地震により競合店が3店舗閉店しているため、新規の客、購買点数も増えており、今後半年間は前年比150%位の売上が見込まれる。
		スーパー(統括者)	・政府が景気対策を打ち出したので少しは良くなる。
		コンビニ(エリア担当・店長)	・近くのスーパーマーケットが熊本地震の影響でまだオープンに至っていないが、そこがオープンするまでは現状が続く。2~3か月後になるがオープンしてからの動きに注目する。現状、前年比でソフトドリンク、弁当及び日用雑貨も増えていく。
		家電量販店(総務担当)	・話題になる家電製品も増えてきて、来客数の増加が見込まれる。
その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター](支配人)	・今年度、特にゴールデンウィークあたりから、客の来館、購買意欲が緩やかではあるものの、継続して上昇傾向である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光ホテル(総務)	・少しずつだが、熊本地震からの復興が進んでおり、熊本地震前の普通の経済活動に戻ることを期待している。
		旅行代理店(従業員)	・9月までは九州ふっこう割の販売期間となっており、宿泊施設に空きがあれば、今後の伸びも期待でき、旅行需要の機運が高まる。
		旅行代理店(企画)	・熊本地震の影響も落ち着き、旅行需要が増える秋口からの申込増を期待する。
		タクシー運転手	・円高株安等不安材料が大きいにもかかわらず、夜の繁華街もかなり活気を取り戻しており、当地における景気はしばらく安定する。
		タクシー運転手	・国の大型補正予算が成立したのでその効果に期待したい。
		通信会社(営業担当)	・業種の関係で電力自由化の動きが周辺に影響を与えている。
		通信会社(営業)	・8月の閑散期は市場の動きが鈍く、9月より異動の時期を迎え、モノ、カネが動き出す。
	変わらない	商店街(代表者)	・高温で残暑が続く予報が出ているが、これといったヒット商品もなく手探り状態が続く。
	変わらない	商店街(代表者)	・熊本地震による影響は、これからである。生活必需品の需要はあるが、それ以外の文化面的な物へは、購買意欲が少ない。
	変わらない	商店街(代表者)	・商店街で商売をしていく難しさを痛感しているが、店頭売上高減をインターネット通販で確保し、むしろ通販での売上高増を達成している。
	変わらない	商店街(代表者)	・ほとんどの客が年金受給者で特別な収入がなく、年金が増えないと苦慮している。しかも引かれるものが増えていき、そのため蓄えがあっても消費しない。
	変わらない	商店街(代表者)	・今の状態が続く。町内を含め商店街も地域活性化のために、売上向上できるように一生懸命頑張っている。
	変わらない	一般小売店[青果](店長)	・昨年の資料をみると、なかなか気温も下がらず、購買意欲も上がらず、野菜の高騰も続き、マイナス材料が多かったため今年もそうなる。
	変わらない	一般小売店[鮮魚](店員)	・少し涼しくなると、客の動きもよくなるが、早く秋になって魚もたくさん捕れると良い。
	変わらない	一般小売店[精肉](店員)	・景気変動の要因が見当たらない。
	変わらない	百貨店(営業担当)	・お中元ギフトは、6月は好スタートしたが、7月に入り店頭の購買顧客数と数量が減少している。一方、店舗外でのお中元ギフト購買客数、商品数が増加している。また商品単価がややアップしているが数量が減少し、お届先の絞込みが進んでいる。また、クレジット催事への反応も鈍く部門でばらつきはあるが新規会員獲得数が鈍っている。
	変わらない	百貨店(営業担当)	・動員増は継続しており、今後も年内は続く。
	変わらない	百貨店(業務担当)	・まだまだ生活に必要な物しか動きが見えない。今後、復旧が進めば、客の生活が落ち着き動きが出てくるかもしれないが、大きく改善する動きにはならない。
	変わらない	百貨店(マネージャー)	・円高株安基調はまだまだ抜け切れておらず、宝飾や時計等高額品の売上やインバウンド需要については、今後持ち直していく予測が立てにくい。
	変わらない	百貨店(売場担当)	・ここにきて客単価が下がってきた。今月の入店客数は増えており、どちらかという購買数量が上がってきているが客単価が落ちている。市況等を考えると3か月後も変わらない。昨年のプレミアム付商品券の反動の落ち込みは少ない。中元需要がある。
	変わらない	スーパー(経営者)	・将来への不透明感がある。
	変わらない	スーパー(店長)	・これから夏本番になり季節商材の売行きが前年と変わらない。中元需要もこれからだが売上の伸びは考えられない。
	変わらない	スーパー(店長)	・今後も競合店の出店があり競争は避けられない。これからは生鮮を強化し、価格以外の差別化をはかりながら売上、客数の増加に努める。
	変わらない	スーパー(店長)	・食料品は依然として堅調だが、衣料品・暮らしの品が天候により左右されている。
	変わらない	スーパー(総務担当)	・客の買物頻度、客単価等にあまり変化はなく売れ筋の価格帯などにも変化がみられない。
	変わらない	コンビニ(経営者)	・インバウンドの客も少なくなり、そういった特殊な事情も今後は発生しない。変わる理由、良くなる理由が見当たらない。
	変わらない	コンビニ(エリア担当)	・3か月後も厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（販売促進担当）	・販売量は大きく変わらない。石油や原材料も現在の為替の状況であるなら、前年よりも低い状態が続く。
		衣料品専門店（店長）	・先月末～今月にかけての客の消費意欲向上が本格的なのか、それとも一時的なのかはまだわからない。景気の状態は8月のお盆商戦の動向を見てみたい。
		衣料品専門店（店員）	・固定客の来店に支えられているが、フリー客の客離れが止まらない。客は価格にとってもシビアになっている。
		衣料品専門店（総務担当）	・商業施設間における競争関係の劣位は回復する見込みがない。
		衣料品専門店（取締役）	・東京都知事選挙をみて女性が総活躍できるような環境を整えていけるのであれば希望はあると感じた。しかし、依然として組織体制のなかで国民に対する思いのある政治がなされていない。そのなかで景気が良くなる様子はうかがえない。
		家電量販店（店員）	・オリンピックまで1週間を切ったが、だからといって大型テレビが売れるということはない。思ったより売れていない。家電量販店に来るメーカーの営業の元気がない。組織の再編成で退職する人が多く、家電業界全体の元気がない。
		家電量販店（店員）	・暖冬、それに伴う反動買いが終わり、これからオリンピックに向けてAV機器の購入があると思っていたが、買いたい人はすでに買っていた。今の状況は変わらない。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型車の発売は年末までない。新車売上の伸びは期待できないので、それ以外の中古車販売と車検点検の売上を伸ばしていく必要がある。
		乗用車販売店（代表）	・変わらない。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	・お中元時季でもあり、前年比横ばいで推移している。今後は天候に左右される面もあるが、固定客は変わらず前年と同じ動きになる。
		ドラッグストア（部長）	・7月の後半になるにつれて売上は回復基調にあるが、これ以上の伸びを期待できる要素が見当たらない。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	・今年の夏は猛暑が予想されており、燃料油の販売量は前年並みが十分見込める。9月の大型連休においては長期連休が取りにくく、近隣から当地を訪問する観光客が増加し、当地での消費増に期待したい。
		その他専門店【書籍】（代表）	・アベノミクスの失敗による生活防衛のため、買い控えが広がっている。
		その他小売の動向を把握できる者【土産卸売】（従業員）	・夏休みに入り人の動きも活発になってきたが、地震の影響なのが商品の動きが悪く、一部の商品しか売れていない。商品の販売に手ごたえを感じない。
		その他小売【ショッピングセンター】（広報担当）	・猛暑による消費の活気も次第に薄れ、通常の消費行動に戻る。インバウンドの動きも一服感があり、お盆の帰省に期待している。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（統括者）	・海外個人旅行者は少しずつ回復基調にあるが、秋までは掛かる。海外客の客単価減の傾向は変わらない。
		高級レストラン（経営者）	・予約状況がまだ鈍く、先行きが読めない。7月は参議院選挙があり会社関係が動かなくなり影響を受けた。それに比べると2～3か月先は少しは良くなっていると期待している。
		高級レストラン（専務）	・選挙があるとどうしても飲食店は宴会が少なくなるので、県知事選挙、参議院選挙、東京都知事選挙が終わって、これからを期待している。ただ8～9月はまだまだわからない。
		高級レストラン（支配人）	・予約状況等見る限り変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・予約数も前年より少なく、来店者も多くない上に景気の良い話が聞こえてこない。
		一般レストラン（スタッフ）	・熊本地震の影響はまだまだ続いている。
		居酒屋（経営者）	・良くなってほしいが、周りの店舗や業者に聞いても良い話がない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・夏休みに入り宿泊の予約増を期待している。
		都市型ホテル（販売担当）	・婚礼宴会利用について8～9月は閑散期に入るため、あまり期待できない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・繁忙期に入ったにもかかわらず、宿泊稼働が上がってこない。
		都市型ホテル（副支配人）	・全体的には良くないが駅周辺については2～3か月後も予約が入っており、以前より客が増えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		タクシー運転手	・昼間の予約状況は大変良い。夜の繁華街の動きが少しずつ良くなっている。	
		タクシー運転手	・夏休みに入ってもタクシーの利用が少なく、これから先も人やタクシーの動きが読めない。	
		ゴルフ場（従業員）	・9月末～10月にかけて行楽シーズンの到来に期待しているが、なかなか前年並みの予約数が入らない。地方でプレミアム付商品券を発行しており、昨年はその利用が多かったが、今年は地方でプレミアム付商品券自体の購買の低下もあり、なかなか所得増が見込めない。娯楽費を削るということでは厳しい業界である。良い材料が見当たらない。	
		競輪場（職員）	・販売総額に伸びがみられず、今後も伸びを見込めない。	
		競馬場（職員）	・現状で変わる要素が見当たらない。	
		理容室（経営者）	・暑くなってきたので客が来店するが、2～3か月先は涼しくなり来店サイクルが少し伸びるケースが多くなる。	
		美容室（店長）	・家の周辺も店の客層も年金生活者が多くなっているため景気は変わらない。	
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・介護人材確保については、この1～2年、急激に厳しくなっており、その傾向は今後も継続し、顧客需要に対して供給側が対応できない状況となっている。	
		設計事務所（代表） 住宅販売会社（代表）	・良くなる材料がない。 ・基本的な変化はないが、何かきっかけがないと変わらない。補助金や施設優遇等が関係している。	
	やや悪くなる	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・消費者の財布のひもは相変わらず固く、ギフトも数少なくなってきた。節約は変わらない。今後3か月は更に厳しくなる。	
		百貨店（営業担当）	・中国における経済減速によりマーケットが大きく後退したが、影響は3か月先に顕著に現れる。現在インバウンドが非常に厳しい状況であり、英国のEU離脱問題についても為替、株価等を考えると、今から3か月先はその辺りに引っ張られる可能性があり、実体経済への影響は今から出てくるのではないかと非常に大きな懸念を持っている。	
		百貨店（販売促進担当）	・英国のEU離脱問題等、景気が良くなる見通しが立たない。	
		百貨店（営業統括）	・商品売上の動向を見ると、主力の衣料品売上が厳しい。また、円高株安で、高額品の売上也厳しくなる。	
		百貨店（店舗事業計画部）	・競合環境の変化により本店が受けたメリットが薄れる時季に入り入店の伸びが鈍る。また9月の大型連休、10月は大きな商戦のない端境期となり、残暑が長引く長期予報も踏まえると秋ものの動きも当初は鈍そつな見込みである。	
		百貨店（経営企画担当）	・7月のセールの売上は前年並みから若干上回る状況で推移しており、客の価格志向が強い。中元需要は前年から下げ止まり傾向にあり、本年も堅調に推移しているが、婦人服を中心とした衣料品等は今後も厳しい見通しである。	
		コンビニ（店長）	・国際的政情不安が募る。	
		衣料品専門店（店長）	・なんとなく周りの雰囲気がよくどんでいる。先の景気も読めない。	
		家電量販店（従業員）	・涼しくなるにつれて冷房器具の需要が減る。	
		住関連専門店（経営者）	・衆議院の補欠選挙が10月に決まり、同業者との話でも書籍の売上げは下がるという。また、景気の底打ち感はない。	
悪くなる	スナック（経営者）	・オリンピックが始まり、家で過ごす時間がより増加し、外食機会は減少する。		
	観光型ホテル（専務）	・個人客は動いているが団体の予約が非常に悪い。		
	音楽教室（管理担当）	・秋になり転勤族の異動が多くなり、生徒が少しずつ他の方面へ動いていく。		
	設計事務所（所長）	・現在の来客数が少ないので2～3か月先もやや悪い。		
	住宅販売会社（従業員）	・熊本地震の影響により国内外から九州への観光客が減っている。九州ふっこう割などかなりテコ入れはされているが、中国や東南アジアからの旅行者が歴然と減っており、小売業、観光業にはかなりの痛手である。景気が良い業界も悪い業界もあるが全体的には悪くなっていく。		
	その他専門店〔書籍〕（副店長）	・駅内にある系列店の売上も下降気味のため、今まで懸念していた駅側への商圏の移動は落ち着いたようだ。業界自体の縮小スピードが早くなっている。		
	企業動向関連	良くなる	-	-
	企業動向関連	やや良くなる	農林水産業（営業）	・全体的に見ればマイナス要素が少なくなるので上向きになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(九州)		化学工業（総務担当） 窯業・土石製品製造業（経営者）	・10月以降は需要期に入る。 ・参議院選挙絡みと陶器市の後の夏場ということもあり受注も少ない。今が最低である。これから秋口に向かっていくな企画もあるので良くなる。
		鉄鋼業（経営者）	・受注量、販売量は落ち込んでおり、特に受注量は2～3か月前と比べ極端に減少している。他方、今後の着工予定分等が数多くあり、今後受注量は回復する。懸念は人手不足で資材の手配が遅れたり、計画が延期されることである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・金属加工部門では今後の受注状況を見守る。設備製作部門では引き合いが増えており、今後の受注量には期待が持てる。
		電気機械器具製造業（取締役）	・製品の取り組みなどにおいてAI、IoT等を絡めた動きが発生している。手前の動向だけでなく将来への投資を行おうという意欲が出てきている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・熊本地震後、分散生産を行っていたが8月末を目処に震災前の状況に戻る予定である。得意先の生産量も増加傾向である。
		建設業（従業員）	・見積案件も多く、受注にも結びついている。見積も多いのでこれからも受注できるようにしていけば、良くなる。
		金融業（調査担当） 金融業（営業）	・当地区を始めとした不動産開発需要に期待する。 ・ものづくり補助金を利用した設備投資や工場の新設及び増設の話やアパート投資等の話が出てきた。いずれも年末から半年先の話だが、設備投資のけん引により景気が上向していく。
変わらない		農林水産業（経営者）	・8月はお盆前需要やギフト商戦もあり、ある程度は期待できる。梅雨も明け、暑い夏で居酒屋、スーパー等期待できる。冷凍食品メーカー向けはお盆や夏休みで例年落ち込む月であるがやむを得ない。9月に入ると年末需要対応で引き合いが出てくる。現状も安定しているため8～10月は期待している。
		繊維工業（営業担当）	・すぐに結果が出る産業ではないので、とにかく人員を増やして生産量を地道に増やしていく。
		家具製造業（従業員）	・今の景気状況を上向きにするほどのインパクトのある対策は打ち出していない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・問い合わせ等の量から判断した。
		精密機械器具製造業（従業員）	・この先の生産計画が出ているが、今のところ、出荷計画等変わらない状況である。
		建設業（社員）	・知事選挙があり新しい知事になり、公共工事の予算を削減されるのではないかと危惧している。当初の予算があるのでそこまでは心配していないが、今後が非常に心配である。官公庁は上半期80%の達成に向けてもっと発注して欲しい。
		輸送業（総務担当）	・物量増とはいえ、短期的なことに落ち着く。金融機関が貸出先に困るほど、国内での設備投資態度が低調であることから長期的に良くはならない。
		通信業（職員）	・全体の業績は堅調に推移しているが、省エネ関連工事は四半期の受注目標をショートした。この状況は当面続く。
		通信業（経理担当）	・IT関連の受注量において当面は、現状で推移する。
		金融業（従業員）	・好転する材料も見当たらず、悪化する材料も見当たらないことから、今の経済状況が現状のまま持続する。
		金融業（従業員）	・新規求人数の増加が持続するなど、労働需給は改善傾向にある。また、熊本地震の復旧工事もあり、公共工事が増加に転じてきている。反面、訪日外国人を含め観光客が大幅に落ち込み、個人消費は伸び悩んでいる。
		金融業（得意先担当）	・景況感に大きな変化はみられない。一方、好調な九州ふっこう割による景気浮揚を期待する声が多い。今後の動向を見守る。
		金融業（営業担当）	・全体的に人手不足による人件費の負担が企業収益を圧迫し、当面景気は良くなる見込みはない。
不動産業（従業員）	・ホテル部門の稼働率が横ばいに推移しており、今後も継続する。		
新聞社〔広告〕（担当者）	・九州ふっこう割に関連して、旅行商品や自治体の広告出稿が活発になる見込みで、若干上向きになる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（従業員）	・7月の新聞折込枚数は、前年同月比89%と11ポイントの減少となっている。熊本地震以後政府の復興支援対策で観光面はにぎわいを見せ始めたが、消費生活の活性化はまだまだである。地元企業の販促費が増加しないように閉塞感が重苦しく漂っている。
		経営コンサルタント	・こちらから客への働きかけを工夫しない限り大きな変化は望めない。大きな課題である。
		経営コンサルタント（社員）	・客数が1割減である。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・問い合わせ件数に変化がない。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	・特別なイベントもなく、現状と変わらない。九州ふっこう割が発売され、当県の景気が良くなって欲しい。取引先からの返済猶予等の相談はない。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・九州の農作物は冬春がメインで、夏場については水稲と土作りがメインになるので、物はほとんど動かない。そのため、景気としては流通が止まるのでやや悪くなる。その分、観光で良い方向に推移するかもしれないが、熊本地震の影響もある。
		金属製品製造業（事業統括）	・客先の受注残は大きく減少しており、第2四半期の売上見込みは厳しい。
		一般機械器具製造業（経営者）	・良くなる要因が全くない。株安、為替、英国のEU離脱問題、中国の問題、どれを取っても良くなる要素がないので米国頼みだが、米国も今は経済よりも大統領選挙優先であり、動きが非常に悪い。世界的な傾向なので日本だけが特別良くなることはない。
		その他製造業（産業廃物処理業）	・一時相場が持ち直したものの、円高につられて下落傾向である。客の生産量を見ても減少が継続している。金、原油等も下落予想が出ている。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・市町村のプロポーザルによる業務委託の発注は、終了に近づいており、時期的に区切りがついている状況で、新たな発注は少なくなってきている。このため、これまで業務を受注できていない中小規模の会社は、新規の業務の受注が難しいことから、景気は悪くなる。
悪くなる	-	-	
雇用 関連 (九州)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・最近、社員教育の依頼が増えてきている。企業が人員育成に目を向け始めたのは余力ができてきたからだといえる。
		職業安定所（職員）	・事業所訪問の結果、秋口から年末にかけて、熊本地震復興事業関連の仕事が増えてくと回答した企業が、建設業や製造業のなかでいくつかあった。
		民間職業紹介機関（社員）	・熊本は復興特需で終わるか長期的になるか不明だが、月を追うごとに少しずつ求人が増加傾向である。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・労働契約法改正や労働者派遣法改正の影響が出始める2018年までにはまだ時期がある。
		人材派遣会社（社員）	・お中元の仕事も終わり、落ち着く時期である。下期に向けて入替えがあれば依頼があるかもしれないが、自社調整をする企業も出てきているので、見込めない。
		人材派遣会社（社員）	・派遣期間の更新確認が多い月にあたるため、求人数、求職者数ともに変動があるが、求人数が増加しても求職者との条件が合わず、契約確定までに時間を要する場合があります。景気状況としてみると変動は少ない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・引き続き、外国客船の寄港が順調で、夏休みに入りアジアからの観光客が商業施設、観光施設にあふれている。また熊本地震の復興支援もあり、悪くなる状況はない。
		職業安定所（所長）	・求職者が減り、新規求人が増える傾向は当面変わらない。
		職業安定所（職員）	・被災した事業所が復旧している段階ではあるが、全体として良くなるとまでは言えない。
職業安定所（職業紹介）		・一部には弱さも見られるが、全体的には有効求人倍率が今後も高い水準で推移する。新規高卒求人も増加傾向にある。	
学校〔大学〕（就職支援業務）		・各企業は順調に採用活動を行っており、採用活動も落ち着きを見せているが、景気そのものと関係があるとは明言できない。	
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・求人数の回復基調がみえず、どちらかというと採用を手控えている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・下期に向けて、新規の需要なく、産休代替・育児休業など限定的な活用になる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・世界経済情勢に影響される。
	悪くなる	民間職業紹介機関（支店長）	・一般労働者派遣の求人が伸びない。

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・集客力の高い数年に一度のイベントがあるので観光客が増えると思う。
		通信会社（店長）	・9～10月に話題性のある新機種の発売があると予想される。市場が活気付き景気も上向きになるとみている。
		ゴルフ場（経営者）	・多分例年並みになるかと思われる。
	変わらない	一般小売店〔菓子〕	・材料が特に見受けられない。
		コンビニ（経営者）	・インバウンド効果が無くなり、単価ダウンがこれからも続くともみている。
		コンビニ（エリア担当）	・天候も良好でこの先も観光客も含めた増収も見込める。たばこを除いた単価も前年を上回っており、陰りはまだまだ見られない。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は、セールをしているが、売上アップにはつながっていない。元々セールでは利益が出ないものなので、収益増にはならず、悩みものではあるが、セールで商品の消化ができれば良い。しかし、まだまだそれにつながっていない状況である。景気はまだまだ良くなる気配は見えない。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・特に大きく変わるような要因は見当たらない。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	・今後2～3か月後の予約状況から推測される客室稼働率はおおむね順調で、台風の発生による大きなキャンセルが出なければ、今月同様好調に推移する見込みである。
		旅行代理店（マネージャー）	・旅行素材の宿泊や輸送関連が値上がりが続いている。旅行業界でもインバウンドの恩恵のある会社とそうでない会社が二極化しているようにみられる。
		住宅販売会社（代表取締役）	・現場代理人や現場職人の不足感もあり、完工高を伸ばそうにもなかなか難しい状況である。当面は、現状の維持が見込まれる。
	やや悪くなる	百貨店（店舗企画）	・今月が比較的好調だったことから、今月に比べるとやや苦戦するとみているが、前年は捉えることができると考えている。理由として、台湾観光客への誘客アプローチをスタートさせ、インバウンド効果を維持できるよう強化するからである。
		スーパー（販売企画）	・前年はプレミアム付商品券の特需があったが、今年は無いので、やや悪くなるのではないかと。
		住宅販売会社（営業担当）	・前月行ったイベントへの来場客数が、5月開催イベント来場客数に対し20%減少している。
悪くなる	商店街（代表者）	・クルーズ船などが入ってくると観光客は市場の中を歩くが、なかなか金は使ってもらえないのが現状である。大型店を利用する観光客も結構いるらしいが、市場にはなかなか金が落ちないようである。市場の中でも今流行の立ち飲み屋にはにぎわいがあるが、全体的な売上は大変厳しい状況下であり、商店街の個店については、今後も大変厳しい状況が続くとみている。	
	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・これから8～9月と最大の繁忙期を迎えるが、店舗スタッフが全く足りていない。そのため客に迷惑をかけないように、入店規制をかけて入客を抑えた営業をしないといけないので目標の売上を上げることができない。かなり高い給与、時給を提示しているが全く採用が採れない。補充で外国人アルバイトも頑張っているが限界がある。コンセプト、品質の維持には専属の調理師、ホールスタッフが必要だが、現在全く見通しが立っていない。	
企業 動向 関連 (沖縄)	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	食料品製造業（総務）	・消費者の慎重姿勢が続くようにみられる。
窯業・土石製品製造業（経営者）		・横ばいの見通しである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・新築住宅及びリフォームの工事の引き合い件数が引き続き堅調である。
		輸送業（代表者）	・観光客でにぎわっている先島地区だが、リゾート関連の民間工事が本格化するには時間が掛かる。公共工事も大きな変化は無く、与那国の陸上自衛隊工事も峠を過ぎている。クルーズ船の影響で離島でのバースの活用がしにくく、運航が遅れ気味である。
		輸送業（営業）	・新規外食チェーンやコンビニ2社、大型ディスカウントストアの出店や、新築住宅関連建材などの取扱物量が衣料品を除き増えている。しかし、それに対応する人材が不足しており、残業、求人コストも大幅に増えているので収支上は引き続き厳しい状況である。また労務管理上、収益の悪い既存荷主の解約や検討もせざるを得ない。
		広告代理店（営業担当）	・県内企業の売上は比較的好調に推移しているものの、収益にはばらつきが生じているように感じる。したがって、販促投資も全体としては現状維持になると推察される。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	コピーサービス業（営業担当）	・良くなる要素が無い。
雇用 関連 (沖縄)	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集室）	・毎年盆の時期は企業や従業員の休みが増え、新規求人募集は控える傾向にあるので、求人件数はガクンと落ちると思われる。9月～10月になると下半期がスタートすることもあり、転職市場は大きく動き、求人件数が増加すると思われる。
	変わらない	人材派遣会社（総務担当）	・従来から求人依頼がある企業も、新規や増員での求人ではなく、交代要員の補充にとどめるなど景気動向を見ながら慎重に採用しているようにみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新卒採用求人の動きは、今後、県内中小企業が活発になってくるとみられるが、景気の向上を感じさせるような特別な状況までは予想できない。前年と同程度の動きとみられる。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（営業担当）	・求職者数が減少する。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・良くなりそうな話題が無い。
	悪くなる	-	-